

スピネトラムの推定摂取量（単位：μg／人／day）

食品名	基準値案 (ppm)	暴露評価に用 いた数値 (ppm)	国民全体 (1歳以上) TMDI	国民全体 (1歳以上) EDI	幼小児 (1～6歳) TMDI	幼小児 (1～6歳) EDI	妊婦 TMDI	妊婦 EDI	高齢者 (65歳以上) TMDI	高齢者 (65歳以上) EDI
ぶどう	2	0.955	17.4	8.3	16.4	7.8	40.4	19.3	18.0	8.6
かき	0.3	0.096	3.0	1.0	0.5	0.2	1.2	0.4	5.5	1.7
バナナ	0.3	0.75	4.0	9.9	4.6	11.4	4.9	12.2	5.7	14.2
パパイヤ	0.3	0.029	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
アボカド	0.3	0.02	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
パイナップル	0.02	0.085	0.0	0.1	0.0	0.2	0.0	0.1	0.0	0.1
グアバ	0.3	0.029	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
マンゴー	0.3	0.096	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
パッションフルーツ	0.4	0.12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他の果実	0.5	0.192	0.6	0.2	0.2	0.1	0.5	0.2	0.9	0.3
補果	0.01	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
きんなん	0.01	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
くり	0.1	0.084	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1
ペカン	0.1	0.084	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
アーモンド	0.1	0.084	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
くるみ	0.1	0.084	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他のナッツ類	0.1	0.084	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
茶	70	0.608	462.0	4.0	70.0	0.6	259.0	2.2	658.0	5.7
その他のスパイス	3	1.28	0.3	0.1	0.3	0.1	0.3	0.1	0.6	0.3
その他のハーブ	8	1.618	7.2	1.5	2.4	0.5	0.8	0.2	11.2	2.3
陸棲哺乳類の肉類	1	筋肉 0.005 脂肪 0.025	57.7	0.5	43.1	0.4	64.4	0.6	41.0	0.4
陸棲哺乳類の食用部分（肉類除く）	0.1	0.005	0.1	0.0	0.1	0.0	0.5	0.0	0.1	0.0
陸棲哺乳類の乳類	0.02	0.004	5.3	1.1	6.6	1.3	7.3	1.5	4.3	0.9
家さんの肉類	0.01	0.0004	0.2	0.0	0.2	0.0	0.2	0.0	0.2	0.0
家さんの卵類	0.01	0.0004	0.4	0.0	0.3	0.0	0.5	0.0	0.4	0.0
計			1337.7	399.1	503.8	178.9	1114.1	384.4	1692.1	511.9
ADI比（％）			101.2	30.2	127.2	45.2	79.4	27.4	125.7	38.0

TMDI：理論最大1日摂取量（Theoretical Maximum Daily Intake）
TMDI試算法：基準値案×各食品の平均摂取量
EDI：推定1日摂取量（Estimated Daily Intake）
EDI試算法：作物残留試験成績の平均値×各食品の平均摂取量

「陸棲哺乳類の肉類」については、TMDI試算では、牛・豚・その他の陸棲哺乳類に属する動物の筋肉及び脂肪の摂取量にその範囲の基準値案で最も高い値を乗じた。また、EDI試算では、畜産物中の平均的な残留農薬濃度を用い、摂取量の筋肉及び脂肪の比率をそれぞれ80%及び20%として試算した。

国際基準を参照したものについては、JMPRの評価に用いられた残留試験データを用いてEDI試算をした。

ねぎ（リーキを含む。）、ブラックベリー、その他のベリー類果実及びバナナの「暴露評価に用いた数値」は、それぞれの基準値案に以下の補正係数（スピネトラム-J、スピネトラム-L、代謝物B及び代謝物Cの合計濃度/スピネトラム-J及びスピネトラム-Lの合計濃度）を乗じた値でEDI試算をした。

- ・ねぎ（リーキを含む。）：キャベツの作物残留試験成績（スピネトラム、PHI：1日）より算出した補正係数（1.70）
- ・ブラックベリー及びその他のベリー類果実：なすの作物残留試験成績（スピネトラム、PHI：1日）より算出した補正係数（1.60）
- ・バナナ：ミニトマトの作物残留試験成績（スピネトラム、PHI：21日）より算出した補正係数（2.50）

(参考)

これまでの経緯

平成20年	2月26日	インポートトレランス申請（グレープフルーツ、レモン等）
平成20年	3月 3日	厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
平成21年	1月15日	食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
平成21年	6月18日	農林水産省から厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準設定依頼（新規：水稻、りんご、なし等）
平成21年	8月 4日	厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
平成22年	2月25日	食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
平成22年	7月30日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会
平成23年	2月16日	残留農薬基準告示
平成23年	3月29日	初回農薬登録
平成23年	10月19日	農林水産省から厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準設定依頼（適用拡大：だいこん、はくさい等）
平成23年	11月16日	インポートトレランス申請（大豆、ばれいしょ等）
平成24年	1月19日	厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
平成24年	6月22日	食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
平成25年	4月24日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会
平成25年	10月22日	残留農薬基準告示（拡大申請について）
平成25年	11月29日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会
平成26年	10月 3日	残留農薬基準告示（IT 申請について）
平成25年	6月 5日	農林水産省から厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準設定依頼（適用拡大：大豆、かんしょ等）
平成25年	8月19日	厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
平成25年	11月11日	食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
平成26年	5月23日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会
平成27年	2月20日	残留農薬基準告示

平成27年12月16日	農林水産省から厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準設定依頼（適用拡大：うめ）
平成28年 5月10日	厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
平成28年11月22日	食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
平成29年 5月17日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会
平成30年 2月28日	残留農薬基準告示
平成29年12月 8日	農林水産省から厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準設定依頼（適用拡大：さといも、しゅんぎく等）
平成30年 4月18日	厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
平成30年 6月26日	食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
平成30年12月26日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会
平成30年 8月16日	農林水産省から厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準設定依頼（適用拡大：未成熟とうもろこし、ぶどう等）
令和 2年 7月28日	厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
令和 2年 9月29日	食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
令和 3年 1月27日	薬事・食品衛生審議会へ諮問
令和 3年 5月18日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会

● 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会

[委員]

- 穂山 浩 学校法人星薬科大学薬学部薬品分析化学研究室教授
- 石井 里枝 埼玉県衛生研究所副所長（兼）食品微生物検査室長
- 井之上 浩一 学校法人立命館立命館大学薬学部薬学科臨床分析化学研究室教授
- 大山 和俊 一般財団法人残留農薬研究所化学部長
- 折戸 謙介 学校法人麻布獣医学園理事（兼）麻布大学獣医学部生理学教授
- 加藤 くみ子 学校法人北里研究所北里大学薬学部分析化学教室教授
- 魏 民 公立大学法人大阪大阪市立大学大学院医学研究科
環境リスク評価学准教授
- 佐藤 洋 国立大学法人岩手大学農学部共同獣医学科比較薬理毒性学研究室教授
- 佐野 元彦 国立大学法人東京海洋大学学術研究院海洋生物資源学部門教授
- 須恵 雅之 学校法人東京農業大学応用生物科学部農芸化学科
生物有機化学研究室准教授
- 瀧本 秀美 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所
国立健康・栄養研究所栄養疫学・食育研究部長
- 中島 美紀 国立大学法人金沢大学ナノ生命科学研究所
薬物代謝安全性学研究室教授
- 永山 敏廣 学校法人明治薬科大学薬学部特任教授
- 根本 了 国立医薬品食品衛生研究所食品部第一室長
- 野田 隆志 一般社団法人日本植物防疫協会信頼性保証室付技術顧問
- 二村 睦子 日本生活協同組合連合会常務執行役員
- (○：部会長)

答申（案）

スピネトラム

今回基準値を設定するスピネトラムとは、スピネトラム-J及びスピネトラム-Lの和をいう。

食品名	残留基準値 ppm
米（玄米をいう。）	0.1
とうもろこし	0.02
大豆	0.1
小豆類 ^{注1)}	0.1
えんどう	0.1
そら豆	0.1
その他の豆類 ^{注2)}	0.1
ばれいしょ	0.1
さといも類（やつがしらを含む。）	0.02
かんしょ	0.1
てんさい	0.1
だいこん類（ラディッシュを含む。）の根	0.1
だいこん類（ラディッシュを含む。）の葉	10
かぶ類の根	0.2
かぶ類の葉	3
クレソン	8
はくさい	1
キャベツ	2
芽キャベツ	2
ケール	5
こまつな	10
きょうな	10
チンゲンサイ	10
カリフラワー	2
ブロッコリー	2
その他のあぶらな科野菜 ^{注3)}	10
エンダイブ	8
しゅんぎく	15
レタス（サラダ菜及びちしやを含む。）	10
その他のきく科野菜 ^{注4)}	20
たまねぎ	0.1
ねぎ（リーキを含む。）	2
にんにく	0.1
にら	2
アスパラガス	0.3
その他のゆり科野菜 ^{注5)}	2
にんじん	0.02

食品名	残留基準値 ppm
パセリ	8
セロリ	8
その他のせり科野菜 ^{注6)}	8
トマト	0.7
ピーマン	0.7
なす	0.2
その他のなす科野菜 ^{注7)}	2
きゅうり（ガーキンを含む。）	0.3
かぼちゃ（スカッシュを含む。）	0.3
しろうり	0.3
すいか（果皮を含む。）	0.08
メロン類果実	0.1
まくわうり（果皮を含む。）	0.01
その他のうり科野菜 ^{注8)}	0.3
ほうれんそう	10
未成熟えんどう	2
未成熟いんげん	1
えだまめ	0.5
その他の野菜 ^{注9)}	8
みかん（外果皮を含む。）	0.5
なつみかんの果実全体	0.3
レモン	0.7
オレンジ（ネーブルオレンジを含む。）	0.7
グレープフルーツ	0.7
ライム	0.7
その他のかんきつ類果実 ^{注10)}	0.7
りんご	0.5
日本なし	0.5
西洋なし	0.5
マルメロ	0.2
びわ（果梗を除き、果皮及び種子を含む。）	0.05
もも（果皮及び種子を含む。）	0.7
ネクタリン	0.5
あんず（アプリコットを含む。）	0.8
すもも（プルーンを含む。）	0.2
うめ	0.8
おうとう（チェリーを含む。）	0.5
いちご	2
ラズベリー	0.8
ブラックベリー	0.7
ブルーベリー	0.5
クランベリー	0.01
ハックルベリー	0.2

食品名	残留基準値 ppm
その他のベリー類果実 ^{注11)}	0.7
ぶどう	2
かき	0.3
バナナ	0.3
パパイヤ	0.3
アボカド	0.3
パイナップル	0.02
グアバ	0.3
マンゴー	0.3
パッションフルーツ	0.4
その他の果実 ^{注12)}	0.5
綿実	0.01
ぎんなん	0.01
くり	0.1
ペカン	0.1
アーモンド	0.1
くるみ	0.1
その他のナッツ類 ^{注13)}	0.1
茶	70
その他のスパイス ^{注14)}	3
その他のハーブ ^{注15)}	8
牛の筋肉	1
豚の筋肉	1
その他の陸棲哺乳類に属する動物 ^{注16)} の筋肉	1
牛の脂肪	1
豚の脂肪	1
その他の陸棲哺乳類に属する動物の脂肪	1
牛の肝臓	0.1
豚の肝臓	0.1
その他の陸棲哺乳類に属する動物の肝臓	0.1
牛の腎臓	0.1
豚の腎臓	0.1
その他の陸棲哺乳類に属する動物の腎臓	0.1
牛の食用部分 ^{注17)}	0.1
豚の食用部分	0.1
その他の陸棲哺乳類に属する動物の食用部分	0.1
乳	0.02
鶏の筋肉	0.01
その他の家きん ^{注18)} の筋肉	0.01
鶏の脂肪	0.01

食品名	残留基準値 ppm
その他の家きんの脂肪	0.01
鶏の肝臓	0.01
その他の家きんの肝臓	0.01
鶏の腎臓	0.01
その他の家きんの腎臓	0.01
鶏の食用部分	0.01
その他の家きんの食用部分	0.01
鶏の卵	0.01
その他の家きんの卵	0.01

- 注1) 「小豆類」には、いんげん、ささげ、サルタニ豆、サルタピア豆、バター豆、ペギア豆、ホワイト豆、ライマ豆及びレンズ豆を含む。
- 注2) 「その他の豆類」とは、豆類のうち、大豆、小豆類、えんどう、そら豆、らっかせい及びスパイス以外のものをいう。
- 注3) 「その他のあぶらな科野菜」とは、あぶらな科野菜のうち、だいこん類（ラディッシュを含む。）の根、だいこん類（ラディッシュを含む。）の葉、かぶ類の根、かぶ類の葉、西洋わさび、クレソン、はくさい、キャベツ、芽キャベツ、ケール、こまつな、きょうな、チンゲンサイ、カリフラワー、ブロッコリー及びハーブ以外のものをいう。
- 注4) 「その他のきく科野菜」とは、きく科野菜のうち、ごぼう、サルシフィー、アーティチョーク、チコリ、エンダイブ、しゅんぎく、レタス（サラダ菜及びちしやを含む。）及びハーブ以外のものをいう。
- 注5) 「その他のゆり科野菜」とは、ゆり科野菜のうち、たまねぎ、ねぎ（リーキを含む。）、にんにく、にら、アスパラガス、わけぎ及びハーブ以外のものをいう。
- 注6) 「その他のせり科野菜」とは、せり科野菜のうち、にんじん、パースニップ、パセリ、セロリ、みつば、スパイス及びハーブ以外のものをいう。
- 注7) 「その他のなす科野菜」とは、なす科野菜のうち、トマト、ピーマン及びなす以外のものをいう。
- 注8) 「その他のうり科野菜」とは、うり科野菜のうち、きゅうり（ガーキンを含む。）、かぼちゃ（スカッシュを含む。）、しろうり、すいか、メロン類果実及びまくわうり以外のものをいう。
- 注9) 「その他の野菜」とは、野菜のうち、いも類、てんさい、さとうきび、あぶらな科野菜、きく科野菜、ゆり科野菜、せり科野菜、なす科野菜、うり科野菜、ほうれんそう、たけのこ、オクラ、しょうが、未成熟えんどう、未成熟いんげん、えだまめ、きのこ類、スパイス及びハーブ以外のものをいう。
- 注10) 「その他のかんきつ類果実」とは、かんきつ類果実のうち、みかん、なつみかん、なつみかんの外果皮、なつみかんの果実全体、レモン、オレンジ（ネーブルオレンジを含む。）、グレープフルーツ、ライム及びスパイス以外のものをいう。
- 注11) 「その他のベリー類果実」とは、ベリー類果実のうち、いちご、ラズベリー、ブラックベリー、ブルーベリー、クランベリー及びハックルベリー以外のものをいう。
- 注12) 「その他の果実」とは、果実のうち、かんきつ類果実、りんご、日本なし、西洋なし、マルメロ、びわ、もも、ネクタリン、あんず（アプリコットを含む。）、すもも（プルーンを含む。）、うめ、おうとう（チェリーを含む。）、ベリー類果実、ぶどう、かき、バナナ、キウイー、パパイヤ、アボカド、パイナップル、グアバ、マンゴー、パッションフルーツ、なつめやし及びスパイス以外のものをいう。
- 注13) 「その他のナッツ類」とは、ナッツ類のうち、ぎんなん、くり、ペカン、アーモンド及びくるみ以外のものをいう。
- 注14) 「その他のスパイス」とは、スパイスのうち、西洋わさび、わさびの根茎、にんにく、とうがらし、パプリカ、しょうが、レモンの果皮、オレンジ（ネーブルオレンジを含む。）の果皮、ゆずの果皮及びごまの種子以外のものをいう。
- 注15) 「その他のハーブ」とは、ハーブのうち、クレソン、にら、パセリの茎、パセリの葉、セロリの茎及びセロリの葉以外のものをいう。
- 注16) 「その他の陸棲哺乳類に属する動物」とは、陸棲哺乳類に属する動物のうち、牛及び豚以外のものをいう。
- 注17) 「食用部分」とは、食用に供される部分のうち、筋肉、脂肪、肝臓及び腎臓以外の部分をいう。
- 注18) 「その他の家きん」とは、家きんのうち、鶏以外のものをいう。

農薬評価書

スピネトラム (第7版)

2020年9月

食品安全委員会

目 次

	頁
○ 審議の経緯	3
○ 食品安全委員会委員名簿	5
○ 食品安全委員会農薬専門調査会専門委員名簿	6
○ 要 約	10
 I. 評価対象農薬の概要	11
1. 用途	11
2. 有効成分の一般名	11
3. 化学名	11
4. 分子式	12
5. 分子量	13
6. 構造式	13
7. 開発の経緯	13
 II. 安全性に係る試験の概要	14
1. 動物体内運命試験	15
(1) ラット（スピネトラム-J）	15
(2) ラット（スピネトラム-L）	20
(3) ヤギ	26
(4) ニワトリ	27
2. 植物体内運命試験	29
(1) 水稻	29
(2) りんご	30
(3) かぶ	31
(4) レタス	32
3. 土壌中運命試験	34
(1) 好氣的湛水土壌中運命試験	34
(2) 好氣的土壌中運命試験	35
(3) 土壌表面光分解試験	35
(4) 土壌吸着試験	36
4. 水中運命試験	36
(1) 加水分解試験	36
(2) 水中光分解試験（滅菌緩衝液）	37
(3) 水中光分解試験（滅菌自然水）	37
5. 土壌残留試験	38
6. 作物等残留試験	38

(1) 作物残留試験	38
(2) 後作物残留試験	39
(3) 畜産物残留試験	40
(4) 推定摂取量	41
7. 一般薬理試験	41
8. 急性毒性試験	42
(1) 急性毒性試験	42
(2) 急性神経毒性試験	43
9. 眼・皮膚に対する刺激性及び皮膚感作性試験	44
(1) 原体①	44
(2) 原体②	44
10. 亜急性毒性試験	44
(1) 90日間亜急性毒性試験①(ラット)	44
(2) 90日間亜急性毒性試験②(ラット)	47
(3) 90日間亜急性毒性試験(マウス)	48
(4) 90日間亜急性毒性試験(イヌ)	49
11. 慢性毒性試験及び発がん性試験	50
(1) 1年間慢性毒性試験(イヌ)	50
(2) 2年間慢性毒性/発がん性併合試験(ラット)	51
(3) 18か月間発がん性試験(マウス)	52
(4) 1年間慢性神経毒性試験(ラット)	53
12. 生殖発生毒性試験	54
(1) 2世代繁殖試験(ラット)	54
(2) 発生毒性試験(ラット)	55
(3) 発生毒性試験(ウサギ)	56
13. 遺伝毒性試験	57
III. 食品健康影響評価	59
▪ 別紙1：代謝物/分解物略称	65
▪ 別紙2：検査値等略称	67
▪ 別紙3：作物残留試験成績(国内)	68
▪ 別紙4：作物残留試験成績(海外)	85
▪ 別紙5：畜産物残留試験成績(泌乳牛)	90
▪ 別紙6：推定摂取量	95
▪ 参照	98

＜審議の経緯＞

－第1版関係－

- 2008年 2月 26日 インポートトレランス設定の要請（グレープフルーツ、レモン等）
- 2008年 3月 3日 厚生労働大臣から残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請（厚生労働省発食安第0303013号）、関係書類の接受（参照1～46）
- 2008年 3月 27日 第229回食品安全委員会（要請事項説明）
- 2008年 7月 30日 第14回農薬専門調査会確認評価第二部会
- 2008年 11月 18日 第45回農薬専門調査会幹事会
- 2008年 12月 4日 第265回食品安全委員会（報告）
- 2008年 12月 4日 から2009年1月2日まで 国民からの意見・情報の募集
- 2009年 1月 13日 農薬専門調査会座長から食品安全委員会委員長へ報告
- 2009年 1月 15日 第269回食品安全委員会（報告）
（同日付け厚生労働大臣へ通知）（参照47）

－第2版関係－

- 2009年 6月 18日 農林水産省から厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準値設定依頼（新規：水稻、りんご、なし等）
- 2009年 8月 4日 厚生労働大臣から残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請（厚生労働省発食安0804第6号）、関係書類の接受（参照48～50）
- 2009年 8月 6日 第297回食品安全委員会（要請事項説明）
- 2010年 1月 20日 第59回農薬専門調査会幹事会
- 2010年 2月 23日 農薬専門調査会座長から食品安全委員会委員長へ報告
- 2010年 2月 25日 第321回食品安全委員会（報告）
（同日付け厚生労働大臣へ通知）（参照51）
- 2011年 2月 16日 残留農薬基準告示（参照52）
- 2011年 3月 29日 初回農薬登録

－第3版関係－

- 2011年 10月 19日 農林水産省から厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準値設定依頼（適用拡大：だいこん、はくさい等）
- 2011年 11月 16日 インポートトレランス設定の要請（大豆、ばれいしょ等）
- 2012年 1月 19日 厚生労働大臣から残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請（厚生労働省発食安0119第3号）
- 2012年 1月 23日 関係書類の接受（参照53～56）
- 2012年 1月 26日 第416回食品安全委員会（要請事項説明）

2012年 6月 21日 第436回食品安全委員会（審議）
 2012年 6月 22日 厚生労働大臣へ通知（参照 58）
 2013年 10月 22日 残留農薬基準告示（参照 59）
 2014年 10月 3日 残留農薬基準告示（参照 64）

－第4版関係－

2013年 6月 5日 農林水産省から厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び
 基準値設定依頼（適用拡大：大豆、かんしょ等）
 2013年 8月 19日 厚生労働大臣から残留基準設定に係る食品健康影響評価に
 ついて要請（厚生労働省発食安 0819 第4号）
 2013年 8月 20日 関係書類の接受（参照 60～62）
 2013年 8月 26日 第486回食品安全委員会（要請事項説明）
 2013年 11月 11日 第493回食品安全委員会（審議）
 （同日付け厚生労働大臣へ通知）（参照 63）
 2015年 2月 20日 残留農薬基準告示（参照 65）

－第5版関係－

2015年 12月 16日 農林水産省から厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び
 基準値設定依頼（適用拡大：うめ）
 2016年 5月 10日 厚生労働大臣から残留基準設定に係る食品健康影響評価に
 ついて要請（厚生労働省発生食 0510 第5号）
 2016年 5月 11日 関係書類の接受（参照 66～75）
 2016年 5月 17日 第606回食品安全委員会（要請事項説明）
 2016年 9月 7日 第56回農薬専門調査会評価第二部会
 2016年 9月 28日 第140回農薬専門調査会幹事会
 2016年 10月 11日 第625回食品安全委員会（報告）
 2016年 10月 12日から11月10日まで 国民からの意見・情報の募集
 2016年 11月 16日 農薬専門調査会座長から食品安全委員会委員長へ報告
 2016年 11月 22日 第630回食品安全委員会（報告）
 （同日付け厚生労働大臣へ通知）（参照 76）
 2018年 2月 28日 残留農薬基準告示（参照 77）

－第6版関係－

2017年 12月 8日 農林水産省から厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び
 基準値設定依頼（適用拡大：さといも、しゅんぎく等）
 2018年 4月 18日 厚生労働大臣から残留基準設定に係る食品健康影響評価に
 ついて要請（厚生労働省発生食 0418 第25号）、関係書類
 の接受（参照 78～83）

2018年 4月 24日 第694回食品安全委員会（要請事項説明）
 2018年 6月 13日 第160回農薬専門調査会幹事会
 2018年 6月 20日 農薬専門調査会座長から食品安全委員会委員長へ報告
 2018年 6月 26日 第702回食品安全委員会（報告）
 （同日付け厚生労働大臣へ通知）（参照 84）
 2019年 9月 20日 残留農薬基準告示（参照 85）

－第7版関係－

2018年 8月 16日 農林水産省から厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び
 基準値設定依頼（適用拡大：未成熟とうもろこし、ぶどう等）
 2020年 7月 28日 厚生労働大臣から残留基準設定に係る食品健康影響評価に
 ついて要請（厚生労働省発生食 0728 第4号）、関係書類の
 接受（参照 86～88）
 2020年 8月 4日 第786回食品安全委員会（要請事項説明）
 2020年 9月 29日 第791回食品安全委員会（審議）
 （同日付け厚生労働大臣へ通知）

＜食品安全委員会委員名簿＞

(2009年6月30日まで)	(2011年1月6日まで)	(2012年6月30日まで)
見上 彪（委員長）	小泉直子（委員長）	小泉直子（委員長）
小泉直子（委員長代理*）	見上 彪（委員長代理*）	熊谷 進（委員長代理*）
長尾 拓	長尾 拓	長尾 拓
野村一正	野村一正	野村一正
畑江敬子	畑江敬子	畑江敬子
廣瀬雅雄**	廣瀬雅雄	廣瀬雅雄
本間清一	村田容常	村田容常
*：2007年2月1日から	*：2009年7月9日から	*：2011年1月13日から
**：2007年4月1日から		

(2015年6月30日まで)	(2017年1月6日まで)	(2018年6月30日まで)
熊谷 進（委員長）	佐藤 洋（委員長）	佐藤 洋（委員長）
佐藤 洋（委員長代理）	山添 康（委員長代理）	山添 康（委員長代理）
山添 康（委員長代理）	熊谷 進	吉田 緑
三森国敏（委員長代理）	吉田 緑	山本茂貴
石井克枝	石井克枝	石井克枝
上安平洌子	堀口逸子	堀口逸子
村田容常	村田容常	村田容常

(2018 年 7 月 1 日から)

佐藤 洋 (委員長)
 山本茂貴 (委員長代理)
 川西 徹
 吉田 緑
 香西みどり
 堀口逸子
 吉田 充

<食品安全委員会農薬専門調査会専門委員名簿>

(2008 年 3 月 31 日まで)

鈴木勝士 (座長)	三枝順三	西川秋佳**
林 真 (座長代理*)	佐々木有	布柴達男
赤池昭紀	代田真理子****	根岸友恵
石井康雄	高木篤也	平塚 明
泉 啓介	玉井郁巳	藤本成明
上路雅子	田村廣人	細川正清
臼井健二	津田修治	松本清司
江馬 眞	津田洋幸	柳井徳磨
大澤貫寿	出川雅邦	山崎浩史
太田敏博	長尾哲二	山手丈至
大谷 浩	中澤憲一	與語靖洋
小澤正吾	納屋聖人	吉田 緑
小林裕子	成瀬一郎***	若栗 忍

* : 2007 年 4 月 11 日から

** : 2007 年 4 月 25 日から

*** : 2007 年 6 月 30 日まで

**** : 2007 年 7 月 1 日から

(2010 年 2 月 25 日まで)

鈴木勝士 (座長)	佐々木有	平塚 明
林 真 (座長代理)	代田真理子	藤本成明
相磯成敏	高木篤也	細川正清
赤池昭紀	玉井郁巳	堀本政夫
石井康雄	田村廣人	松本清司
泉 啓介	津田修治	本間正充
今井田克己	津田洋幸	柳井徳磨

上路雅子
臼井健二
太田敏博
大谷 浩
小澤正吾
川合是彰
小林裕子
三枝順三***

長尾哲二
中澤憲一*
永田 清
納屋聖人
西川秋佳
布柴達男
根岸友恵
根本信雄

山崎浩史
山手丈至
與語靖洋
義澤克彦**
吉田 緑
若栗 忍

* : 2009 年 1 月 19 日まで

** : 2009 年 4 月 10 日から

*** : 2009 年 4 月 28 日から

(2018 年 3 月 31 日まで)

・幹事会

西川秋佳 (座長)
納屋聖人 (座長代理)
浅野 哲
小野 敦

三枝順三
代田眞理子
清家伸康
中島美紀

長野嘉介
林 真
本間正充*
與語靖洋

・評価第一部会

浅野 哲 (座長)
平塚 明 (座長代理)
堀本政夫 (座長代理)
相磯成敏
小澤正吾

栗形麻樹子
佐藤 洋
清家伸康
豊田武士
林 真

平林容子
本多一郎
森田 健
山本雅子
若栗 忍

・評価第二部会

三枝順三 (座長)
小野 敦 (座長代理)
納屋聖人 (座長代理)
腰岡政二
杉原数美

高木篤也
中島美紀
中島裕司
中山真義
根岸友恵

八田稔久
福井義浩
本間正充*
美谷島克宏
義澤克彦

・評価第三部会

西川秋佳 (座長)
長野嘉介 (座長代理)
與語靖洋 (座長代理)
石井雄二
太田敏博

加藤美紀
川口博明
久野壽也
篠原厚子
代田眞理子

高橋祐次
塚原伸治
中塚敏夫
増村健一
吉田 充

* : 2017 年 9 月 30 日まで

(2020 年 3 月 31 日まで)

・幹事会

西川秋佳 (座長)	代田眞理子	本間正充
納屋聖人 (座長代理)	清家伸康	松本清司
赤池昭紀	中島美紀	森田 健
浅野 哲	永田 清	與語靖洋
小野 敦	長野嘉介	

・評価第一部会

浅野 哲 (座長)	篠原厚子	福井義浩
平塚 明 (座長代理)	清家伸康	藤本成明
堀本政夫 (座長代理)	豊田武士	森田 健
赤池昭紀	中塚敏夫	吉田 充*
石井雄二		

・評価第二部会

松本清司 (座長)	栗形麻樹子	山手丈至
平林容子 (座長代理)	中島美紀	山本雅子
義澤克彦 (座長代理)	本多一郎	若栗 忍
小澤正吾	増村健一	渡邊栄喜
久野壽也		

・評価第三部会

小野 敦 (座長)	佐藤 洋	中山真義
納屋聖人 (座長代理)	杉原数美	八田稔久
美谷島克宏 (座長代理)	高木篤也	藤井咲子
太田敏博	永田 清	安井 学
腰岡政二		

・評価第四部会

本間正充 (座長)	加藤美紀	玉井郁巳
長野嘉介 (座長代理)	川口博明	中島裕司
與語靖洋 (座長代理)	代田眞理子	西川秋佳
乾 秀之	高橋祐次	根岸友恵

* : 2018 年 6 月 30 日まで

＜第 56 回農薬専門調査会評価第二部会専門参考人名簿＞

永田 清 松本清司

＜第 140 回農薬専門調査会幹事会専門参考人名簿＞

赤池昭紀 永田 清 松本清司
上路雅子

<第 160 回農薬専門調査会幹事会専門参考人名簿>

上路雅子	三枝順三	林	真
------	------	---	---

要 約

土壌放線菌 (*Saccharopolyspora spinosa*) 由来マクロライド系殺虫剤である「スピネトラム」(スピネトラム-J 及びスピネトラム-L の混合物、CAS No. 187166-40-1 及び 187166-15-0) について、各種資料を用いて食品健康影響評価を実施した。なお、今回、作物残留試験(未成熟とうもろこし、ぶどう等)の成績等が新たに提出された。

評価に用いた試験成績は、動物体内運命(ラット、ヤギ及びニワトリ)、植物体内運命(水稻、レタス等)、作物等残留、亜急性毒性(ラット、マウス及びイヌ)、慢性毒性(イヌ)、慢性毒性/発がん性併合(ラット)、発がん性(マウス)、2世代繁殖(ラット)、発生毒性(ラット及びウサギ)、遺伝毒性等である。

各種毒性試験結果から、スピネトラム投与による影響は、主に多数の臓器におけるリン脂質症と考えられるマクロファージ又は組織球の集簇及び空胞化、並びに上皮細胞の空胞化(甲状腺、腎臓、精巣上体等)であった。神経毒性、発がん性、催奇形性及び遺伝毒性は認められなかった。

ラットを用いた繁殖試験において難産が認められた。

各種試験結果から、農産物及び畜産物中のばく露評価対象物質をスピネトラム(親化合物のみ)と設定した。

各試験で得られた無毒性量のうち最小値は、イヌを用いた1年間慢性毒性試験の 2.49 mg/kg 体重/日であったことから、これを根拠として、安全係数 100 で除した 0.024 mg/kg 体重/日を許容一日摂取量(ADI)と設定した。

また、スピネトラムの単回経口投与等により生ずる可能性のある毒性影響に対する無毒性量のうち最小値は、ラットを用いた一般薬理試験の 600 mg/kg 体重であり、カットオフ値(500 mg/kg 体重)以上であったことから、急性参照用量(ARfD)は設定する必要がないと判断した。

I. 評価対象農薬の概要

1. 用途

殺虫剤

2. 有効成分の一般名

和名：スピネトラム

英名：spinetoram (ISO 名)

3. 化学名

IUPAC

和名：スピネトラム-J とスピネトラム-L の混合物

<スピネトラム-J>

(1*S*,2*R*,5*R*,7*R*,9*R*,10*S*,14*R*,15*S*,19*S*)-7-(6-デオキシ-3-*O*-エチル-2,4-ジ-*O*-メチル- α -L-マンノピラノシルオキシ)-15-[(2*R*,5*S*,6*R*)-5-(ジメチルアミノ) テトラヒドロ-6-メチルピラン-2-イルオキシ]-19-エチル-14-メチル-20-オキサテトラシクロ[10.10.0.0^{2,10}.0^{5,9}]ドコサ-11-エン-13,21-ジオン

<スピネトラム-L>

(1*S*,2*S*,5*R*,7*S*,9*S*,10*S*,14*R*,15*S*,19*S*)-7-(6-デオキシ-3-*O*-エチル-2,4-ジ-*O*-メチル- α -L-マンノピラノシルオキシ)-15-[(2*R*,5*S*,6*R*)-5-(ジメチルアミノ) テトラヒドロ-6-メチルピラン-2-イルオキシ]-19-エチル-4,14-ジメチル-20-オキサテトラシクロ[10.10.0.0^{2,10}.0^{5,9}]ドコサ-3,11-ジエン-13,21-ジオン

英名：mixture of spinetoram-J and spinetoram-L

<spinetoram-J>

(1*S*,2*R*,5*R*,7*R*,9*R*,10*S*,14*R*,15*S*,19*S*)-7-(6-deoxy-3-*O*-ethyl-2,4-di-*O*-methyl- α -L-mannopyranosyloxy)-15-[(2*R*,5*S*,6*R*)-5-(dimethylamino)tetrahydro-6-methylpyran-2-yloxy]-19-ethyl-14-methyl-20-oxatetracyclo[10.10.0.0^{2,10}.0^{5,9}]docosa-11-ene-13,21-dione

<spinetoram-L>

(1*S*,2*S*,5*R*,7*S*,9*S*,10*S*,14*R*,15*S*,19*S*)-7-(6-deoxy-3-*O*-ethyl-2,4-di-*O*-methyl- α -L-mannopyranosyloxy)-15-[(2*R*,5*S*,6*R*)-5-(dimethylamino)tetrahydro-6-methylpyran-2-yloxy]-19-ethyl-4,14-dimethyl-20-oxatetracyclo[10.10.0.0^{2,10}.0^{5,9}]docosa-3,11-diene-13,21-dione

CAS (No.187166-40-1、187166-15-0)

和名：スピネトラム-J とスピネトラム-L の混合物

<スピネトラム-J>

(2*R*,3*aR*,5*aR*,5*bS*,9*S*,13*S*,14*R*,16*aS*,16*bR*)-2-(6-デオキシ-3-*O*-エチル
-2,4-ジ-*O*-メチル- α -L-マンノピラノシルオキシ)-13-[(2*R*,5*S*,6*R*)-5-
(ジメチルアミノ) テトラヒドロ-6-メチルピラン-2-イルオキシ]-9-
エチル-2,3,3*a*,4,5,5*a*,5*b*,6,9,10,11,12,13,14,16*a*,16*b*-
ヘキサデカヒドロ-14-メチル-1*H*-as-インダセノ[3,2-*d*]
オキサシクロドデシン-7,15-ジオン

<スピネトラム-L>

(2*S*,3*aR*,5*aS*,5*bS*,9*S*,13*S*,14*R*,16*aS*,16*bS*)-2-(6-デオキシ-3-*O*-エチル
-2,4-ジ-*O*-メチル- α -L-マンノピラノシルオキシ)-13-[(2*R*,5*S*,6*R*)-5-
(ジメチルアミノ) テトラヒドロ-6-メチルピラン-2-イルオキシ]-9-
エチル-2,3,3*a*,5*a*,5*b*,6,9,10,11,12,13,14,16*a*,16*b*-
テトラデカヒドロ-4,14-ジメチル-1*H*-as-インダセノ[3,2-*d*]
オキサシクロドデシン-7,15-ジオン

英名：mixture of spinetoram-J and spinetoram-L

<spinetoram-J>

(2*R*,3*aR*,5*aR*,5*bS*,9*S*,13*S*,14*R*,16*aS*,16*bR*)-2-(6-deoxy-3-*O*-ethyl
-2,4-di-*O*-methyl- α -L-mannopyranosyloxy)-13-[(2*R*,5*S*,6*R*)-5-
(dimethylamino)tetrahydro-6-methylpyran-2-yloxy]-9-
ethyl-2,3,3*a*,4,5,5*a*,5*b*,6,9,10,11,12,13,14,16*a*,16*b*-
hexadecahydro-14-methyl-1*H*-as-indaceno[3,2-*d*]
oxacyclododecine-7,15-dione

<spinetoram-L>

(2*S*,3*aR*,5*aS*,5*bS*,9*S*,13*S*,14*R*,16*aS*,16*bS*)-2-(6-deoxy-3-*O*-ethyl
-2,4-di-*O*-methyl- α -L-mannopyranosyloxy)-13-[(2*R*,5*S*,6*R*)-5-
(dimethylamino)tetrahydro-6-methylpyran-2-yloxy]-9-
ethyl-2,3,3*a*,5*a*,5*b*,6,9,10,11,12,13,14,16*a*,16*b*-
tetradecahydro-4,14-dimethyl-1*H*-as-indaceno[3,2-*d*]
oxacyclododecine-7,15-dione

4. 分子式

スピネトラム-J : C₄₂H₆₉NO₁₀スピネトラム-L : C₄₃H₆₉NO₁₀

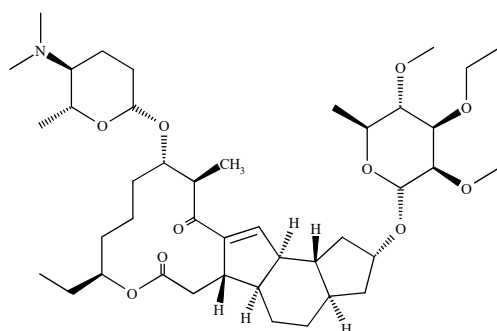
5. 分子量

スピネトラム-J : 748.02

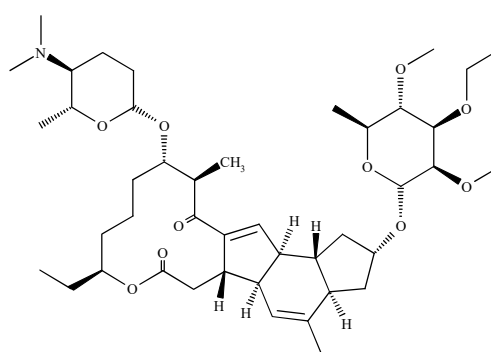
スピネトラム-L : 760.03

6. 構造式

スピネトラム-J



スピネトラム-L



7. 開発の経緯

スピネトラムは、米国ダウ・アグロサイエンス社がスピノシン誘導体の一連の探索研究から開発したマクロライド系殺虫剤である。土壌放線菌 (*Saccharopolyspora spinosa*) が産生する活性物質 (スピノシン) に由来し、昆虫の神経伝達系に関与すると考えられている。すなわち、シナプス後膜に存在するアセチルコリン受容体及び GABA 受容体のイオンチャンネルに作用し、神経の異常興奮を引き起こすと考えられている。野菜類、茶、果樹及び水稻を加害するチョウ目、ハエ目等の害虫に対して防除効果を示す。

スピネトラムは、スピネトラム-J 及びスピネトラム-L の混合物で、原体中にはそれぞれ 58.1% 及び 8.4% 以上 (2 成分の合計で 83.0% 以上) 含まれる。国内では 2011 年に初回農薬登録された。海外では 2008 年にニュージーランド及び米国で登録されている。

今回、農薬取締法に基づく農薬登録申請 (適用拡大：未成熟とうもろこし、ぶどう等) がなされている。

II. 安全性に係る試験の概要

各種運命試験〔II. 1～4〕は、表 1 及び 2 に示す標識体又はその混合物を用いて実施された。放射能濃度及び代謝物濃度は、特に断りがない場合は比放射能（質量放射能）からスピネトラムの濃度（mg/kg 又はμg/g）に換算した値として示した。

代謝物/分解物略称及び検査値等略称は、別紙 1 及び 2 に示されている。

表 1 標識体の略号及び標識位置

	略称	標識位置
①	^{14}C -スピネトラム-J	スピネトラム-J のマクロライド環の炭素を ^{14}C で均一に標識したもの
②	^{14}C -スピネトラム-J(D5)	スピネトラム-J のマクロライド環の炭素を ^{14}C で均一に標識し、さらにマンノピラノシドの 3 位のエトキシ基を重水素で標識したもの
③	^{14}C -スピネトラム-J(D2)	スピネトラム-J のマクロライド環の炭素を ^{14}C で均一に標識し、さらにインダセン環の 4 及び 5 位を重水素で標識したもの
④	^{14}C -スピネトラム-L	スピネトラム-L のマクロライド環の炭素を ^{14}C で均一に標識したもの
⑤	^{14}C -スピネトラム-L(D5)	スピネトラム-L のマクロライド環の炭素を ^{14}C で均一に標識し、さらにマンノピラノシドの 3 位のエトキシ基を重水素で標識したもの
⑥	^{14}C -スピネトラム-L(D2)	スピネトラム-L のマクロライド環の炭素を ^{14}C で均一に標識し、さらにインダセン環の 4 及び 5 位を重水素で標識したもの

表 2 投与及び処理に用いた混合物の組成

略号	組成
^{14}C -スピネトラム-J(I)	① : ② : ③ = 1 : 1 : 1
^{14}C -スピネトラム-J(II)	① : ② = 1 : 1
^{14}C -スピネトラム-L(I)	④ : ⑤ : ⑥ = 1 : 1 : 1
^{14}C -スピネトラム-L(II)	④ : ⑤ = 1 : 1

1. 動物体内運命試験

(1) ラット（スピネトラム-J）

① 吸収

a. 血中濃度推移

Fischer ラット（一群雌雄各 4 匹）に ^{14}C -スピネトラム-J(I)を 10 mg/kg 体重（以下〔1.〕において「低用量」という。）若しくは 100 mg/kg 体重（以下〔1.〕において「高用量」という。）で単回経口投与し、又は低用量で静脈内投与して、血中濃度推移について検討された。

血漿中薬物動態学的パラメータは表 3 に示されている。

単回経口投与したスピネトラム-J は速やかな吸収及び消失を示した。また、血漿中の $T_{\max}$ 、 $C_{\max}$ 及び $T_{1/2}$ に性差は認められなかった。（参照 2）

表 3 血漿中薬物動態学的パラメータ

投与方法	単回経口投与				静脈内投与	
投与量	10 mg/kg 体重		100 mg/kg 体重		10 mg/kg 体重	
性別	雄	雌	雄	雌	雄	雌
$T_{\max}$ (hr)	1.4	1.5	2.0	1.7		
$C_{\max}$ ($\mu\text{g/mL}$)	0.2	0.3	2.0	1.7		
$T_{1/2}$ (hr)	3.9	3.9	8.7	10.7	7.4	6.8
$\text{AUC}_{0-\infty}$ (hr $\cdot$ $\mu\text{g/mL}$)	1.6	1.8	21.8	22.0	5.8	6.1

／：適用せず

b. 吸収率

排泄試験〔1.(1)④〕における静脈内投与での糞中排泄率は 77.4%～85.1%であり、そのうち未変化のスピネトラム-J は 6.9%～16.6%であった。経口投与後の糞中の未変化のスピネトラム-J と代謝物の割合は、静脈内投与と類似していたことから、経口投与されたスピネトラム-J の一部は、吸収された後、未変化のスピネトラム-J として糞中に排泄されたと考えられた。

したがって、尿中総放射能、投与後 24 時間に排泄された糞中の代謝物由来の放射能及び投与後 24～168 時間に排泄された糞中の総放射能の合計から、低用量投与群における経口吸収率は、雄で 72%、雌で 77%と推定された。（参照 2）

② 分布

a. 分布①

血中濃度推移検討試験〔1.(1)①a.〕及び排泄試験〔1.(1)④〕で得られた組織及び臓器を用いた体内分布試験が実施された。

主要組織中の残留放射能濃度は表 4 に示されている。

投与 168 時間後の組織中放射能濃度は、いずれの投与群においても、雄では脂肪、腎臓、肝臓、リンパ節及び消化管で高く、雌ではそれらに加え卵巣で高かった。しかし、いずれの投与群の組織においても投与 168 時間後には 2%TAR 未満であった。低用量投与群と高用量投与群の組織中放射能濃度を比較すると、雌雄ともほぼ 10 倍の差が認められた。単回経口投与群及び反復経口投与群の組織中放射能濃度はほぼ同じであった。静脈内投与群の組織中放射能濃度は、多くの組織で単回経口投与群よりも約 3 倍高かった。（参照 2）

表 4 主要組織中の残留放射能濃度 (μg/g)

投与方法	投与量	性別	投与 168 時間後
単回経口	10 mg/kg 体重	雄	腎臓(0.364)、脂肪(0.289)、肝臓(0.158)、リンパ節(0.117)、消化管(0.114)、その他(0.1 未満)
		雌	脂肪(0.431)、腎臓(0.368)、肝臓(0.137)、消化管(0.12)、卵巣(0.122)、リンパ節(0.099)、子宮(0.099)、その他(0.09 未満)
	100 mg/kg 体重	雄	脂肪(11.8)、腎臓(4.06)、リンパ節(2.73)、副腎(1.89)、消化管(1.62)、脾臓(1.36)、肝臓(1.09)、その他(1.0 未満)
		雌	脂肪(12.2)、腎臓(3.54)、卵巣(2.53)、消化管(2.23)、リンパ節(2.13)、膀胱(1.89)、副腎(1.74)、皮膚(1.69)、脾臓(1.54)、肝臓(1.53)、その他(1.0 未満)
反復経口	10 mg/kg 体重/日	雄	脂肪(0.295)、腎臓(0.278)、肝臓(0.167)、リンパ節(0.113)、消化管(0.102)、その他(0.1 未満)
		雌	脂肪(0.488)、腎臓(0.271)、肝臓(0.144)、リンパ節(0.115)、消化管(0.105)、その他(0.1 未満)
静脈内	10 mg/kg 体重	雄	腎臓(0.891)、脂肪(0.879)、肝臓(0.410)、脾臓(0.325)、骨髓(0.259)、副腎(0.234)、リンパ節(0.193)、消化管(0.181)、皮膚(0.151)、その他(0.1 未満)
		雌	脂肪(2.37)、腎臓(0.736)、肝臓(0.366)、卵巣(0.347)、脾臓(0.305)、消化管(0.249)、リンパ節(0.240)、副腎(0.227)、膀胱(0.225)、子宮(0.175)、甲状腺(0.152)、肺(0.146)、その他(0.1 未満)

注) 消化管の値は内容物を含む。

b. 分布②

Fischer ラット（一群雌雄各 4 匹）に ^{14}C -スピネトラム-J(II)を低用量又は高用量で単回経口投与し、体内分布試験が実施された。

主要組織中の残留放射能濃度は表 5 に示されている。

$C_{\max}$ 時における組織中放射能濃度は、雌雄いずれの投与群においても、消化管、リンパ節、肝臓、肺、副腎及び脾臓で高かった。 $1/2C_{\max}$ 時における消化管、脂肪、リンパ節、肺及び副腎では、 $C_{\max}$ 時と同等かそれ以下の濃度で残存していたが、肝臓では減少していた。

低用量群と高用量群の組織中放射能濃度を比較すると、ほとんどの組織中放射能濃度はほぼ用量に比例し 10 倍の差が認められた。

低用量群において、 $1/2C_{\max}$ 時の組織中放射能濃度は、平均して $C_{\max}$ 時の 60%であった。このことから、ほとんどの組織において投与 7 時間後以前に放射能濃度は最高値に達し、投与 7 時間後から減少し始めたことが示された。高用量群においては、 $C_{\max}$ 時と $1/2C_{\max}$ 時の組織中放射能濃度の差は低用量群で認められた差より小さく、100 mg/kg 体重の用量で飽和が生じたことが示された。（参照 3）

表 5 主要組織中の残留放射能濃度 ($\mu\text{g/g}$)

投与量	性別	$C_{\max}$ 時(投与 2 時間後)	$1/2C_{\max}$ 時(投与 7 時間後)
10 mg/kg 体重	雄	消化管(152)、リンパ節(37.2)、肝臓(14.0)、肺(12.7)、副腎(7.26)、脾臓(6.43)、骨髄(5.68)、膀胱(5.53)、その他(5.0 未満)	消化管(157)、リンパ節(9.16)、肺(5.70)、副腎(4.29)、膀胱(4.24)、脂肪(4.0)、その他(4.0 未満)
	雌	消化管(119)、リンパ節(32.3)、肝臓(22.4)、肺(21.6)、副腎(16.0)、脾臓(11.6)、骨髄(10.6)、膵臓(7.86)、腎臓(7.38)、脂肪(5.56)、甲状腺(5.12)、その他(5.0 未満)	消化管(122)、肺(10.5)、リンパ節(9.38)、脂肪(8.19)、骨髄(7.84)、脾臓(6.32)、膵臓(5.26)、副腎(4.98)、肝臓(4.96)、その他(4.0 未満)
100 mg/kg 体重	雄	消化管(1,270)、肝臓(170)、リンパ節(135)、肺(92.6)、副腎(76.9)、脾臓(51.4)、骨髄(50.5)、その他(50.0 未満)	消化管(834)、リンパ節(128)、肺(62.2)、骨髄(60.6)、副腎(46.4)、脂肪(45.3)、その他(40.0 未満)
	雌	消化管(1,160)、肝臓(172)、リンパ節(140)、肺(133)、副腎(114)、骨髄(83.8)、脾臓(74.0)、膵臓(65.6)、甲状腺(51.9)、その他(50.0 未満)	消化管(803)、リンパ節(170)、骨髄(149)、肺(112)、副腎(91.5)、脂肪(72.2)、脾臓(67.8)、肝臓(67.6)、卵巣(49.5)、胸腺(40.6)、その他(40.0 未満)

注) 消化管の値は内容物を含む。

③ 代謝

排泄試験[1.(1)④]で得られた尿及び糞並びに体内分布試験②[1.(1)②b.]で得られた血漿、肝臓、腎臓及び甲状腺について、代謝物の同定・定量試験が実施された。

尿及び糞中代謝物は表 6 に示されている。

全投与群の代謝物プロファイルには、投与量、性別又は投与回数による大きな差は認められなかった。尿中において、未変化のスピネトラム-J は、低用量単回経口投与群の雌雄及び反復経口投与群では認められず、高用量単回経口投与群の雌で 0.06% TAR 、静脈内投与群で 0.05% TAR ～0.29% TAR 認め

られた。糞中からは、未変化のスピネトラム-J はいずれの投与群でも認められた（6.9%**TAR**～40.0%**TAR**）。尿中の主要代謝物はスピネトラム-J のグルタチオン抱合体であり、2.0%**TAR**～5.4%**TAR** 認められた。糞中の主要代謝物はスピネトラム-J のシステイン抱合体であり、26.7%**TAR**～57.1%**TAR** 認められた。

未変化のスピネトラム-J は $C_{\max}$ 時と殺群では血漿、肝臓、腎臓及び甲状腺から、 $1/2C_{\max}$ 時と殺群では肝臓、腎臓及び甲状腺から検出された。未変化のスピネトラム-J は肝臓で最も多く認められ、 $C_{\max}$ 時と殺群で 1.4%**TAR**～3.1%**TAR** であった。代謝物は 7 種類認められたが、5%**TAR** を超えるものはなかった。最も多く認められたのはスピネトラム-J のグルタチオン抱合体であり、肝臓で 1.2%**TAR**～2.1%**TAR** であった。そのほかに代謝物 F 及び F のグルタチオン抱合体が主に肝臓及び腎臓で 1%**TAR** 以下認められた。

スピネトラム-J の主要代謝経路として、スピネトラム-J のグルタチオン抱合化、*N*-脱メチル化による代謝物 B、*O*-脱エチル化による代謝物 F 及び水酸化による代謝物 M の生成と、それらに続くグルタチオン抱合化、さらにグルタチオン抱合体からシステイン抱合体への変換が考えられた。（参照 2、3）

表 6 尿及び糞中代謝物（%**TAR**）

投与方法	投与量	性別	試料	スピネトラム-J	代謝物
単回経口	10 mg/kg 体重	雄	尿	0.0	スピネトラム-J-Glu(2.1)、F-Glu(1.1)、M-Glu(0.27)、B-Glu(0.21)、J-Ace(0.14)、F-CysI(0.02)、N-Glu(0.01)、未同定代謝物(0.17)
			糞	20.9	スピネトラム-J-Cys(29.1)、F-CysI(12.4)、F-CysII(11.7)、F(6.6)、N-Glu(4.4)、M-Cys(1.8)
		雌	尿	0.0	スピネトラム-J-Glu(2.4)、F-Glu(1.2)、M-Glu(0.30)、B-Glu(0.24)、J-Ace(0.15)、F-CysI(0.06)、N-Glu(0.02)、未同定代謝物(0.21)
			糞	14.7	スピネトラム-J-Cys(45.8)、F-CysII(7.6)、F-CysI(7.2)、F(3.9)、N-Glu(2.4)、M-Cys(1.1)、未同定代謝物(1.6)
	100 mg/kg 体重	雄	尿	0.0	スピネトラム-J-Glu(3.4)、B-Glu(0.34)、F-Glu(0.24)、M-Glu(0.06)、J-Ace(0.05)、F-CysI(0.04)、N-Glu(0.02)、未同定代謝物(0.05)
			糞	40.0	スピネトラム-J-Cys(30.8)、F-CysI(5.5)、F-CysII(2.2)、N-Glu(1.9)、M-Cys(0.33)、未同定代謝物(3.0)

投与方法	投与量	性別	試料	スピネ トラム-J	代謝物
		雌	尿	0.06	スピネトラム-J-Glu(3.6)、B-Glu(0.36)、F-Glu(0.33)、J-Ace(0.10)、M-Glu(0.08)、F(0.04)、F-CysI(0.03)、N-Glu(0.01)、未同定代謝物(0.15)、
			糞	15.6	スピネトラム-J-Cys(57.1)、F-CysI(6.9)、N-Glu(2.4)、F-CysII(1.7)、M-Cys(0.25)
反復経口	10 mg/kg 体重/日	雄	尿	0.0	スピネトラム-J-Glu(2.0)、F-Glu(0.80)、B-Glu(0.20)、M-Glu(0.19)、F-CysI(0.04)、N-Glu(0.01)、未同定代謝物(0.10)
			糞	22.0	スピネトラム-J-Cys(38.5)、F-CysII(6.4)、F(6.3)、J-Ace(5.3)、F-CysI(4.8)、N-Glu(1.7)、M-Cys(0.95)
		雌	尿	0.0	スピネトラム-J-Glu(2.6)、F-Glu(0.78)、B-Glu(0.26)、M-Glu(0.19)、F-CysI(0.06)、J-Ace(0.06)、N-Glu(0.02)、未同定代謝物(0.11)
			糞	22.2	スピネトラム-J-Cys(47.7)、F-CysI(6.2)、F-CysII(4.6)、F(4.3)、N-Glu(2.2)、M-Cys(0.69)、未同定代謝物(1.70)
静脈内	10 mg/kg 体重	雄	尿	0.05	スピネトラム-J-Glu(5.2)、F-Glu(2.2)、M-Glu(0.53)、B-Glu(0.52)、J-Ace(0.32)、F-CysI(0.03)、N-Glu(0.01)、未同定代謝物(0.10)
			糞	6.9	スピネトラム-J-Cys(26.7)、F-CysII(15.0)、F(11.5)、F-CysI(11.1)、N-Glu(3.9)、M-Cys(2.3)
		雌	尿	0.29	スピネトラム-J-Glu(5.4)、F-Glu(2.1)、B-Glu(0.54)、M-Glu(0.51)、J-Ace(0.50)、F-CysI(0.06)、N-Glu(0.02)、未同定代謝物(0.13)
			糞	16.6	スピネトラム-J-Cys(27.3)、F(14.4)、F-CysII(12.8)、F-CysI(9.0)、N-Glu(3.2)、M-Cys(1.9)

-Glu : グルタチオン抱合体、-Cys : システイン抱合体、-Ace : アセチルシステイン抱合体
F-CysI : F のシステイン抱合体 異性体 I、F-CysII : F のシステイン抱合体 異性体 II

④ 排泄

Fischer ラット（一群雌雄各 4 匹）に非標識スピネトラム-J を低用量で 14 日間経口投与し、15 日目に ^{14}C -スピネトラム-J を低用量で投与した反復経口投与群並びに血中濃度推移検討試験 [1.(1)①a.] で用いた単回経口投与群及び静脈内投与群から得られた尿及び糞を用いた排泄試験が実施された。

投与後 168 時間の尿及び糞中排泄率は表 7 に示されている。

単回経口投与群では、投与後 168 時間の尿中に 4%TAR 以上、糞中に

80%TAR 以上が排泄され、そのほとんどが投与後 24 時間に排泄された。投与放射能は主に糞中に排泄された。投与量、性別及び投与回数の違いによる差は認められなかった。また、投与経路にかかわらず、約 90%TAR が糞及び尿に排泄された。静脈内投与においては、経口投与した場合より尿中に排泄された割合が高かったが、主に糞中に排泄された。（参照 2）

表 7 投与後 168 時間の尿及び糞中排泄率 (%TAR)

投与方法	単回経口							
投与量	10 mg/kg 体重				100 mg/kg 体重			
性別	雄		雌		雄		雌	
試料	尿	糞	尿	糞	尿	糞	尿	糞
排泄率	4.8	86.9	4.6	84.6	4.3	83.3	4.8	83.9
投与方法	反復経口				静脈内			
投与量	10 mg/kg 体重/日				10 mg/kg 体重			
性別	雄		雌		雄		雌	
試料	尿	糞	尿	糞	尿	糞	尿	糞
排泄率*	3.7	85.8	4.1	89.6	9.1	77.4	9.8	85.1

注) 尿中排泄率の値にはケージ洗浄液を含む。

*: 反復投与試験については、標識体投与後 168 時間の値。

(2) ラット (スピネトラム-L)

① 吸収

a. 血中濃度推移

Fischer ラット（一群雌雄各 4 匹）に ^{14}C -スピネトラム-L(II)を低用量若しくは高用量で単回経口投与し、又は低用量で静脈内投与して、血中濃度推移について検討された。

血漿中薬物動態学的パラメータは表 8 に示されている。

単回経口投与したスピネトラム-L は速やかな吸収及び消失を示した。また、血漿中の $T_{\max}$ 、 $C_{\max}$ 及び $T_{1/2}$ に性差は認められなかった。（参照 4）

表 8 血漿中薬物動態学的パラメータ

投与方法	単回経口投与				静脈内投与	
投与量	10 mg/kg 体重		100 mg/kg 体重		10 mg/kg 体重	
性別	雄	雌	雄	雌	雄	雌
$T_{\max}$ (hr)	3.5	1.3	4.0	3.0		
$C_{\max}$ ($\mu\text{g/mL}$)	0.3	0.4	2.3	2.9		
$T_{1/2}$ (hr)	7.8	7.3	22.8	23.9	12.0	11.6
$\text{AUC}_{0-\infty}$ ($\text{hr} \cdot \mu\text{g/mL}$)	4.1	3.8	76.0	62.1	10.4	6.8

/: 適用せず

b. 吸収率

排泄試験 [1.(2)④] における静脈内投与での糞中排泄率は 78.5%～80.7%であり、そのうち未変化のスピネトラム-L は 16.9%～22.5%であった。経口投与後の糞中の未変化のスピネトラム-L と代謝物の割合は、静脈内投与と類似していたことから、経口投与されたスピネトラムの一部は、吸収された後、未変化のスピネトラム-L として糞中に排泄されたと考えられた。

したがって、尿中の総放射能、投与後 24 時間に排泄された糞中の代謝物由来の放射能及び投与後 24～168 時間に排泄された糞中の総放射能の合計から、低用量投与群における経口吸収率は、雄で 74%、雌で 83%と推定された。（参照 4）

② 分布

a. 分布①

血中濃度推移検討試験 [1.(2)①a.] 及び排泄試験 [1.(2)④] で得られた組織及び臓器を用いて体内分布試験が実施された。

投与 168 時間後の主要組織中の残留放射能濃度は表 9 に示されている。

投与 168 時間後の組織中放射能濃度は、いずれの投与群においても、雄では脂肪、リンパ節、副腎、消化管及び脾臓で高く、雌ではそれらに加え卵巣及び子宮で高かったが、いずれも 6%**TAR** 未満であった。低用量投与群と高用量投与群の組織中放射能濃度を比較すると、雌雄ともに 10 倍以上の差が認められた。単回経口投与群及び反復経口投与群の組織中放射能濃度はほぼ同じであった。静脈内投与群の組織中放射能濃度は、多くの組織で、単回経口投与群よりも約 3 倍高かった。（参照 4）

表 9 主要組織中の残留放射能濃度 (μg/g)

投与方法	投与量	性別	投与 168 時間後
単回経口	10 mg/kg 体重	雄	脂肪(2.18)、リンパ節(1.16)、副腎(0.63)、肝臓(0.63)、消化管(0.40)、腎臓(0.34)、脾臓(0.26)、膀胱(0.21)、その他(0.2 以下)
		雌	脂肪(2.81)、リンパ節(0.72)、皮膚(0.64)、副腎(0.53)、消化管(0.43)、卵巣(0.39)、脾臓(0.36)、子宮(0.32)、膀胱(0.30)、腎臓(0.27)、肝臓(0.24)、その他(0.2 以下)
	100 mg/kg 体重	雄	脂肪(56.5)、リンパ節(18.5)、皮膚(13.7)、副腎(13.1)、消化管(7.51)、腎臓(7.51)、脾臓(5.84)、肝臓(5.10)、その他(5.0 未満)
		雌	脂肪(58.1)、卵巣(15.4)、リンパ節(13.9)、子宮(11.4)、皮膚(11.1)、副腎(8.83)、消化管(8.80)、腎臓(7.72)、脾臓(5.91)、膀胱(5.36)、その他(5.0 未満)
反復経口	10 mg/kg 体重/日	雄	脂肪(2.37)、リンパ節(0.94)、消化管(0.74)、副腎(0.60)、皮膚(0.46)、肝臓(0.39)、腎臓(0.37)、骨髄(0.33)、脾臓(0.32)、その他(0.2 未満)
		雌	脂肪(2.31)、リンパ節(0.91)、卵巣(0.75)、副腎(0.50)、消化管(0.47)、子宮(0.45)、膀胱(0.38)、腎臓(0.27)、骨髄(0.27)、脾臓(0.25)、その他(0.2 未満)
静脈内	10 mg/kg 体重	雄	脂肪(6.73)、リンパ節(2.38)、副腎(1.50)、消化管(1.08)、肝臓(1.06)、腎臓(0.79)、脾臓(0.78)、膀胱(0.55)、皮膚(0.51)、甲状腺(0.44)、脾臓(0.39)、その他(0.3 未満)
		雌	脂肪(7.01)、皮膚(2.21)、リンパ節(2.18)、脾臓(1.21)、副腎(1.15)、膀胱(0.89)、腎臓(0.74)、消化管(0.73)、卵巣(0.57)、骨髄(0.46)、肝臓(0.46)、その他(0.4 未満)

注) 消化管の値は内容物を含む。

b. 分布②

Fischer ラット (一群雌雄各 4 匹) に ^{14}C -スピネトラム-L(II)を低用量又は高用量で単回経口投与して、体内分布試験が実施された。

主要組織中の残留放射能濃度は表 10 に示されている。

$C_{\max}$ 時における組織中放射能濃度は、雌雄いずれの投与群においても、消化管、リンパ節、肝臓、肺、副腎及び脾臓で高かった。 $1/2C_{\max}$ 時における消化管、脂肪、リンパ節、肺及び副腎では $C_{\max}$ 時と同等かそれ以下の濃度で残存していたが、肝臓では減少していた。

低用量群と高用量群の組織中放射能濃度を比較すると、ほとんどの組織でほぼ用量に比例した差が認められた ($C_{\max}$ 時で 17 倍、 $1/2C_{\max}$ 時で 9~13 倍)。

雄における $1/2C_{\max}$ 時の組織中放射能濃度は、平均して $C_{\max}$ 時の 80% (低用量群) 又は 40% (高用量群) であった。一方、雌における $1/2C_{\max}$ 時の組織中放射能濃度は、平均して $C_{\max}$ 時の 130% (低用量群) とほぼ同等 (高用量群) であった。(参照 5)

表 10 主要組織中の残留放射能濃度 (μg/g)

投与方法	投与量	性別	C _{max} 時 ¹⁾	1/2C _{max} 時 ²⁾
単 回 経 口	10 mg/kg 体重	雄	消化管(112)、リンパ節(25.2)、肝臓(22.9)、肺(21.4)、副腎(14.6)、脾臓(11.7)、骨髄(9.71)、腎臓(7.99)、膵臓(7.93)、下垂体(7.21)、脂肪(5.56)、甲状腺(5.30)、その他(5.0 未満)	消化管(67.2)、肺(24.6)、リンパ節(17.0)、副腎(11.5)、骨髄(10.4)、脂肪(8.24)、肝臓(6.65)、甲状腺(5.52)、胸腺(5.36)、その他(5.0 未満)
		雌	消化管(108)、肝臓(34.9)、リンパ節(33.4)、肺(19.0)、副腎(16.1)、脾臓(10.6)、腎臓(8.02)、膵臓(7.40)、骨髄(5.59)、下垂体(5.28)、その他(5.0 未満)	消化管(73.6)、肺(26.3)、リンパ節(21.5)、骨髄(16.1)、副腎(15.3)、脾臓(11.8)、肝臓(9.77)、甲状腺(6.87)、脂肪(6.50)、下垂体(6.44)、腎臓(6.09)、膵臓(5.80)、卵巣(5.71)、胸腺(5.57)、その他(5.0 未満)
	100 mg/kg 体重	雄	消化管(934)、リンパ節(434)、肺(303)、肝臓(270)、副腎(236)、骨髄(174)、脾臓(153)、膵臓(128)、脂肪(124)、甲状腺(116)、腎臓(110)、下垂体(97.0)、胸腺(79.7)、心臓(53.5)、皮膚(52.9)、その他(50.0 未満)	消化管(371)、リンパ節(217)、脂肪(156)、骨髄(91.9)、副腎(77.8)、脾臓(57.1)、肺(51.3)、胸腺(50.2)、その他(50.0 未満)
		雌	消化管(903)、リンパ節(300)、肝臓(284)、肺(224)、副腎(175)、骨髄(168)、脾臓(123)、甲状腺(118)、膵臓(106)、腎臓(95.2)、下垂体(78.2)、卵巣(73.5)、脂肪(71.7)、その他(50.0 未満)	消化管(602)、リンパ節(338)、骨髄(249)、副腎(199)、脂肪(169)、肺(117)、脾臓(117)、肝臓(109)、卵巣(92.8)、胸腺(75.0)、下垂体(65.8)、甲状腺(64.0)、腎臓(62.2)、膵臓(58.9)、皮膚(58.9)、その他(50.0 未満)

注) 消化管の値は内容物を含む。

1) : 低用量群の雄は投与 3 時間後、雌は投与 2 時間後、高用量群の雄は投与 4 時間後、雌は投与 3 時間後。

2) : 低用量群の雄は投与 10 時間後、雌は投与 8 時間後、高用量群の雄は投与 21 時間後、雌は投与 10 時間後。

③ 代謝

排泄試験[1.(2)④]で得られた尿及び糞並びに体内分布試験②[1.(2)②]で得られた血漿、肝臓、腎臓及び甲状腺について、代謝物の同定・定量試験が実施された。

尿及び糞中の代謝物は表 11 に示されている。

全投与群の代謝物プロファイルには、投与量、性別又は投与回数による大きな差は認められなかった。未変化のスピネトラム-L は、尿中では最大で 0.07% TAR、糞中では 6.5% TAR～26.1% TAR 認められた。主要代謝物は、

尿中ではスピネトラム-L のグルタチオン抱合体（1.3%**TAR**～2.4%**TAR**）、糞中ではスピネトラム-L のシステイン抱合体（49.2%**TAR**～64.0%**TAR**）であった。

未変化のスピネトラム-L は $C_{\max}$ 時と殺群及び $1/2C_{\max}$ 時と殺群ともに血漿、肝臓、腎臓及び甲状腺中において検出された。未変化のスピネトラム-L は肝臓で最も多く認められ、 $C_{\max}$ 時と殺群では 3.4%**TAR**～6.0%**TAR** であった。代謝物は 8 種類認められたが、5%**TAR** を超えるものはなかった。最も多く認められた代謝物は **C** であり、 $C_{\max}$ 時と殺群の肝臓で 0.8%**TAR**～2.3%**TAR** であった。スピネトラム-L のグルタチオン抱合体は、 $C_{\max}$ 時と殺群の肝臓で 0.8%**TAR**～1.2%**TAR** であった。

スピネトラム-L の主要代謝経路として、スピネトラム-L のグルタチオン抱合化、*N*-脱メチル化による代謝物 **C** 及び *O*-脱エチル化による代謝物 **G** の生成と、それらに続くグルタチオン抱合化、さらにグルタチオン抱合体からシステイン抱合体への変換が考えられた。（参照 4、5）

表 11 尿及び糞中の代謝物 (%TAR)

投与方法	投与量	性別	試料	スピネトラム-L	代謝物
単回経口	10 mg/kg 体重	雄	尿	0.00	スピネトラム-L-Glu(1.6)、G-Cys(0.20)、C-Glu(0.19)、K-Sul(0.16)、未同定代謝物(0.04~0.23)
			糞	16.9	スピネトラム-L-Cys(51.5)、C(6.5)、I-Glu(5.2)、K-Sul(4.5)
		雌	尿	0.00	スピネトラム-L-Glu(1.6)、G-Cys(0.21)、K-Sul(0.18)、C-Glu(0.18)、未同定代謝物(0.08~0.28)
			糞	6.50	スピネトラム-L-Cys(58.3)、K-Sul(6.7)、I-Glu(4.5)、C(3.9)、未同定代謝物(4.08)
	100 mg/kg 体重	雄	尿	0.00	スピネトラム-L-Glu(2.1)、C-Glu(0.25)、G-Cys(0.14)、K-Sul(0.11)、未同定代謝物(0.05~0.32)
			糞	18.4	スピネトラム-L-Cys(64.0)
		雌	尿	0.05	スピネトラム-L-Glu(2.0)、C-Glu(0.24)、K-Sul(0.16)、G-Cys(0.13)、未同定代謝物(0.07~0.37)
			糞	21.8	スピネトラム-L-Cys(55.7)、C(5.9)
反復経口	10 mg/kg 体重/日	雄	尿	0.00	スピネトラム-L-Glu(1.6)、C-Glu(0.19)、K-Sul(0.16)、G-Cys(0.13)、未同定代謝物(0.05~0.19)
			糞	21.5	スピネトラム-L-Cys(50.9)、C(7.7)、K-Sul(3.6)、未同定代謝物(3.0)
		雌	尿	0.00	スピネトラム-L-Glu(1.3)、C-Glu(0.16)、G-Cys(0.15)、K-Sul(0.14)、未同定代謝物(0.06~0.20)
			糞	26.1	スピネトラム-L-Cys(49.2)、C(4.9)、K-Sul(3.0)、G-cys(1.1)、未同定代謝物(2.0)
静脈内	10 mg/kg 体重	雄	尿	0.07	スピネトラム-L-Glu(2.4)、C-Glu(0.28)、G-Cys(0.16)、K-Sul(0.13)、未同定代謝物(0.05~0.39)
			糞	22.5	スピネトラム-L-Cys(52.6)、未同定代謝物(5.4)
		雌	尿	0.18	スピネトラム-L-Glu(2.1)、C-Glu(0.24)、G-Cys(0.18)、K-Sul(0.10)、未同定代謝物(0.06~0.36)
			糞	16.9	スピネトラム-L-Cys(55.4)、K-Sul(3.6)、未同定代謝物(2.6)

-Sul : 硫酸抱合体、-Glu : グルタチオン抱合体、-Cys : システイン抱合体

④ 排泄

Fischer ラット（雌雄各 4 匹）に非標識スピネトラム-L を低用量で 14 日間経口投与し、15 日目に ^{14}C -スピネトラム-L を低用量で投与した反復経口

投与群並びに血中濃度推移検討試験〔1.(2)①a.〕で用いた単回経口投与群及び静脈内投与群から得られた尿及び糞を用いて、排泄試験が実施された。

投与後 168 時間の尿及び糞中排泄率は表 12 に示されている。

経口投与群では、投与後 168 時間の尿中に 2.3%TAR 以上、糞中に 80%TAR 以上が排泄され、そのほとんどが投与後 24 時間に排泄された。投与放射能は主に糞中に排泄された。投与量、性別及び投与回数の違いによる差は認められなかった。また、静脈内投与群でも尿及び糞中への排泄の割合は経口投与群と同様であった。（参照 4）

表 12 投与後 168 時間の尿及び糞中排泄率（%TAR）

投与方法	単回経口							
投与量	10 mg/kg 体重				100 mg/kg 体重			
性別	雄		雌		雄		雌	
試料	尿	糞	尿	糞	尿	糞	尿	糞
投与後 168 時間	3.2	84.6	2.9	84.0	3.4	82.5	3.5	83.3
投与方法	反復経口				静脈内			
投与量	10 mg/kg 体重/日				10 mg/kg 体重			
性別	雄		雌		雄		雌	
試料	尿	糞	尿	糞	尿	糞	尿	糞
投与後 168 時間*	2.9	86.7	2.3	86.4	4.4	80.7	3.7	78.5

注) 尿中排泄率の値にはケージ洗浄液を含む。

*：反復経口投与試験については、標識体投与後 168 時間。

(3) ヤギ

泌乳ヤギ（アルパイン種×ヌビアン種交配種、一群雌 1 頭）に、 ^{14}C -スピネトラム-J(I)を 14.9 mg/動物/日又は ^{14}C -スピネトラム-L(II)を 14.8 mg/動物/日（飼料中濃度 10～11 mg/kg に相当）で 1 日 1 回、5 日間強制経口投与し、投与期間中毎日乳汁を 2 回（午前及び午後）、尿及び糞を 1 回、肝臓、腎臓、筋肉及び脂肪を最終投与 21±1 時間後に採取して、動物体内運命試験が実施された。

各試料における残留放射能濃度及び代謝物は表 13 に示されている。

乳汁中の残留放射能は最終投与時まで定常状態に達し、スピネトラム-J の残留放射能濃度は投与 3 日の 2 回目及び投与 4 日の 1 回目採取時で、スピネトラム-L の残留放射能濃度は投与 5 日の 1 回目採取時で最大となり、それぞれ 0.047 及び 0.039 $\mu\text{g/g}$ 認められた。

組織中放射能濃度は全体的に低く、最も高い脂肪でもスピネトラム-J で 0.235 $\mu\text{g/g}$ 、スピネトラム-L で 0.119 $\mu\text{g/g}$ 認められた。

乳汁中及び組織中において主要成分は未変化のスピネトラムであり、スピネトラム-J で 29.8%TRR～84.4%TRR (0.007～0.190 $\mu\text{g/g}$)、スピネトラム

-L で 26.0%TRR～84.2%TRR (0.007～0.086 $\mu\text{g/g}$) 認められた。代謝物として B 又は C がそれぞれ検出されたが、いずれも 2%TRR 未満であった。

投与放射能は主に糞中に排泄された。糞中及び尿中排泄は、 ^{14}C -スピネトラム-J(I)では 51.1%TRR 及び 0.17%TRR、 ^{14}C -スピネトラム-L(II)では 78.3%TRR 及び 0.03%TRR であった。(参照 69、70、79、80)

表 13 各試料における残留放射能濃度及び代謝物 ($\mu\text{g/g}$)

標識体	試料	総残留放射能	スピネトラム	B	C	未同定代謝物	未同定画分 ¹⁾	抽出残渣
^{14}C -スピネトラム-J(I)	乳汁 ^a	0.034	0.029 (84.4)	ND		ND	0.006 (14.7)	<0.001 (0.95)
	肝臓	0.116	0.035 (29.8)	0.002 (1.8)		0.012 (10.0)	0.035 (30.5)	0.029 (25.2)
	腎臓	0.065	0.035 (53.9)	ND		<0.001 (<LOQ)	0.015 (22.5)	0.009 (14.5)
	筋肉	0.017	0.007 (42.3)	ND		0.001 (5.5)	0.006 (32.7)	0.002 (10.7)
	脂肪	0.235	0.190 (80.8)	ND		ND	0.017 (7.2)	0.025 (10.5)
^{14}C -スピネトラム-L(II)	乳汁 ^a	0.049	0.041 (84.2)		ND	ND	0.007 (13.6)	0.001 (2.2)
	肝臓	0.099	0.026 (26.0)		0.001 (1.2)	0.027 (26.9)	0.021 (21.2)	0.023 (23.4)
	腎臓	0.047	0.030 (64.3)		ND	ND	0.010 (19.2)	0.007 (13.9)
	筋肉	0.015	0.007 (45.8)		ND	0.003 (17.7)	0.004 (25.2)	0.001 (6.9)
	脂肪	0.119	0.086 (72.3)		ND	ND	0.018 (14.9)	0.016 (13.0)

() : %TRR、ND : 検出されず、<LOQ : 定量限界未満、/ : 該当なし

¹⁾ : その他の精製画分及び水溶性画分の合計

^a : 投与 5 日目の午後のサンプルを用いた。

(4) ニワトリ

産卵鶏 (Bovan 白色レグホン種、一群 10 羽) に、 ^{14}C -スピネトラム-J(I) を 1.25 mg/動物/日又は ^{14}C -スピネトラム-L(II)を 1.27 mg/動物/日 (飼料中濃度 10 mg/kg に相当) で 1 日 1 回、7 日間カプセル経口投与し、投与期間中毎日卵を 2 回 (午前及び午後)、排泄物を 1 回、肝臓、筋肉 (胸筋及び大腿筋)、脂肪 (腹部) 及び皮下脂肪を含む皮膚を最終投与 22±3 時間後に採取して、動物体内運命試験が実施された。

各試料における残留放射能濃度及び代謝物は表 14 に示されている。

投与放射能の大部分 (^{14}C -スピネトラム-J(I)投与群で 93.4%TRR、 ^{14}C -スピネトラム-L(II)投与群で 90.5%TRR) が排泄された。

卵中放射能濃度は投与期間中増加し、投与 7 日にスピネトラム-J で 0.204 $\mu\text{g/g}$ 、スピネトラム-L で 0.488 $\mu\text{g/g}$ であった。

卵及び組織中において主要成分は未変化のスピネトラムであり、スピネトラム-J で 13.0%TRR～80.2%TRR (0.034～0.723 $\mu\text{g/g}$)、スピネトラム-L で 11.7%TRR～55.6%TRR (0.048～1.37 $\mu\text{g/g}$) 認められたほか、代謝物 F、G 及び P/R が 10%TRR を超えて認められた。(参照 69、70、79、81)

表 14 各試料における残留放射能濃度及び代謝物 ($\mu\text{g/g}$)

標識体	試料	総残留放射能	スピネトラム	C	F	G	O/Q	P/R	未同定画分 ¹⁾	抽出残渣
¹⁴ C-スピネトラム-J(I)	卵 ^a	0.114	0.068 (58.4)	/	ND	/	ND	/	0.036 (37.7)	0.019 (16.0)
	肝臓	0.525	0.069 (13.0)		0.076 (14.5)		0.034 (6.5)		0.214 (47.4)	0.037 (7.0)
	筋肉	0.050	0.034 (67.8)		ND		0.002 (3.2)		0.003 (7.5)	0.010 (19.5)
	皮膚	0.661	0.531 (80.2)		ND		0.022 (3.3)		0.067 (13.9)	0.023 (3.5)
	脂肪	1.04	0.723 (69.6)		0.019 (1.8)		0.059 (5.7)		0.136 (13.5)	0.032 (3.0)
¹⁴ C-スピネトラム-L(II)	卵 ^a	0.225	0.111 (48.9)	ND	/	0.029 (12.5)	/	0.030 (13.4)	0.052 (25.5)	0.027 (12.0)
	肝臓	0.902	0.105 (11.7)	0.015 (1.7)		0.098 (10.8)		0.135 (15.0)	0.300 (37.3)	0.039 (4.35)
	筋肉	0.108	0.048 (44.5)	ND		0.006 (5.4)		0.020 (17.8)	0.010 (10.4)	0.019 (17.5)
	皮膚	1.41	0.784 (55.6)	ND		0.079 (5.6)		0.239 (16.9)	0.116 (8.7)	0.084 (6.0)
	脂肪	2.46	1.37 (55.5)	ND		0.128 (5.2)		0.479 (19.5)	0.273 (11.4)	0.075 (3.0)

() : %TRR、ND : 検出されず、/ : 該当なし

¹⁾ : その他の精製画分及び水溶性画分の合計

^a : 投与 4 日目のサンプルを用いた。

スピネトラムのヤギ及びニワトリにおける主要代謝経路は、①N-脱メチル化による代謝物 B 又は C の生成、②O-脱エチル化による代謝物 F 又は G の生成及び O-脱メチル化による代謝物 O/Q 又は P/R の生成と考えられた。

2. 植物体内運命試験

(1) 水稻

粒剤に調製した ^{14}C -スピネトラム-J(I)又は ^{14}C -スピネトラム-L(II)を 100 g ai/ha の用量で植穴処理し、2～4 葉期の水稻（品種：Japonica M202）を定植後湛水して栽培した。青刈り稲を処理 7 日、14 日、28 日及び 72 日後に、もみ、もみ殻及び玄米を処理 149 日後に、稲わらを処理 162 日後にそれぞれ採取して植物体内運命試験が実施された。

各試料における総残留放射能濃度は表 15 に、水稻試料中の未変化のスピネトラム及び代謝物の放射能濃度は表 16 に示されている。

^{14}C -スピネトラム-J(I)又は ^{14}C -スピネトラム-L(II)を処理した水稻のいずれにおいても、残留放射能濃度は速やかに減少した。処理 162 日後の稲わらにおける残留放射能濃度は、処理 72 日後の青刈り稲より 2～4 倍高かったが、これは乾燥した稲わら中の水分含量が青刈り稲中の水分含量より低かったためであると考えられた。玄米及びもみ殻中の残留放射能濃度が低かったことから、スピネトラム-J 及びスピネトラム-L が稲のもみ中に移行して残留する可能性は低いことが示された。

植物体において、スピネトラム-J は処理 7 日後に 63.2%TRR であったが、処理 162 日後には 11.3%TRR まで減少した。スピネトラム-L は処理 7 日後に 54.5%TRR であったが、処理 162 日後には 3.3%TRR まで減少した。

スピネトラム-J 及びスピネトラム-L は同様の代謝を受け、*N*-demethyl 体（代謝物 B 及び C）及び *N*-formyl 体（代謝物 D 及び E）が生成された。最大検出量は、代謝物 B が 25.5%TRR (5.23 mg/kg)、代謝物 C が 10.7%TRR (1.12 mg/kg)、代謝物 D が 10.6%TRR (0.009 mg/kg)、代謝物 E が 1.7%TRR (0.057 mg/kg) であった。いずれの代謝物も成熟期の稲わらでは 3.4%TRR 以下に減少していた。（参照 9）

表 15 各試料における総残留放射能濃度 (mg/kg)

標識体	^{14}C -スピネトラム-J(I)					
採取時期	処理 7 日後	処理 72 日後	処理 162 日後	処理 149 日後		
試料	全体	青刈り稲	稲わら	もみ	もみ殻	玄米
残留放射能濃度	20.5	0.09	0.21	0.004	0.015	0.001*
標識体	^{14}C -スピネトラム-L(II)					
採取時期	処理 7 日後	処理 72 日後	処理 162 日後	処理 149 日後		
試料	全体	青刈り稲	稲わら	もみ	もみ殻	玄米
残留放射能濃度	10.4	0.02	0.08	0.002*	0.004*	0.002*

*：検出限界（スピネトラム-J：0.001 mg/kg、スピネトラム-L：0.002 mg/kg）と定量限界（スピネトラム-J：0.003 mg/kg、スピネトラム-L：0.006 mg/kg）の間

表 16 水稲試料中の未変化のスピネトラム及び代謝物の放射能濃度

処理後日数 及び試料	¹⁴ C-スピネトラム-J(I)処理試料							
	総残留放射能		スピネトラム-J		B		D*	
	%TRR	mg/kg	%TRR	mg/kg	%TRR	mg/kg	%TRR	mg/kg
処理 7 日後	96.1	19.7	63.2	13.0	25.5	5.2	3.3	0.66
処理 72 日後 青刈り稲	52.6	0.05	27.8	0.03	5.2	0.005	10.6	0.01
処理 162 日後 稲わら	38.1	0.08	11.3	0.02	3.4	0.007	2.1	0.005
処理後日数 及び試料	¹⁴ C-スピネトラム-L(II)処理試料							
	総残留放射能		スピネトラム-L		C**		E**	
	%TRR	mg/kg	%TRR	mg/kg	%TRR	mg/kg	%TRR	mg/kg
処理 7 日後	92.9	9.7	54.5	5.7	10.7	1.12	1.6	0.17
処理 14 日後	72.1	2.4	29.3	0.99	6.0	1.7	1.8	0.06
処理 162 日後 稲わら	15.5	0.01	3.3	0.003	ND	ND	0.30	0.00

*: D は検出されたピークの約 91% を占めていたことから、ピークから算出された放射能の 91% の値を示した。

** : C は検出されたピークの約 74%、E は約 23% を占めていたことから、それぞれのピークから算出された放射能の 74 及び 23% の値を示した。

ND : 検出されず

(2) りんご

ほ場栽培のりんご果樹（品種：Granny Smith）に、¹⁴C-スピネトラム-J(I) を 1,810 g ai/ha 又は ¹⁴C-スピネトラム-L(II) を 1,110 g ai/ha の用量で 1 回葉面処理して、植物体内運命試験が実施された。処理前に、処理を行う 1 本の枝以外の全ての枝をプラスチックで覆い、移行性確認用試料とした。未成熟期のりんご果実及び葉を処理 0 日（処理約 5 時間後）、1 日、3 日、7 日及び 14 日後、成熟期のりんご果実を処理 30 日後、処理 3 日後に覆いをした果実を処理 7 日後に、それぞれ採取して試料とした。

果実の残留放射能は、試験期間を通して 96%TRR 以上が表面洗浄液及び果皮に存在し、果肉には 4.0%TRR 未満であった。移行性確認用果実試料の残留放射能は定量限界未満であり、移行性確認用葉試料の残留放射能は処理葉の 0.2%未満であったことから、未変化のスピネトラム及び代謝物のいずれも枝を介した移行は僅かであることが示された。

果実試料において、未変化のスピネトラムは処理 0 日後に ¹⁴C-スピネトラム-J(I)処理試料で 82.2%TRR (0.72 mg/kg) 及び ¹⁴C-スピネトラム-L(II)処理試料で 42.6%TRR (0.18 mg/kg) 認められたが、¹⁴C-スピネトラム-J(I)処理試料では処理 30 日後に 22.2%TRR (0.16 mg/kg)、¹⁴C-スピネトラム-L(II)処理試料では処理 14 日後に 0.9%TRR (0.005 mg/kg) に減少した。主要代謝物として、¹⁴C-スピネトラム-J(I)処理試料では B（処理 7 日後で最大 13.5%TRR、0.16 mg/kg）及び D（処理 3 日後で最大 4.9%TRR、0.07 mg/kg）、

^{14}C -スピネトラム-L(II)処理試料では C（処理 0 日後で最大 8.0%TRR、0.03 mg/kg）及び E（処理 3 日後の暗所で最大 2.7%TRR、0.04 mg/kg）が認められた。 ^{14}C -スピネトラム-J(I)処理試料では、ほかに微量代謝物として F 及び H が検出された。

葉試料において、未変化のスピネトラムは処理 0 日後に ^{14}C -スピネトラム-J(I)処理試料で 80.2%TRR（105 mg/kg）及び ^{14}C -スピネトラム-L(II)処理試料で 26.8%TRR（18.6 mg/kg）から、処理 30 日後には ^{14}C -スピネトラム-J(I)処理試料で 19.9%TRR（27.8 mg/kg）及び ^{14}C -スピネトラム-L(II)処理試料で 0.2%TRR（0.12 mg/kg）に減少した。主要代謝物として、 ^{14}C -スピネトラム-J(I)処理試料では B（処理 3 日後で最大 13.9%TRR、23.3 mg/kg）及び D（処理 3 日後で最大 4.1%TRR、6.91 mg/kg）、 ^{14}C -スピネトラム-L(II)処理試料では C（処理 1 日後で最大 3.2%TRR、1.53 mg/kg）及び E（処理 3 日後の暗所で最大 2.5%TRR、1.47 mg/kg）が認められた。（参照 8）

（3）かぶ

砂壤土を充填したポットで栽培したかぶ（品種：Purple Top White Globe）に、 ^{14}C -スピネトラム-J(I) を 900 g ai/ha 又は ^{14}C -スピネトラム-L(II)を 300 g ai/ha の用量で 1 回（全量を 1 度に処理）又は 3 回（1 回処理区の収穫予定日の 2 週間前から、7 日間隔で 1/3 量ずつ処理）茎葉処理して植物体内運命試験が実施された。1 回処理区では処理 0 日（処理約 1 時間後）、0.25 日、1 日、3 日及び 7 日後、3 回処理区では最終処理 3 日及び 7 日後に植物体を採取し、茎葉部と根部に分けて試料とした。

かぶ茎葉部及び根部中の未変化のスピネトラム及び代謝物の放射能濃度は表 17 及び 18 に示されている。

茎葉部では、 ^{14}C -スピネトラム-J(I)処理で 86.3%TRR～99.3%TRR、 ^{14}C -スピネトラム-L(II)処理で 73.5%TRR～97.3%TRR が有機溶媒による洗浄液及び抽出液中に存在し、水溶性画分では 8.6%TRR を超えることはなかった。処理 7 日後までの残留放射能濃度は、3 回処理（スピネトラム-J：4.9～7.2 mg/kg、スピネトラム-L：1.1～2.2 mg/kg）の方が 1 回処理（スピネトラム-J：7.6～11.8 mg/kg、スピネトラム-L：2.0～5.3 mg/kg）よりも低かった。

根部では、 ^{14}C -スピネトラム-J(I)処理で 87%TRR 以上、 ^{14}C -スピネトラム-L(II)処理で 75%TRR 以上が有機溶媒による洗浄液及び抽出液中に存在した。処理 7 日後までの残留放射能濃度は、3 回処理（スピネトラム-J：0.03～0.098 mg/kg、スピネトラム-L：0.015～0.016 mg/kg）と 1 回処理（スピネトラム-J：0.004～0.123 mg/kg、スピネトラム-L：0.004～0.031 mg/kg）とで顕著な差はなかった。

^{14}C -スピネトラム-J(I)を 1 回処理した茎葉部において、処理 3 日後に未変化のスピネトラム-J（9.4%TRR、1.1 mg/kg）並びに代謝物 B（8.5%TRR、

1.0 mg/kg) 及び D (11.2%TRR、1.3 mg/kg) が認められ、合計で 29%TRR を占めていた。3 回処理試料ではこれらの 3 成分が合計で 20%TRR を占め、代謝物 D が主要代謝物であった。 ^{14}C -スピネトラム-L(II)を処理した茎葉部においては、未変化のスピネトラム-L 並びに代謝物 C 及び E の残留放射能濃度は ^{14}C -スピネトラム-J(I)処理試料よりもかなり低く、処理 3 日後で合計 4.6%TRR であった。 ^{14}C -スピネトラム-L(II)処理試料においては、放射能の大部分が多成分の極性混合物であった。

根部試料では、 ^{14}C -スピネトラム-J(I)の 1 回処理 3 日後に、未変化のスピネトラム-J 並びに代謝物 B 及び D が合計で約 50%TRR を占めていた。 ^{14}C -スピネトラム-L(II)の 1 回処理 3 日後では未変化のスピネトラム-L 及び代謝物 E が合計で 17.8%TRR を占めていた。(参照 7)

表 17 かぶ茎葉部試料中の未変化のスピネトラム及び代謝物の放射能濃度

処理回数	^{14}C -スピネトラム-J(I)処理試料							
	スピネトラム-J		B		D		多成分混合物	
	%TRR	mg/kg	%TRR	mg/kg	%TRR	mg/kg	%TRR	mg/kg
1 回処理*	9.4	1.1	8.5	1.0	11.2	1.3	51.0	6.0
3 回処理*	4.9	0.4	4.1	0.3	11.4	0.8	53.3	3.8
処理回数	^{14}C -スピネトラム-L(II)処理試料							
	スピネトラム-L		C		E		多成分混合物	
	%TRR	mg/kg	%TRR	mg/kg	%TRR	mg/kg	%TRR	mg/kg
1 回処理*	2.9	0.06	1.0	0.02	0.6	0.01	73.8	1.6
3 回処理*	3.0	0.07	1.1	0.02	0.5	0.01	68.8	1.5

*: 処理 3 日後 (1 回処理) 及び最終処理 3 日後 (3 回処理) の値

表 18 かぶ根部試料中の未変化のスピネトラム及び代謝物の放射能濃度

処理回数	^{14}C -スピネトラム-J(I)処理試料							
	スピネトラム-J		B		D		多成分混合物	
	%TRR	mg/kg	%TRR	mg/kg	%TRR	mg/kg	%TRR	mg/kg
1 回処理*	22.3	0.03	10.0	0.01	16.6	0.02	9.9	0.01
処理回数	^{14}C -スピネトラム-L(II)処理試料							
	スピネトラム-L		C		E		多成分混合物	
	%TRR	mg/kg	%TRR	mg/kg	%TRR	mg/kg	%TRR	mg/kg
1 回処理*	14.8	0.01	—	—	3.0	0.001	13.1	0.004

*: 処理 3 日後の値、—: 検出されず

(4) レタス

砂壤土を充填したポットで栽培したレタス (品種: New Fire Red MI) に、 ^{14}C -スピネトラム-J(I)を 900 g ai/ha 又は ^{14}C -スピネトラム-L(II)を 300 g ai/ha の用量で 1 回 (全量を 1 度に処理) 又は 3 回 (1 回処理区の収穫予定日の 2 週間前から、7 日間隔で 1/3 量ずつ処理) 茎葉に散布して植物体内運命試験が実施された。1 回処理区では、処理 0 日 (処理約 1 時間後)、0.25

日、1日、3日及び7日後、3回処理区では最終処理3日及び7日後に、植物の土壌表面から約2～3 cm上を試料とした。なお、処理7日後の試料には一部乾燥したものがあったことから、処理7日後のデータは評価に用いられなかった。

レタス中の未変化のスピネトラム及び代謝物の放射能濃度は表19に示されている。

いずれの試料においても、残留放射能はそのほとんどが有機溶媒による洗浄液及び抽出液中に存在し、抽出残渣では5.2%TRR以下、水溶性画分では3.4%TRR以下認められた。また、処理3日後の残留放射能濃度は3回処理試料（スピネトラム-J：6.1 mg/kg、スピネトラム-L：3.4 mg/kg）の方が1回処理試料（スピネトラム-J：36.4 mg/kg、スピネトラム-L：10.8 mg/kg）よりも低かった。

¹⁴C-スピネトラム-J(I) 1回処理試料において、主要成分は未変化のスピネトラム-Jであった（17.6%TRR～63.6%TRR、6.4～31.7 mg/kg）。主要代謝物として、B（8.9%TRR～19.6%TRR、4.4～11.6 mg/kg）及びD（6.6%TRR～11.2%TRR、3.3～5.9 mg/kg）が認められた。3回処理試料では、これらの成分はいずれも1 mg/kg未満であった。

¹⁴C-スピネトラム-L(II)処理試料においても、未変化のスピネトラム-Lのほか、主要代謝物としてC及びEが認められたが、残留濃度は¹⁴C-スピネトラム-J(I)処理試料と比べ低かった。¹⁴C-スピネトラム-L(II)処理試料では、放射能の大部分が多成分の極性混合物であった。（参照6）

表19 レタス中の未変化のスピネトラム及び代謝物の放射能濃度

処理回数	¹⁴ C-スピネトラム-J(I)処理試料							
	スピネトラム-J		B		D		多成分混合物	
	%TRR	mg/kg	%TRR	mg/kg	%TRR	mg/kg	%TRR	mg/kg
1回処理*	17.6	6.4	15.5	5.6	11.2	4.1	36.5	13.3
3回処理**	8.5	0.5	7.2	0.4	14.8	0.9	51.1	3.1
処理回数	¹⁴ C-スピネトラム-L(II)処理試料							
	スピネトラム-L		C		E		多成分混合物	
	%TRR	mg/kg	%TRR	mg/kg	%TRR	mg/kg	%TRR	mg/kg
1回処理*	5.1	0.6	3.5	0.4	2.0	0.2	74.6	8.0
3回処理**	2.8	0.1	1.5	0.1	1.1	0.04	77.5	2.6

*：処理3日後の値、**：最終処理3日後の値

植物におけるスピネトラムの主要代謝経路は、スピネトラムのホロサミン糖部分のN-脱メチル化による代謝物B又はCの生成及びその後のN-ホルミル化による代謝物D又はEの生成であると考えられた。また、ラムノース部分の脱エチル化による代謝物F及びマクロライド骨格の水酸化による代謝物Hの生成、そしてスピネトラム及び代謝物のマクロライド骨格の開裂又は

開環による、多数の極性成分の生成が考えられた。スピネトラム-J については、ホロサミン糖の変化を含む経路の方が、マクロライド骨格の変化を含む経路よりやや優位であり、スピネトラム-L ではその逆であった。この違いは、スピネトラム-J のマクロライド骨格の 5,6 位に二重結合がないことによるものと推察された。

3. 土壤中運命試験

(1) 好氣的湛水土壌中運命試験

^{14}C -スピネトラム-J(I)又は ^{14}C -スピネトラム-L(II)を水深約 1.0 cm の湛水状態にした非滅菌土壌〔砂質埴壌土（茨城）〕に 1 mg/kg 乾土の用量で水層に混和し、25℃の暗条件下で 180 日間インキュベートして好氣的湛水土壌中運命試験が実施された。

各抽出相における放射能分布は表 20 に示されている。

^{14}C -スピネトラム-J(I)を処理した土壌試料において、アルカリ性及び酸性抽出液中の放射能は処理 0 日後の 24%TAR から処理 30 日後の 84%TAR に増加し、試験終了時には 82%TAR となった。土壌残渣中の放射能は、処理 0 日後の 1%TAR から試験終了時には 14%TAR に増加した。未変化のスピネトラム-J は、水層中では処理 0 日後の 66%TAR から試験終了時の 0.2%TAR まで減少し、土壌中では処理 0 日後の 24%TAR から処理 30 日後の 76%TAR に増加した後、試験終了時には 45%TAR に減少した。分解物として、B が水層中に最大 1.3%TAR、土壌中に最大 30%TAR 認められた。

^{14}C -スピネトラム-L(II)を処理した土壌試料において、アルカリ性及び酸性抽出液中の放射能は処理 0 日後の 32%TAR から処理 30 日後の 87%TAR に増加し、試験終了時には 78%TAR であった。土壌残渣中の放射能は、処理 0 日後の 1%TAR から試験終了時には 14%TAR に増加した。未変化のスピネトラム-L は、水層中では処理 0 日後の 56%TAR から試験終了時の 0.3%TAR まで減少し、土壌中では試験 0 日後の 31%TAR から処理 30 日後の 79%TAR に増加し、試験終了時には 65%TAR であった。分解物として、C が水層中に最大 2.6%TAR、土壌中に最大 11%TAR 認められた。

スピネトラム-J の推定半減期は 193 日、スピネトラム-L の推定半減期は 456 日であった。（参照 10）

表 20 各抽出相における放射能分布 (%TAR)

標識体	抽出相	抽出物	処理後日数(日)			
			0	30	100	180
¹⁴ C-スピネ トラム-J(I)	水層	スピネトラム-J	66.2	3.6	1.0	0.2
		B	1.3	0.9	1.6	1.3
	土壌*	抽出物合計	24.4	83.9	78.2	81.9
		スピネトラム-J	23.8	75.8	59.7	44.7
		B	ND	4.9	16.7	29.6
	土壌残渣		0.7	9.5	12.0	14.3
¹⁴ C-スピネ トラム-L(II)	水層	スピネトラム-L	55.8	1.8	0.5	0.3
		C	2.6	0.9	0.4	0.5
	土壌*	抽出物合計	31.6	87.3	83.1	78.4
		スピネトラム-L	30.5	78.6	65.4	65.0
		C	ND	6.3	11.0	8.9
	土壌残渣		0.9	8.2	11.4	13.8

*：アルカリ性溶媒抽出相と酸性溶媒抽出相の合計、ND：検出されず

(2) 好氣的土壤中運命試験

¹⁴C-スピネトラム-J(I)又は¹⁴C-スピネトラム-L(II)を4種類の米国土壤(壤土①及び②、シルト質壤土、砂壤土)に0.2 mg/kg 乾土の用量で土壌混和し、25℃の暗条件下で12か月間インキュベートして好氣的土壤中運命試験が実施された。

スピネトラム-J及びスピネトラム-Lは、4種類のいずれの土壌においても経時的に分解し、試験終了時には3%TAR以下に減少した。¹⁴C-スピネトラム-J(I)処理土壌からは、主要分解物としてBが最大45.2%TAR～68.1%TAR検出されたが、試験終了時には6.3%TAR～44.5%TARに減少した。¹⁴C-スピネトラム-L(II)処理土壌からは、主要分解物としてCが最大12.2%TAR～41.0%TAR検出されたが、試験終了時には9.1%TAR以下に減少した。そのほかに2%TAR以下の微量分解物が多数認められた。揮発性放射能として¹⁴CO₂が認められ、試験終了時には¹⁴C-スピネトラム-J(I)処理土壌で5.0%TAR～35.2%TAR、¹⁴C-スピネトラム-L(II)処理土壌で9.5%TAR～36.2%TARに達した。

推定半減期はスピネトラム-Jで8～29日、スピネトラム-Lで3～17日であった。(参照11)

(3) 土壌表面光分解試験

¹⁴C-スピネトラム-J(I)又は¹⁴C-スピネトラム-L(II)を壤土(米国)に20 mg/kg 乾土の用量で土壌表面に均一に処理し、25℃の暗条件下で15日間(スピネトラム-J)又は18日間(スピネトラム-L)キセノンランプ光[光強度：44 W/m²(波長：300～400 nm)及び399 W/m²(波長：290～800 nm)]

を連続照射する土壌表面光分解試験が実施された。

スピネトラム-J は光照射により経時的に減少し、処理直後の 97.1%TAR から試験終了時には 58.2%TAR まで減少した。分解物は多数認められたが、いずれも 5%TAR 未満であった。

スピネトラム-L は光照射により経時的に減少し、処理直後の 93.2%TAR から試験終了時には 25.7%TAR まで減少した。分解物は多数認められたが、いずれも 7%TAR 未満であった。

暗所対照区において、試験終了時に 87.7%TAR (^{14}C -スピネトラム-J(I)処理) 及び 82.9%TAR (^{14}C -スピネトラム-L(II)処理) が未変化のスピネトラムとして残存していた。

スピネトラム-J の推定半減期は 63 日、北緯 35 度（東京）春の自然太陽光換算で 170 日、スピネトラム-L の推定半減期は 15 日、北緯 35 度（東京）春の自然太陽光換算で 63 日であった。（参照 12）

（４）土壌吸着試験

7 種類の土壌〔埴壤土（英国）、壤土（イタリア）、壤質砂土（ドイツ及び英国）、砂質埴壤土（ドイツ）及び砂壤土（日本及び英国）〕を用い、スピネトラム（スピネトラム-J 及びスピネトラム-L）並びに分解物 B 及び C の土壌吸着試験が実施された。

結果は表 21 に示されている。（参照 13）

表 21 土壌吸着試験結果概要

化合物	K_{ads}	$K_{\text{ads}_{\text{oc}}}$
スピネトラム-J	21～55	1,200～3,440
スピネトラム-L	15～121	1,100～7,560
分解物 B	24～65	1,230～4,060
分解物 C	17～76	1,280～4,750

K_{ads} : Freundlich の吸着係数

$K_{\text{ads}_{\text{oc}}}$: 有機炭素含有率により補正した吸着係数

4. 水中運命試験

（１）加水分解試験

pH 5（酢酸緩衝液）、pH 7（トリスアミノメタン酸緩衝液）及び pH 9（ホウ酸緩衝液）の各滅菌緩衝液に ^{14}C -スピネトラム-J(D5)又は ^{14}C -スピネトラム-L(D5)を 0.5 $\mu\text{g/mL}$ となるように添加し、25℃の暗条件下で 30 日間インキュベートして加水分解試験が実施された。

スピネトラム-J は、pH 5 及び 7 の緩衝液中ではほとんど分解せず安定であった。pH 9 の緩衝液中では徐々に分解し、処理 30 日後には 89.1%TAR となった。分解物として B が最大 6.7%TAR（処理 30 日後）検出された。

スピネトラム-L は、pH 5 及び 7 の緩衝液中ではほとんど分解せず安定であった。pH 9 の緩衝液中では徐々に分解し、処理 30 日後には 81.6%TAR となった。分解物として C が最大 11.9%TAR（処理 30 日後）検出された。

スピネトラム-J は pH 9 において分解が遅いため、推定半減期は算出できなかった。スピネトラム-L の pH 9 における推定半減期は 154 日であると考えられた。（参照 14）

（２）水中光分解試験（滅菌緩衝液）

滅菌緩衝液（pH 7、トリスアミノメタン酸緩衝液）に ^{14}C -スピネトラム-J(I) 又は ^{14}C -スピネトラム-L(II) を $0.3\text{ }\mu\text{g/mL}$ （スピネトラム-J）又は $0.5\text{ }\mu\text{g/mL}$ （スピネトラム-L）の用量で添加し、 $25\pm 2^\circ\text{C}$ で 19 日間キセノンランプ光（光強度： 454 W/m^2 、波長：290～800 nm）を連続照射する水中光分解試験が実施された。

スピネトラム-J は光照射により経時的に減少し、処理直後の 98.4%TAR から処理 4 日後には検出限界未満となった。分解物として、未同定の MW813 が処理 7 日後に最大 11%TAR 検出されたが、試験終了時（処理 19 日後）には約 1%TAR に減少した。ほかに分解物 B が検出された（処理 0.33 日後に最大 7%TAR）。

スピネトラム-L は光照射により経時的に減少し、処理直後の 94.9%TAR から処理 2 日後には検出限界未満となった。主要分解物として C が処理 0.17 日後に最大 12%TAR 検出されたが、処理 2 日後には 1%TAR 未満に減少した。

暗所対照区では、試験終了時に 90%TAR 以上が未変化のスピネトラムとして残存しており、分解物は認められなかった。

スピネトラム-J の推定半減期は 0.38 日、北緯 35 度（東京）春の自然太陽光換算で 2.21 日、スピネトラム-L の推定半減期は 4.1 時間（0.17 日）、北緯 35 度（東京）春の自然太陽光換算で 23.8 時間（0.99 日）であった。（参照 15）

（３）水中光分解試験（滅菌自然水）

^{14}C -スピネトラム-J 又は ^{14}C -スピネトラム-L を滅菌自然水（米国、河川水、pH 8.5）に $1\text{ }\mu\text{g/mL}$ （スピネトラム-J）又は $2\text{ }\mu\text{g/mL}$ （スピネトラム-L）の用量で添加し、 $25\pm 2^\circ\text{C}$ で 16 日間キセノンランプ光（光強度： 482 W/m^2 、波長：290～800 nm）を連続照射する水中光分解試験が実施された。

スピネトラム-J は光照射により経時的に減少し、処理直後の 96.5%TAR から処理 4 日後には検出限界未満となった。主要分解物として、B が処理 0.33 日後に最大 28%TAR 検出されたが、処理 4 日後には検出限界未満となった。

スピネトラム-L は光照射により経時的に減少し、処理直後の 98.1%TAR

から処理 1 日後には検出限界未満となった。主要分解物として、L が処理 0.33 日後に最大 23%TAR 検出されたが、処理 8 日後には検出限界未満となった。ほかに分解物 C が検出された（処理 0.13 日後に最大 8.8%TAR）。

暗所対照区では、試験終了時に 94%TAR 以上が未変化のスピネトラムとして残存しており、分解物は認められなかった。

スピネトラム-J の推定半減期は 0.13 日、北緯 35 度（東京）春の自然太陽光換算で 0.94 日、スピネトラム-L の推定半減期は 0.07 日、北緯 35 度（東京）春の自然太陽光換算で 12 時間（0.50 日）であった。（参照 16）

5. 土壌残留試験

火山灰土・軽埴土（茨城）、砂質埴壤土（大分）及び風積土・砂土（宮崎）を用い、スピネトラム（スピネトラム-J 及びスピネトラム-L）並びに分解物 B 及び C を分析対象化合物とした土壌残留試験（容器内及びほ場試験）が実施された。

結果は表 22 に示されている。（参照 17）

表 22 土壌残留試験成績

試験	状態	濃度*	土壌	推定半減期(日)**	
				スピネトラム	スピネトラム +分解物 B、C
容器内 試験	湛水	0.21 mg/kg	火山灰土・軽埴土	203	222
			砂質埴壤土	226	227
	畑地	0.34 mg/kg	火山灰土・軽埴土	25	126
			風積土・砂土	82	361
ほ場 試験	水田	250 g ai/ha ¹⁾	火山灰土・軽埴土	1(1)	1(1)
			砂質埴壤土	95(116)	105(161)
	畑地	360 g ai/ha ²⁾	火山灰土・軽埴土	14(13)	108(96)
			風積土・砂土	9(9)	17(17)

*：容器内試験では原体、ほ場試験では ¹⁾0.5%粒剤、²⁾12%水和剤を使用。

**：推定半減期はグラフから求めた（括弧内は計算式から求められた推定半減期）。

6. 作物等残留試験

（1）作物残留試験

① 作物残留試験（国内）

水稻、茶、野菜及び果物を用い、スピネトラム-J 及びスピネトラム-L 並びに代謝物 B、C、D 及び E を分析対象化合物とした作物残留試験が実施された。

スピネトラム-J 及びスピネトラム-L を分析対象化合物とした結果は別紙 3

に示されている。

スピネトラム-J 及びスピネトラム-L の最大残留値は、それぞれ最終散布 1 日後に収穫した茶（荒茶）の 32.8 及び 8.51 mg/kg であった。また、代謝物の最大残留値は、B 及び C ではそれぞれ最終散布 1 日後に収穫したレタスの 0.643 及び 0.061 mg/kg、D では最終散布 7 日後に収穫した茶（荒茶）の 0.725 mg/kg、E では最終散布 1 日後に収穫したサラダ菜の 0.029 mg/kg であった。（参照 18、54、55、61、62、67、79、82、87、88）

② 作物残留試験（海外）

a. 比較試験

スピノサド¹の残留データをスピネトラムに読み替えることが適切か検討するため、比較試験が実施された。フロアブル剤を複数回茎葉処理した後のりんご、てんさい、牧草、リーフレタス、オレンジ及びトマトにおけるスピネトラム、スピノサド及びそれらの代謝物の残留量を測定した。

結果は別紙 4 に示されている。

スピネトラムの最大残留値及び平均値は、牧草以外の全ての作物で、スピノサドに比べ低く、牧草においては、スピノサドで同等であった。したがって、スピノサドの残留データをスピネトラムに読み替えることが妥当であることが示された。（参照 19）

b. 作物残留試験

米国において、りんご、オレンジ等を用い、スピノシン A、スピノシン D 並びに代謝物であるスピノシン B、スピノシン K 及び *N*-デスメチルスピノシン D を分析対象化合物とした作物残留試験が実施された。

結果は別紙 4 に示されている。

分析対象化合物の合計の最大残留値は、最終散布 1 日後に収穫したからしなの 4.33 mg/kg であった。（参照 20、56）

（2）後作物残留試験

水田の後作物として小麦及びだいこん、畑地の後作物としてかぶ及びきゅうりを用い、スピネトラム-J 及びスピネトラム-L 並びに代謝物 B、C、D 及び E を分析対象化合物とした後作物残留試験が実施された。

スピネトラム-J、スピネトラム-L 及び分析対象とされた代謝物は、全ての試験において定量限界未満であった。（参照 21）

¹ スピノサドは、ダウ・アグロサイエンス社が開発した殺虫剤であり、スピネトラムと同じマクロライド骨格を有する。スピノサドは、スピノシン A 及びスピノシン D の混合物で、原体中にはそれぞれ 72%以上及び 4%以上（2 成分の合計で 82%以上）含まれる。日本では 1999 年に初回農薬登録された。

(3) 畜産物残留試験

泌乳牛（ホルスタイン種、投与群：1 群 3 又は 12 頭、対照群：4 頭）にスピネトラムを 29 日間カプセル経口（被験物質 A 又は B: 投与量は表 23 参照）投与し、スピネトラム-J 及びスピネトラム-L 並びに代謝物 B 及び D を分析対象化合物とした畜産物残留試験が実施された。3.69 mg/kg 飼料投与群（9 頭）及び対照群（1 頭）については、29 日間の投与終了後、最長 56 日間の休薬期間が設けられた。乳汁は毎日午前及び午後の 2 回、腎臓、肝臓、筋肉及び脂肪は最終投与 24 時間以内並びに休薬期間 14 日、28 日及び 56 日後に採取された。

表 23 畜産物残留試験の被験物質投与量 (mg/kg 飼料)

投与群	被験物質 A ¹⁾		被験物質 B ²⁾
	合計 ³⁾	スピネトラム ⁴⁾	スピネトラム
①	1.18	0.42	
②	3.69	1.31	
③	11.5	4.06	
④	38.6	13.7	
⑤			37.6

注) 本試験における用量は、作物残留試験から得られた飼料用作物の残留濃度から算出される乳牛における予想飼料負荷量と比較して高かった。

1): スピネトラム-J (26%)、スピネトラム-L (6%)、代謝物 B (28%) 及び D (30%)

2): スピネトラム-J 及びスピネトラム-L の合計 (86%)

3): スピネトラム-J、スピネトラム-L、代謝物 B 及び D の合計

4): スピネトラム-J 及びスピネトラム-L の実測値の合計

/: 該当なし

結果は別紙 5 に示されている。

乳汁中におけるスピネトラム-J 及びスピネトラム-L の含量の最大残留値は、38.6 mg/kg 飼料投与群及び 37.6 mg/kg 飼料投与群でそれぞれ 0.597 及び 1.30 µg/g であり、スピネトラム-J 及びスピネトラム-L 並びに代謝物 B 及び D の含量の最大残留値はそれぞれ 0.638 及び 1.30 µg/g であった。

組織中におけるスピネトラム-J 及びスピネトラム-L の含量の最大残留値は、38.6 mg/kg 飼料投与群及び 37.6 mg/kg 飼料投与群でそれぞれ 3.70 µg/g（腸間膜脂肪）及び 16.5 µg/g（腎周囲脂肪）であり、スピネトラム-J 及びスピネトラム-L 並びに代謝物 B 及び D の含量の最大残留値は、それぞれ 3.89 µg/g（腸間膜脂肪）及び 16.6 µg/g（腎周囲脂肪）であった。（参照 69、70、79、83）

(4) 推定摂取量

別紙 3 の作物残留試験及び別紙 5 の畜産物残留試験の分析値を用いて、スピネトラム（スピネトラム-J 及びスピネトラム-L）をばく露評価対象物質とした際に、食品中から摂取される推定摂取量が表 24 に示されている（詳細は別紙 6）。

なお、本推定摂取量の算定は、登録又は申請された使用方法からスピネトラムが最大の残留を示す使用条件で、全ての適用作物に使用され、加工・調理による残留農薬の増減が全くないとの仮定の下に行った。

表 24 食品中から摂取されるスピネトラムの推定摂取量

	国民平均 (体重：55.1 kg)	小児(1～6 歳) (体重：16.5 kg)	妊婦 (体重：58.5 kg)	高齢者(65 歳以上) (体重：56.1 kg)
摂取量 (μg /人/日)	239	105	247	301

7. 一般薬理試験

ラット及びイヌを用いた一般薬理試験が実施された。

結果は表 25 に示されている。（参照 22）

表 25 一般薬理試験概要

試験の種類		動物種	動物数 匹/群	投与量* (mg/kg 体重) (投与経路)	最大 無作用量 (mg/kg 体重)	最小作用量 (mg/kg 体重)	結果の概要
中枢神経系	一般状態 (Irwin 法)	SD ラット	雌雄 各 3	0、200、600、 2,000 (経口)	2,000	—	投与による影響なし
	自発運動量	SD ラット	雄 5	0、200、600、 2,000 (経口)	600	2,000	2,000 mg/kg 体重で自 発運動量減少(測定開 始 10～20 分後**)
	痙攣誘発及 び抑制作用 (ペンテトラゾ ール誘発痙攣)	SD ラット	雄 10	0、200、600、 2,000 (経口)	2,000	—	投与による影響なし
腎機能	尿量、Na ⁺ 、 K ⁺ 、Cl ⁻ 濃度、 浸透圧	SD ラット	雄 10	0、200、600、 2,000 追加試験： 0、50、 100、150 (経口)	50	100	100 mg/kg 体重以上で 尿中 K ⁺ 排泄量の減少 200 mg/kg 体重以上投 与群で尿量の減少 600 mg/kg 体重以上投 与群で尿中 Cl ⁻ 排泄量 の減少 2,000 mg/kg 体重投与 群で Na ⁺ 排泄量の減少 及び浸透圧の増加(投 与後 6 時間)
呼吸器系	呼吸数、 1 回換気量、 分時換気量	SD ラット	雄 6	0、200、600、 2,000 (経口)	2,000	—	投与による影響なし
循環器系	血圧、 心拍数、 心電図	ビーグ ル犬	雄 4	0、200、600、 2,000 (経口)	2,000	—	投与による影響なし

*：溶媒として 0.5%MC 溶液が用いられた。

**：投与 2 時間後より測定開始

8. 急性毒性試験

(1) 急性毒性試験

スピネトラム原体を用いた急性毒性試験が実施された。

結果は表 26 に示されている。(参照 23～25、68)

表 26 急性毒性試験結果概要（原体）

投与経路	動物種 性別・匹数	LD ₅₀ (mg/kg 体重)		観察された症状
		雄	雌	
経口 ¹⁾ a	Fischer ラット 雌 3 匹		>5,000	投与量：5,000 mg/kg 体重 水様便、会陰部及び口周囲の汚れ 死亡例なし
経口 ²⁾	Fischer ラット 雌・匹数不明		>5,000	詳細不明
経皮 ¹⁾	Fischer ラット 雌雄各 5 匹	>5,000	>5,000	会陰部、口周囲、鼻周囲又は眼周囲 の汚れ 死亡例なし
吸入 ¹⁾	Fischer ラット 雌雄各 5 匹	LC ₅₀ (mg/L)		眼、会陰部又は広範囲に及ぶ身体 の汚れ 死亡例なし
		>5.5	>5.5	
吸入 ³⁾	Fischer ラット 雌雄・匹数不明	>5.44		詳細不明

溶媒として 0.5%MC 水溶液が用いられた。

¹⁾：純度：85.8%（スピネトラム-J：64.6%、スピネトラム-L：21.2%）

²⁾：純度：86.3%（スピネトラム-J：73.0%、スピネトラム-L：13.3%）

³⁾：純度：84.5%（スピネトラム-J：71.7%、スピネトラム-L：12.9%）

a：上げ下げ法による評価

代謝物 B、D 及び E のラットを用いた急性経口毒性試験が実施された。
結果は表 27 に示されている。（参照 26～27）

表 27 急性毒性試験結果概要（代謝物）

被験物質	投与経路	動物種 性別・匹数	LD ₅₀ (mg/kg 体重)	観察された症状
代謝物 B	経口 ^a	Fischer ラット 雌 13 匹	3,130	活動低下、肛門性器の汚れ、下痢、 顔面汚れ、軟便、便量の減少及び 円背姿勢 5,000 mg/kg 体重で死亡例
代謝物 D	経口 ^a	Fischer ラット 雌 5 匹	>5,000	症状及び死亡例なし
代謝物 E	経口 ^a	Fischer ラット 雌 3 匹	>5,000	症状及び死亡例なし

溶媒として 0.5%MC 水溶液が用いられた。

a：上げ下げ法による評価

（2）急性神経毒性試験

Fischer ラット（一群雌雄各 10 匹）を用いた強制経口〔原体（純度：85.8%（スピネトラム-J：64.6%、スピネトラム-L：21.2%））：0、200、630 及び 2,000 mg/kg 体重、溶媒：0.5%MC 水溶液〕投与による急性神経毒性試験が実施された。

本試験において、いずれの投与群においても検体投与の影響は認められなかったことから、無毒性量は雌雄とも本試験の最高用量 2,000 mg/kg 体重であると考えられた。急性神経毒性は認められなかった。（参照 28）

9. 眼・皮膚に対する刺激性及び皮膚感作性試験

（1）原体①

NZW ウサギを用いた眼及び皮膚刺激性試験が実施された〔純度：85.8%（スピネトラム-J：64.6%、スピネトラム-L：21.2%）〕。眼に対しては刺激性あり（米国 EPA の基準）又はごく軽度の刺激性あり（Kay and Calandra の方法）と判定されたが、皮膚に対する刺激性は認められなかった。

BALB/cAnNCrl マウスを用いた皮膚感作性試験（LLNA 試験）が実施された〔純度：85.8%（スピネトラム-J：64.6%、スピネトラム-L：21.2%）〕。弱い皮膚感作性が認められた。（参照 29～31）

（2）原体②

NZW ウサギを用いた皮膚刺激性試験が実施された〔純度：86.3%（スピネトラム-J：73.0%、スピネトラム-L：13.3%）〕。皮膚に対しては軽度の刺激性が認められた。

CBA/J マウスを用いた皮膚感作性試験（LLNA 試験）が実施された〔純度：86.3%（スピネトラム-J：73.0%、スピネトラム-L：13.3%）〕。皮膚感作性は認められなかった。（参照 68）

10. 亜急性毒性試験

（1）90 日間亜急性毒性試験①（ラット）

Fischer ラット（一群雌雄各 10 匹）を用いた混餌〔原体（純度：83.0%、スピネトラム-J：62.0%、スピネトラム-L：21.0%）；雄：0、120、500、1,000 及び 2,000 ppm、雌：0、120、500、1,000、2,000 及び 4,000 ppm：平均検体摂取量は表 28 参照〕投与による 90 日間亜急性毒性試験が実施された。なお、0 及び 1,000 ppm 投与群については別途回復群が設けられ、4 週間の回復期間が設定された。

表 28 90 日間亜急性毒性試験①（ラット）の平均検体摂取量

投与群		120 ppm	500 ppm	1,000 ppm	2,000 ppm	4,000 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	7.92	32.4	65.8	128	311
	雌	9.50	39.6	79.3	159	

／：該当なし

各投与群で認められた毒性所見は表 29 に、回復群で認められた毒性所見

は表 30 に示されている。

回復群においては、投与群において認められた病変と同様の病変が認められたが、雌の腸間膜におけるマクロファージ又は組織球集簇を除き、その程度が軽減し、回復性が認められた。雌の肝臓では、肝小葉の門脈周囲領域に褐色色素を含有するマクロファージ又は組織球の集簇が認められた。この色素は、特殊染色の結果、リポフスチン及びヘモジデリンから成り、その程度はヘモジデリンの方がリポフスチンより顕著に沈着していた。また、この色素は 90 日間投与群では認められなかった。

対照群並びに 2,000 及び 4,000 ppm 投与群の雌（それぞれ 5 匹、3 匹及び 2 匹）の腎臓（皮質）について、電子顕微鏡的検査が実施された。2,000 ppm 投与群の雌の尿細管上皮細胞内に、電子密度の低い不定形物質及び稀に渦巻き状の膜構造を含む不均一なリソゾームが認められた。4,000 ppm 投与群の雌では尿細管上皮細胞内に不定形物質又は層板状構造物を含有する空胞の存在が示唆された。これらの変化は CAD として知られている薬剤を投与した動物で観察されるものと類似しており、本剤が CAD である可能性が示唆された。

本試験において、1,000 ppm 以上投与群の雄及び 500 ppm 以上投与群の雌でマクロファージ又は組織球の集簇等が認められたことから、無毒性量は雄で 500 ppm（32.4 mg/kg 体重/日）、雌で 120 ppm（9.50 mg/kg 体重/日）であると考えられた。（参照 32）

表 29 90 日間亜急性毒性試験①（ラット）で認められた毒性所見

投与群	雄	雌
4,000 ppm		・摂餌量減少(投与 1～36 日、57～64 日、85～90 日) ・MCHC 減少 ・ALP 増加 ・尿中 Bil 増加 ・骨格筋(後肢)筋線維変性
2,000 ppm 以上	・体重増加抑制(投与 1 週以降)及び摂餌量減少(投与 1～8 日、43～50 日、57～64 日) ・AST 増加 ・脾絶対及び比重量増加、肝及び甲状腺比重量増加 ・マクロファージ又は組織球の集簇(骨髓及び肝) ・多核肝細胞 ・腎近位尿細管硝子滴減少 ・骨格筋(背部及び頭部)筋線維変性	・体重増加抑制^a ・MCHC 減少 ・AST 増加 ・T₃ 減少 ・甲状腺、腎、心絶対及び比重量増加、肝絶対重量増加 ・マクロファージ又は組織球の集簇(骨格筋) ・空腸及び回腸固有層内組織球空胞化 ・骨格筋(頭部及び喉頭部)筋線維変性
1,000 ppm 以上	・ALT 増加 ・マクロファージ又は組織球の集簇(縦隔リンパ節、腸間膜リンパ節、脾臓、胸腺、空腸、回腸) ・甲状腺ろ胞上皮細胞空胞化 ・骨格筋(喉頭部)筋線維変性	・Hb、Ht、MCV 及び MCH 減少、WBC 及び網状赤血球数増加 ・脾絶対及び比重量増加、肝比重量増加 ・マクロファージ又は組織球の集簇(縦隔リンパ節、胸腺及び回腸) ・骨格筋(背部)筋線維変性
500 ppm 以上	500 ppm 以下 毒性所見なし	・TG 減少 ・T₄ 減少 ・マクロファージ又は組織球の集簇[腸間膜リンパ節、脾臓、骨髓(胸骨、後肢及び脊椎)、空腸及び肝臓] ・腎尿細管上皮細胞空胞化 ・甲状腺ろ胞上皮細胞空胞化、コロイド枯渇
120 ppm		毒性所見なし

^a: 4,000 ppm 投与群では投与 1 週から有意差が認められ、2,000 ppm 投与群では投与期間の体重増加量について有意差が認められた。

表 30 90 日間亜急性毒性試験①（ラット）の回復群で認められた毒性所見

投与群	雄	雌
1,000 ppm	- ALT 増加 - 腎近位尿細管硝子滴形成減少 - マクロファージ又は組織球の集簇（縦隔リンパ節、腸間膜リンパ節） - 甲状腺ろ胞上皮細胞空胞化	- 脾比重増加 - マクロファージ又は組織球の集簇〔縦隔リンパ節、腸間膜リンパ節、空腸、回腸及び骨髓（後肢及び胸骨）〕 - 肝門脈周囲リポフスチン^a含有マクロファージ及び組織球集簇 - 甲状腺ろ胞上皮細胞空胞化

^a：ヘモジデリンとリポフスチンが同時に含まれる。

（2）90 日間亜急性毒性試験②（ラット）

Fischer ラット（一群雌雄各 10 匹）を用いた混餌〔原体（純度：86.3%、スピネトラム-J：73.0%、スピネトラム-L：13.3%）：0、120、500、1,000 及び 2,000 ppm：平均検体摂取量は表 31 参照〕投与による 90 日間亜急性毒性試験が実施された。

表 31 90 日間亜急性毒性試験②（ラット）の平均検体摂取量

投与群		120 ppm	500 ppm	1,000 ppm	2,000 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	8	35	69	137
	雌	9	35	71	142

各投与群で認められた毒性所見は表 32 に示されている。

本試験において、1,000 ppm 以上投与群の雄及び 500 ppm 以上投与群の雌でマクロファージ又は組織球の集簇等が認められたことから、無毒性量は雄で 500 ppm（35 mg/kg 体重/日）、雌で 120 ppm（9 mg/kg 体重/日）であると考えられた。（参照 68）

表 32 90 日間亜急性毒性試験②（ラット）で認められた毒性所見

投与群	雄	雌
2,000 ppm	- WBC 及び Ret 増加 - ALP 増加 - マクロファージ又は組織球の集簇（脾及び骨髓）	- WBC 及び Ret 増加 - Baso 及び LUC 増加 - AST 及び ALP 増加
1,000 ppm 以上	- ALT 及び AST 増加 - マクロファージ又は組織球の集簇（縦隔リンパ節、腸間膜リンパ節、胸腺）	- PLT 及び Neu 減少 - マクロファージ又は組織球の集簇（脾）
500 ppm 以上	500 ppm 以下 毒性所見なし	マクロファージ又は組織球の集簇（縦隔リンパ節、腸間膜リンパ節、胸腺、骨髓）
120 ppm		毒性所見なし

(3) 90 日間亜急性毒性試験（マウス）

ICR マウス（一群雌雄各 10 匹）を用いた混餌〔原体（純度：83.0%、スピネトラム-J：62.0%、スピネトラム-L：21.0%）：0、50、150 及び 450 ppm：平均検体摂取量は表 33 参照〕投与による 90 日間亜急性毒性試験が実施された。

表 33 90 日間亜急性毒性試験（マウス）の平均検体摂取量

投与群		50 ppm	150 ppm	450 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	7.5	22.8	70.5
	雌	10.2	29.6	89.9

各投与群で認められた毒性所見は表 34 に示されている。

本試験において、150 ppm 投与群の雄で精巣上体頭部管上皮細胞の空胞化、雌で髄外造血亢進等が認められたことから、無毒性量は雌雄とも 50 ppm（雄：7.5 mg/kg 体重/日、雌：10.2 mg/kg 体重/日）であると考えられた。（参照 68）

表 34 90 日間亜急性毒性試験（マウス）で認められた毒性所見

投与群	雄	雌
450 ppm	・ 体重増加抑制(投与 1 週以降)[§] 及び摂餌量減少(投与 1～8 及び 57～64 日) ・ RBC[§]減少 ・ Hb、Ht 及び MCV 減少 ・ Ret 増加 ・ AST 増加 ・ 肝絶対[§]及び比重量増加 ・ 脾絶対及び比重量増加 ・ 細胞質空胞化(実質細胞、上皮細胞、マクロファージ及び線維芽細胞)^a ・ 腺胃部粘膜過形成及び粘膜腺腔拡張 ・ 骨格筋線維及び腎尿細管上皮細胞変性/再生 ・ 脾髄外造血亢進	・ RBC[§]減少 ・ Hb、Ht 及び MCV 減少 ・ Ret[§]増加 ・ AST 及び ALT 増加 ・ 肝絶対[§]及び比重量増加 ・ 脾絶対及び比重量増加 ・ 細胞質空胞化(実質細胞、上皮細胞、マクロファージ及び線維芽細胞)^a ・ 腺胃部粘膜過形成 ・ 骨格筋線維及び腎尿細管上皮細胞変性/再生
150 ppm 以上	・ 精巣上体頭部管上皮細胞空胞化	・ WBC 増加 ・ 脾髄外造血亢進 ・ 腺胃部粘膜腺腔拡張
50 ppm	毒性所見なし	毒性所見なし

[§]：統計学的有意差はないが、検体投与の影響と考えられた。

^a：精巣上体（雄）、肝臓（雌）、縦隔リンパ節、腸間膜リンパ節及び脾臓に認められた。

(4) 90 日間亜急性毒性試験（イヌ）

ビーグル犬（一群雌雄各 4 匹）を用いた混餌〔原体（純度：85.8%、スピネトラム-J：64.6%、スピネトラム-L：21.2%）：0、150、300 及び 900 ppm：平均検体摂取量は表 35 参照〕投与による 90 日間亜急性毒性試験が実施された。

表 35 90 日間亜急性毒性試験（イヌ）の平均検体摂取量

投与群		150 ppm	300 ppm	900 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	5.73	9.82	27.1
	雌	4.97	10.2	31.0

各投与群で認められた毒性所見は表 36 に示されている。

150 ppm 投与群の雄で回腸、空腸及び鼻腔組織並びに直腸のリンパ組織内及びリンパ節内マクロファージの空胞化が認められたが、軽微な変化であり、血液及び血液生化学的検査項目並びに臓器重量に変化が認められないことから、毒性影響ではないと考えられた。

本試験において、300 ppm 以上投与群の雌雄で骨髓壊死等が認められたことから、無毒性量は雌雄とも 150 ppm（雄：5.73 mg/kg 体重/日、雌：4.97 mg/kg 体重/日）であると考えられた。（参照 33）

表 36 90 日間亜急性毒性試験（イヌ）で認められた毒性所見

投与群	雄	雌
900 ppm	・消瘦(投与 64～92 日)、円背位(投与 71 日)、自発運動減少(投与 71 日)、反応性減少(投与 71 日)、無便(投与 71 日)及び尿による外陰部汚れ(投与 64～71 及び 92 日)(1 匹) ・Hb、RBC、Ht、MCH 及び MCHC 減少、網状赤血球数及び大型非染色性細胞^a増加 ・AST 及び Alb 増加 ・肝絶対及び比重量増加 ・マクロファージの空胞化(肺) ・動脈炎又は血管周囲炎(大動脈、脳、心臓、肺、腸間膜リンパ節、鼻腔組織、胃及び精巣)	・体重増加抑制[§](投与 1 週以降) ・Hb、WBC、RBC、Ht、PLT、MCH 及び MCHC 減少、大型非染色性細胞^a及び Mon 増加 ・AST 及び Glob 増加、Alb 減少 ・肝絶対及び比重量増加 ・胸腺比重量減少 ・マクロファージの空胞化(十二指腸、空腸、喉頭、肺及び胃のリンパ組織内、扁桃) ・動脈炎又は血管周囲炎(腎臓、縦隔リンパ節、腸間膜リンパ節及び膈)
300 ppm 以上	・体重増加抑制[§](投与 1 週以降) ・WBC、PLT 及び Eos 減少 ・ALP 及び Glob 増加 ・胸腺絶対及び比重量減少 ・マクロファージの空胞化(盲腸、結腸、回腸、空腸、直腸、喉頭、鼻腔組織及び胃のリンパ組織内、脾臓、縦隔及び腸間膜リンパ節、扁桃、骨髓) ・心房心筋線維変性 ・骨髓壊死 ・肝クッパー細胞増生、肥大及び空胞化 ・胸腺皮質萎縮	・円背位(投与 43 日)、自発運動減少(投与 43 日)及び無便(投与 44 日)(1 匹) ・網状赤血球数増加 ・胸腺絶対重量減少 ・マクロファージの空胞化(盲腸、結腸、回腸、直腸及び鼻腔組織のリンパ組織内、脾臓、縦隔及び腸間膜リンパ節、扁桃腺、骨髓) ・骨髓壊死 ・脾腺房萎縮及び腺房細胞壊死 ・肝クッパー細胞増生、肥大及び空胞化 ・肝及び脾髄外造血
150 ppm	毒性所見なし	毒性所見なし

[§]：統計学的有意差はないが検体投与の影響と考えられた。

^a：白血球分類においてペルオキシダーゼ活性が低く、大型の細胞のことを称す。芽球、異型リンパ球、一部の大型リンパ球及び単球が含まれる。本試験においては、リンパ球の空胞化、すなわち、リン脂質症に起因した変化と考えられた。

1 1. 慢性毒性試験及び発がん性試験

(1) 1 年間慢性毒性試験（イヌ）

ビーグル犬（一群雌雄各 4 匹）を用いた混餌〔原体（純度：85.8%、スピネトラム-J：64.6%、スピネトラム-L：21.2%）：0、50、100 及び 200 ppm：平均検体摂取量は表 37 参照〕投与による 1 年間慢性毒性試験が実施された。

表 37 1 年間慢性毒性試験（イヌ）の平均検体摂取量

投与群		50 ppm	100 ppm	200 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	1.57	2.96	5.36
	雌	1.31	2.49	5.83

臓器重量測定において、200 ppm 投与群の雄で肝絶対及び比重量の増加傾向が認められた。

病理組織学的検査において、200 ppm 投与群の雄 1 例で精巣上体、雌 1 例で胸腺、甲状腺、喉頭及び膀胱に動脈炎が認められた。血管壁の壊死を伴う結節性動脈炎はビーグル犬に自然発生性にしばしば認められ、化合物により顕在化する可能性が示唆されている。本剤のビーグル犬への投与においても、増悪化されて発現した可能性があると考えられた。

本試験において、200 ppm 投与群の雌雄で動脈炎等が認められたことから、無毒性量は雌雄とも 100 ppm（雄：2.96 mg/kg 体重/日、雌：2.49 mg/kg 体重/日）であると考えられた。（参照 34）

（２）２年間慢性毒性/発がん性併合試験（ラット）

SD ラット（発がん性群：一群雌雄各 50 匹、慢性毒性群（投与 12 か月後に中間と殺）：一群雌雄各 10 匹）を用いた混餌〔原体（純度：85.8%、スピネトラム-J：64.6%、スピネトラム-L：21.2%）：0、50、250、500 及び 750 ppm：平均検体摂取量は表 38 参照〕投与による 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験が実施された。

表 38 ２年間慢性毒性/発がん性併合試験（ラット）の平均検体摂取量

投与群		50 ppm	250 ppm	500 ppm	750 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	2.12	10.8	21.6	32.9
	雌	2.63	13.2	26.6	40.0

各投与群で認められた毒性所見は表 39 に示されている。

腫瘍性病変の発生頻度に検体投与の影響は認められなかった。

本試験において、500 ppm 以上投与群の雌雄で甲状腺ろ胞上皮細胞細胞質空胞化等が認められたことから、無毒性量は雌雄とも 250 ppm（雄：10.8 mg/kg 体重/日、雌：13.2 mg/kg 体重/日）であると考えられた。発がん性は認められなかった。（参照 35）

表 39 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験（ラット）で認められた毒性所見

投与群	雄	雌
750 ppm	・マクロファージ又は組織球の集簇 (腸間膜リンパ節)	・肺泡マクロファージ又は組織球の 集簇 ・網膜変性及び空胞化
500 ppm 以上	・体重増加抑制(投与 232～624 日) ・甲状腺ろ胞上皮細胞細胞質空胞化	・心絶対及び比重量増加 ・甲状腺ろ胞上皮細胞細胞質空胞化 ・マクロファージ又は組織球の集簇 [腸間膜リンパ節、縦隔リンパ節、 脾(白髄)及び回腸(パイエル板)]
250 ppm 以下	毒性所見なし	毒性所見なし

(3) 18 か月間発がん性試験（マウス）

ICR マウス（一群雌雄各 50 匹）を用いた混餌〔原体（純度：85.8%、スピネトラム-J：64.6%、スピネトラム-L：21.2%）：0、25、80、150 及び 300 ppm：平均検体摂取量は表 40 参照〕投与による 18 か月間発がん性試験が実施された。

表 40 18 か月間発がん性試験（マウス）の平均検体摂取量

投与群		25 ppm	80 ppm	150 ppm	300 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	3.0	10.0	18.8	37.5
	雌	4.0	12.8	23.9	46.6

各投与群で認められた毒性所見は表 41 に示されている。

腫瘍性病変の発生頻度に検体投与の影響は認められなかった。

本試験において、300 ppm 投与群の雌雄で腺胃部粘膜過形成及び粘膜腺腔拡張等が認められたことから、無毒性量は雌雄とも 150 ppm（雄：18.8 mg/kg 体重/日、雌：23.9 mg/kg 体重/日）であると考えられた。発がん性は認められなかった。（参照 36）

表 41 18 か月間発がん性試験（マウス）で認められた毒性所見

投与群	雄	雌
300 ppm	・腺胃部粘膜過形成(多発及び限局性) ・腺胃部粘膜腺腔拡張(多発及び限局性) ・腺胃部粘膜下組織慢性炎症(多発及び限局性) ・肺胞マクロファージ集簇 ・精巢上体頭部上皮細胞空胞化	・体重増加抑制 ・摂餌量減少 ・腺胃部粘膜過形成(多発及び限局性) ・腺胃部粘膜腺腔拡張(多発及び限局性) ・腺胃部粘膜下組織慢性炎症(多発及び限局性) ・肺胞マクロファージ集簇
150 ppm 以下	毒性所見なし	毒性所見なし

(4) 1 年間慢性神経毒性試験（ラット）

Fischer ラット（一群雌雄各 10 匹）を用いた混餌〔原体（純度：85.8%、スピネトラム-J：64.6%、スピネトラム-L：21.2%）：0、50、250、500 及び 750 ppm：平均検体摂取量は表 42 参照〕投与による 1 年間慢性神経毒性試験が実施された。

表 42 1 年間慢性神経毒性試験（ラット）の平均検体摂取量

投与群		50 ppm	250 ppm	500 ppm	750 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	2.4	12.0	24.4	36.7
	雌	2.9	14.7	29.6	44.3

本試験において、いずれの投与群においても毒性所見が認められなかったことから、無毒性量は雌雄とも本試験の最高用量 750 ppm（雄：36.7 mg/kg 体重/日、雌：44.3 mg/kg 体重/日）であると考えられた。慢性神経毒性は認められなかった。（参照 37）

1 2. 生殖発生毒性試験

(1) 2世代繁殖試験（ラット）

SD ラット（一群雌雄各 27 匹）を用いた混餌〔原体（純度：85.8%、スピネトラム-J：64.6%、スピネトラム-L：21.2%）：0、3、10 及び 75 mg/kg 体重/日：平均検体摂取量は表 43 参照〕投与による 2 世代繁殖試験が実施された。

表 43 2 世代繁殖試験（ラット）の平均検体摂取量

投与群 (mg/kg 体重/日)			3	10	75
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	P 世代	雄	3.24	10.8	80.9
		雌	3.13	10.5	78.4
	F ₁ 世代	雄	3.16	10.5	79.0
		雌	2.97	9.87	74.9

各投与群で認められた毒性所見は表 44 に示されている。

親動物では、F₁ 雌雄において肝絶対及び比重量が増加し、検体投与に関連した変化と考えられたが、この変化に対応する病理組織学的変化は認められなかった。また、血清中 TSH、T₃ 及び T₄ レベルの僅かな変化については、検体投与に関連した影響とは判断されなかった。

児動物では、75 mg/kg 体重/日投与群 P 世代で分娩時生存率が低下し、統計学的に有意差はないものの着床後死亡率も軽度に増加した。F₁ 世代でも有意差はないものの同様の変化がみられ、再現性が認められたことから、検体投与の影響と考えられた。

本試験において、75 mg/kg 体重/日投与群の親動物の雌雄で甲状腺ろ胞上皮細胞細胞質空胞化等、児動物で分娩時生存率の低下が認められたことから、無毒性量は親動物及び児動物の雌雄とも 10 mg/kg 体重/日 (P 雄:10.8 mg/kg 体重/日、P 雌:10.5 mg/kg 体重/日、F₁ 雄:10.5 mg/kg 体重/日、F₁ 雌:9.87 mg/kg 体重/日) であると考えられた。また、75 mg/kg 体重/日投与群の雌で難産が認められたことから、繁殖能に対する無毒性量は 10 mg/kg 体重/日 (P 雄:10.8 mg/kg 体重/日、P 雌:10.5 mg/kg 体重/日、F₁ 雄:10.5 mg/kg 体重/日、F₁ 雌:9.87 mg/kg 体重/日) であると考えられた。（参照 38）

表 44 2 世代繁殖試験（ラット）で認められた毒性所見

	投与群	親：P、児：F ₁		親：F ₁ 、児：F ₂	
		雄	雌	雄	雌
親動物	75 mg/kg 体重/日	・甲状腺ろ胞上皮細胞細胞質空胞化(び漫性)	・切迫と殺(1 例、難産) ・着床後胎児死亡率増加 ・難産(4 例) ・外陰部分泌物、鼻周囲汚れ、皮膚及び粘膜蒼白化^a ・子宮片側限局性肥厚^b及び胎児組織遺残^b(各 1 例) ・甲状腺ろ胞上皮細胞細胞質空胞化(び漫性) ・腎近位尿細管褐色色素沈着(多発性) ・子宮筋層肉芽腫性炎症(限局性)^b、慢性活動性炎症^b(各 1 例)	・肝絶対及び比重量増加 ・甲状腺ろ胞上皮細胞細胞質空胞化(び漫性) ・腎近位尿細管褐色色素沈着(多発性)	・切迫と殺(1 例、胎児遺残) ・着床後胎児死亡率増加 ・難産(3 例) ・外陰部分泌物、鼻、口周囲及び下腹部の汚れ、皮膚及び粘膜蒼白化^a ・子宮胎児組織遺残^b(1 例) ・肝絶対及び比重量増加 ・甲状腺ろ胞上皮細胞細胞質空胞化(び漫性) ・腎近位尿細管褐色色素沈着(多発性) ・子宮慢性活動性炎症^b(1 例)
	10 mg/kg 体重/日 以下	毒性所見なし	毒性所見なし	毒性所見なし	毒性所見なし
児動物	75 mg/kg 体重/日	・分娩時生存率減少		・分娩時生存率減少	
	10 mg/kg 体重/日 以下	毒性所見なし		毒性所見なし	

^a：これらの症状は、難産を示した動物に認められた。

^b：これらの病変は、子宮内に遺残していた後期死亡胎児に関連した病変である。

(2) 発生毒性試験（ラット）

SD ラット(一群雌 26 匹)の妊娠 6～20 日に強制経口[原体(純度:85.8%、スピネトラム-J:64.6%、スピネトラム-L:21.2%):0、30、100 及び 300 mg/kg 体重/日、溶媒:0.5% METHOCEL®A4M 水溶液]投与する発生毒性試験が実施された。

母動物では、300 mg/kg 体重/日投与群で体重増加抑制及び摂餌量減少(妊娠 6～9 日)が認められた。

胎児では、検体投与の影響は認められなかった。

本試験における無毒性量は、母動物で 100 mg/kg 体重/日、胎児で本試験の最高用量 300 mg/kg 体重/日であると考えられた。催奇形性は認められなかった。（参照 39）

（３）発生毒性試験（ウサギ）

NZW ウサギ（一群雌 22 匹）の妊娠 7～27 日に強制経口〔原体（純度：83.0%、スピネトラム-J：62.0%、スピネトラム-L：21.0%）：0、2.5、10 及び 60 mg/kg 体重/日、溶媒：0.5% METHOCEL®A4M 水溶液〕投与する発生毒性試験が実施された。

母動物では、60 mg/kg 体重/日投与群の 1 例で検体投与に関連していると考えられる飢餓状態による衰弱及び体重減少（妊娠 10～13 及び 16～20 日）が認められたため、妊娠 21 日に切迫と殺された。同群のほかの動物においては、体重増加抑制、摂餌量及び排糞量減少並びに肝絶対及び比重量増加が認められた。

胎児では、検体投与の影響は認められなかった。

本試験における無毒性量は、母動物で 10 mg/kg 体重/日、胎児で本試験の最高用量 60 mg/kg 体重/日であると考えられた。催奇形性は認められなかった。（参照 40）

1 3. 遺伝毒性試験

スピネトラム（原体：純度 85.8%）の細菌を用いた復帰突然変異試験、ラットリンパ球を用いた染色体異常試験、チャイニーズハムスター卵巣由来細胞（CHO）を用いた遺伝子突然変異試験（*Hgpert* 遺伝子）及びマウスを用いた小核試験が実施された。

試験結果は表 45 に示されているとおり、全て陰性であり、スピネトラムに遺伝毒性はないと考えられた。（参照 41～43、49）

表 45 遺伝毒性試験概要（原体）

試験	対象	処理濃度・投与量	結果
<i>in vitro</i>	復帰突然変異試験	<i>Salmonella typhimurium</i> (TA98、TA100、TA1535、TA1537 株)	1.0～1,000 µg/プレート(-S9) ^a 3.33～5,000 µg/プレート(+S9) ^b
		<i>Escherichia coli</i> (WP2 <i>uvrA</i> 株)	33.3～5,000 µg/プレート(+/-S9) ^c
	遺伝子突然変異試験 (<i>Hgpert</i> 遺伝子)	チャイニーズハムスター卵巣由来細胞(CHO)	①10～80 ^d µg/mL(-S9) 10～320 ^d µg/mL(+S9) ②10～80 ^d µg/mL(-S9) 20～240 ^d µg/mL(+S9)
	染色体異常試験	ラットリンパ球	10～40 µg/mL(-S9) 30～80 µg/mL(+S9) (4 時間処理、20 時間培養後標本作製) 10～30 µg/mL(-S9、24 時間処理後標本作製)
<i>in vivo</i>	小核試験	ICR マウス(骨髄細胞) (一群雄 6 匹)	500、1,000、2,000 mg/kg 体重 (2 回経口投与後 24 時間で標本作製)

注) +/-S9：代謝活性化系存在下及び非存在下

a：代謝活性化系非存在下で、菌株によって 100 µg/プレート以上で生育阻害が、1,000 µg/プレート以上で検体の析出が認められた。

b：代謝活性化系存在下で 1,000 µg/プレート以上で生育阻害が、5,000 µg/プレートで検体の析出が認められた。

c：代謝活性化系存在下及び非存在下で、1,000 µg/プレート以上で検体の析出が認められた。また、試験によっては 2,500 µg/プレート以上で生育阻害がみられた。

d：代謝活性化系存在下及び非存在下で、50 µg/mL 以上で検体の析出が認められた。また最高用量で細胞毒性がみられた。

スピネトラムの代謝物 B（動物、植物、土壌、水中及び光由来）、D（植物由来）及び E（植物由来）の細菌を用いた復帰突然変異試験が実施された。

結果は表 46 に示されているとおり、全て陰性であった。（参照 44～45）

表 46 遺伝毒性試験概要（代謝物）

被験物質	試験	対象	処理濃度・投与量	結果
代謝物 B	復帰突然変異試験	<i>S. typhimurium</i> (TA98、TA100、 TA1535、TA1537 株)	0.33～333 $\mu\text{g}/\text{プレート}$ (-S9) ^a 1.00～1,000 $\mu\text{g}/\text{プレート}$ (+S9) ^b	陰性
		<i>E. coli</i> (WP2 <i>uvrA</i> 株)	3.33～3,330 $\mu\text{g}/\text{プレート}$ (+/-S9) ^c	
代謝物 D		<i>S. typhimurium</i> (TA98、TA100、 TA1535、TA1537 株)	33.3～5,000 $\mu\text{g}/\text{プレート}$ (+/-S9) ^d	陰性
代謝物 E		<i>S. typhimurium</i> (TA98、TA100、 TA1535、TA1537 株) <i>E. coli</i> (WP2 <i>uvrA</i> 株)	33.3～5,000 $\mu\text{g}/\text{プレート}$ (+/-S9) ^e	陰性

注) +/-S9 : 代謝活性化系存在下及び非存在下

a : 菌株によって 33.3 $\mu\text{g}/\text{プレート}$ 以上でバックグラウンドの菌の減少が認められた。

b : 333 $\mu\text{g}/\text{プレート}$ 以上でバックグラウンドの菌の減少が認められた。

c : 代謝活性化系非存在下 100 $\mu\text{g}/\text{プレート}$ 以上で、代謝活性化系存在下 1,000 $\mu\text{g}/\text{プレート}$ 以上で、バックグラウンドの菌の減少が認められた。

d : 代謝活性化系存在下及び非存在下で、2,500 $\mu\text{g}/\text{プレート}$ 以上で検体の析出が認められた。

e : 代謝活性化系非存在下 1,000 $\mu\text{g}/\text{プレート}$ 以上で、代謝活性化系存在下 2,500 $\mu\text{g}/\text{プレート}$ 以上で検体の析出が認められた。

Ⅲ. 食品健康影響評価

参照に挙げた資料を用いて、農薬「スピネトラム」の食品健康影響評価を実施した。なお、今回、作物残留試験（未成熟とうもろこし、ぶどう等）の成績等が新たに提出された。

¹⁴C で標識したスピネトラム（スピネトラム-J 及びスピネトラム-L）のラットを用いた動物体内運命試験において、経口投与されたスピネトラムは速やかに吸収され、そのほとんどが投与後 24 時間までに主に糞を介して排泄された。吸収率は 72%～83%と推定された。主要組織中の残留放射能濃度は、リンパ節、肝臓、肺、脂肪、腎臓及び副腎で高値を示したが、投与 168 時間後にはいずれの組織においても 6%TRR 未満であった。

畜産動物を用いた体内運命試験の結果、泌乳ヤギにおいて主要成分は未変化のスピネトラムであり、ほかに代謝物 B 及び C が検出されたが、10%TRR を超える代謝物は検出されなかった。産卵鶏において主要成分として未変化のスピネトラムのほか、代謝物 F（肝臓）、G（卵及び肝臓）及び P/R（卵、肝臓、筋肉、皮膚及び脂肪）が 10%TRR を超えて認められた。

¹⁴C で標識したスピネトラムを用いた植物体内運命試験の結果、水稻、りんご、かぶ及びレタスにおいて、未変化のスピネトラム並びに代謝物 B、C 及び D が 10%TRR を超えて認められた。土壌処理による収穫期の玄米における残留放射能は定量限界未満であった。

スピネトラム-J 及びスピネトラム-L 並びに代謝物 B、C、D 及び E を分析対象化合物とした作物残留試験が実施された。最大残留値は、スピネトラム-J 及びスピネトラム-L でそれぞれ茶（荒茶）の 32.8 及び 8.51 mg/kg であった。海外においてスピノサドの残留データをスピネトラムに読み替えることが適切かを検討する試験において、スピネトラムの残留量はスピノサドと同等又はそれ以下であり、読み替えは可能であると考えられた。スピノシン A、スピノシン D、代謝物であるスピノシン B、スピノシン K 及び *N*-demethyl spinosyn D を分析対象としたりんご、グレープフルーツ、からしな等における作物残留試験が実施され、分析対象化合物の合計の最大残留値はからしなの 4.33 mg/kg であった。

泌乳牛を用いてスピネトラム-J 及びスピネトラム-L 並びに代謝物 B 及び D を分析対象化合物とした畜産物残留試験の結果、乳汁中のスピネトラム-J 及びスピネトラム-L の含量並びにスピネトラム-J 及びスピネトラム-L 並びに代謝物 B 及び D の含量の最大残留値は、いずれも 1.30 µg/g であった。組織中のスピネトラム-J 及びスピネトラム-L の含量並びにスピネトラム-J 及びスピネトラム-L 並びに代謝物 B 及び D の含量の最大残留値は、いずれも腎周囲脂肪でそれぞれ 16.5 及び 16.6 µg/g であった。

各種毒性試験結果から、スピネトラム投与による影響は、主に多数の臓器におけるマクロファージ又は組織球の集簇及び空胞化並びに上皮細胞の空胞化

（甲状腺、腎臓、精巣上体等）であった。スピネトラムが CAD のひとつと考えられていることから、これらの変化は CAD によって誘発されたリン脂質症の結果であると考えられた。神経毒性、発がん性、催奇形性及び遺伝毒性は認められなかった。

ラットを用いた繁殖試験において難産が認められた。

植物体内運命試験及び畜産動物を用いた体内運命試験の結果、10%TRR を超える代謝物として植物では B、C 及び D、畜産動物では F、G 及び P/R が認められた。代謝物 B、C、F 及び G はラットにおいて認められ、代謝物 D 及び P/R はラットにおいて認められなかったが、代謝物 D の急性毒性は弱く（LD₅₀：5,000 mg/kg 体重超）、細菌を用いた復帰突然変異試験結果は陰性であった。代謝物 P/R はニワトリでのみ認められ、家禽の飼料利用部位中のスピネトラム-J 及びスピネトラム-L の残留値はいずれも定量限界未満であった。以上のことから、農産物及び畜産物中のばく露評価対象物質をスピネトラム（親化合物のみ）と設定した。

各試験における無毒性量等は表 47 に、単回経口投与等により生ずる可能性のある毒性影響等は表 48 に示されている。

食品安全委員会は、各試験で得られた無毒性量のうち最小値はイヌを用いた 1 年間慢性毒性試験の 2.49 mg/kg 体重/日であったことから、これを根拠として、安全係数 100 で除した 0.024 mg/kg 体重/日を許容一日摂取量（ADI）と設定した。

また、スピネトラムの単回経口投与等により生ずる可能性のある毒性影響に対する無毒性量のうち最小値はラットを用いた一般薬理試験の 600 mg/kg 体重であり、カットオフ値（500 mg/kg 体重）以上であったことから、急性参照用量（ARfD）は設定する必要がないと判断した。

ADI	0.024 mg/kg 体重/日
（ADI 設定根拠資料）	慢性毒性試験
（動物種）	イヌ
（期間）	1 年間
（投与方法）	混餌
（無毒性量）	2.49 mg/kg 体重/日
（安全係数）	100

ARfD	設定の必要なし
------	---------

< 参考 >

< JMPR、2008 年 >

ADI	0.05 mg/kg 体重/日
-----	-----------------

(ADI 設定根拠資料)	総合評価
(動物種)	イヌ
(期間)	90 日間及び 1 年間
(投与方法)	混餌
(無毒性量)	5 mg/kg 体重/日
(安全係数)	100

ARfD 設定の必要なし

< EPA、2010 年 >

cRfD	0.024 mg/kg 体重/日
(cRfD 設定根拠資料)	慢性毒性試験
(動物種)	イヌ
(期間)	1 年間
(投与方法)	混餌
(無毒性量)	2.49 mg/kg 体重/日
(不確実係数)	100

aRfD 設定の必要なし

< EFSA、2013 年 >

ADI	0.025 mg/kg 体重/日
(ADI 設定根拠資料)	慢性毒性試験
(動物種)	イヌ
(期間)	1 年間
(投与方法)	混餌
(無毒性量)	2.5 mg/kg 体重/日
(安全係数)	100

ARfD	0.1 mg/kg 体重
(ARfD 設定根拠資料)	繁殖試験
(動物種)	ラット
(期間)	2 世代
(投与方法)	混餌
(無毒性量)	10 mg/kg 体重/日
(安全係数)	100

(参照 68～75)

表 47 各試験における無毒性量等

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	無毒性量 (mg/kg 体重/日)	最小毒性量 (mg/kg 体重/日)	備考 ¹⁾
ラット	90 日間 亜急性 毒性試験 ①	雄：0、120、500、1,000、 2,000 ppm 雌：0、120、500、1,000、 2,000、4,000 ppm	雄：32.4 雌：9.50	雄：65.8 雌：39.6	雌雄：マクロファ ージ又は組織球の 集簇等
		雄：0、7.92、32.4、65.8、 128 雌：0、9.50、39.6、79.3、 159、311			
	90 日間 亜急性 毒性試験 ②	0、120、500、1,000、 2,000 ppm	雄：35 雌：9	雄：69 雌：35	雌雄：マクロファ ージ又は組織球の 集簇等
		雄：0、8、35、69、137 雌：0、9、35、71、142			
	2 年間 慢性毒性/ 発がん性 併合試験	0、50、250、500、750 ppm	雄：10.8 雌：13.2	雄：21.6 雌：26.6	雌雄：甲状腺ろ胞 上皮細胞細胞質空 胞化等 (発がん性は認め られない)
		雄：0、2.12、10.8、21.6、 32.9 雌：0、2.63、13.2、26.6、 40.0			
	1 年間 慢性神経 毒性試験	0、50、250、500、750 ppm	雄：36.7 雌：44.3	雄：－ 雌：－	毒性所見なし (神経毒性は認め られない)
		雄：0、2.4、12.0、24.4、 36.7 雌：0、2.9、14.7、29.6、 44.3			
	2 世代 繁殖試験	P 雄：0、3.24、10.8、80.9 P 雌：0、3.13、10.5、78.4 F ₁ 雄：0、3.16、10.5、 79.0 F ₁ 雌：0、2.97、9.87、74.9	親動物及び 児動物 P 雄：10.8 P 雌：10.5 F ₁ 雄：10.5 F ₁ 雌：9.87 繁殖能 P 雄：10.8 P 雌：10.5 F ₁ 雄：10.5 F ₁ 雌：9.87	親動物及び 児動物 P 雄：80.9 P 雌：78.4 F ₁ 雄：79.0 F ₁ 雌：74.9 繁殖能 P 雄：80.9 P 雌：78.4 F ₁ 雄：79.0 F ₁ 雌：74.9	親動物：甲状腺ろ 胞上皮細胞細胞 質空胞化等 児動物：分娩時生 存率低下 雌：難産

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	無毒性量 (mg/kg 体重/日)	最小毒性量 (mg/kg 体重/日)	備考 ¹⁾
	発生毒性 試験	0、30、100、300	母動物：100 胎児：300	母動物：300 胎児：－	母動物：体重増加 抑制及び摂餌量 減少 胎児：毒性所見なし (催奇形性は認め られない)
マウス	90 日間 亜急性 毒性試験	0、50、150、450 ppm ----- 雄：0、7.5、22.8、70.5 雌：0、10.2、29.6、89.9	雄：7.5 雌：10.2	雄：22.8 雌：29.6	雄：精巣上体頭部 管上皮細胞の空胞 化 雌：髄外造血亢進 等
	18 か月間 発がん性 試験	0、25、80、150、300 ppm ----- 雄：0、3.0、10.0、18.8、 37.5 雌：0、4.0、12.8、23.9、 46.6	雄：18.8 雌：23.9	雄：37.5 雌：46.6	雌雄：腺胃部粘膜 過形成及び腺胃 部粘膜腔拡張等 (発がん性は認め られない)
ウサギ	発生毒性 試験	0、2.5、10、60	母動物：10 胎児：60	母動物：60 胎児：－	母動物：体重増加 抑制等 胎児：毒性所見なし (催奇形性は認め られない)
イヌ	90 日間 亜急性 毒性試験	0、150、300、900 ppm ----- 雄：0、5.73、9.82、27.1 雌：0、4.97、10.2、31.0	雄：5.73 雌：4.97	雄：9.82 雌：10.2	雌雄：骨髓壊死等
	1 年間 慢性毒性 試験	0、50、100、200 ppm ----- 雄：0、1.57、2.96、5.36 雌：0、1.31、2.49、5.83	雄：2.96 雌：2.49	雄：5.36 雌：5.83	雌雄：動脈炎等
ADI			NOAEL：2.49 SF：100 ADI：0.024		
ADI 設定根拠資料			イヌ 1 年間慢性毒性試験		

ADI：許容一日摂取量 SF：安全係数 NOAEL：無毒性量

¹⁾：最小毒性量で認められた主な毒性所見を記した。

－：無毒性量又は最小毒性量は設定できなかった。

表 48 単回経口投与等により生ずると考えられる毒性影響等

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重)	無毒性量及び急性参照用量設定に 関連するエンドポイント ¹⁾ (mg/kg 体重)
ラット	一般薬理試験 (自発運動量)	0、200、600、2,000	雄：600 雄：自発運動量減少
ARfD			設定の必要なし (カットオフ値 (500 mg/kg 体重) 以上)

ARfD：急性参照用量

¹⁾：最小毒性量で認められた毒性所見を記した。

＜別紙 1：代謝物/分解物略称＞

記号	略称	化学名
B	N-demethyl-175-J	(2 <i>R</i> ,3 <i>aR</i> ,5 <i>aR</i> ,5 <i>bS</i> ,9 <i>S</i> ,13 <i>S</i> ,14 <i>R</i> ,16 <i>aS</i> ,16 <i>bR</i>)-9-ethyl-14-methyl-13- -{[(2 <i>S</i> ,5 <i>S</i> ,6 <i>R</i>)-6-methyl-5-(methylamino)tetrahydro-2 <i>H</i> -pyran-2-yl] oxy}-7,15-dioxo-2,3,3 <i>a</i> ,4,5,5 <i>a</i> ,5 <i>b</i> ,6,7,9,10,11,12,13,14,15,16 <i>a</i> ,16 <i>b</i> - octadecahydro-1 <i>H</i> -as-indaceno[3,2- <i>d</i>]oxacyclododecin-2-yl 6-deoxy-3- <i>O</i> -ethyl-2,4-di- <i>O</i> -methyl-β-L-mannopyranoside
C	N-demethyl-175-L	(2 <i>S</i> ,3 <i>aR</i> ,5 <i>aS</i> ,5 <i>bS</i> ,9 <i>S</i> ,13 <i>S</i> ,14 <i>R</i> ,16 <i>aS</i> ,16 <i>bS</i>)-9-ethyl-4,14-dimethyl-13- -{[(2 <i>S</i> ,5 <i>S</i> ,6 <i>R</i>)-6-methyl-5-(methylamino)tetrahydro-2 <i>H</i> -pyran-2-yl] oxy}-7,15-dioxo-2,3,3 <i>a</i> ,5 <i>a</i> ,5 <i>b</i> ,6,7,9,10,11,12,13,14,15,16 <i>a</i> ,16 <i>b</i> - hexadecahydro-1 <i>H</i> -as-indaceno[3,2- <i>d</i>]oxacyclododecin-2-yl 6-deoxy-3- <i>O</i> -ethyl-2,4-di- <i>O</i> -methyl-β-L-mannopyranoside
D	N-formyl-175-J	(2 <i>R</i> ,3 <i>S</i> ,6 <i>S</i>)-6-({(2 <i>R</i> ,3 <i>aR</i> ,5 <i>aR</i> ,5 <i>bS</i> ,9 <i>S</i> ,13 <i>S</i> ,14 <i>R</i> ,16 <i>aS</i> ,16 <i>bR</i>)-2-[(6-de oxy-3- <i>O</i> -ethyl-2,4-di- <i>O</i> -methyl-β-L-mannopyranosyl)oxy]-9-ethyl- 14-methyl-7,15-dioxo-2,3,3 <i>a</i> ,4,5,5 <i>a</i> ,5 <i>b</i> ,6,7,9,10,11,12,13,14,15,16 <i>a</i> , 16 <i>b</i> -octadecahydro-1 <i>H</i> -as-indaceno[3,2- <i>d</i>]oxacyclododecin-13-yl} oxy)-2-methyltetrahydro-2 <i>H</i> -pyran-3-yl(methyl)formamide
E	N-formyl-175-L	(2 <i>R</i> ,3 <i>S</i> ,6 <i>S</i>)-6-({(2 <i>S</i> ,3 <i>aR</i> ,5 <i>aS</i> ,5 <i>bS</i> ,9 <i>S</i> ,13 <i>S</i> ,14 <i>R</i> ,16 <i>aS</i> ,16 <i>bS</i>)-2-[(6-de oxy-3- <i>O</i> -ethyl-2,4-di- <i>O</i> -methyl-β-L-mannopyranosyl)oxy]-9-ethyl-4, 14-dimethyl-7,15-dioxo-2,3,3 <i>a</i> ,5 <i>a</i> ,5 <i>b</i> ,6,7,9,10,11,12,13,14,15,16 <i>a</i> , 16 <i>b</i> -hexadecahydro-1 <i>H</i> -as-indaceno[3,2- <i>d</i>]oxacyclododecin-13-yl} oxy)-2-methyltetrahydro-2 <i>H</i> -pyran-3-yl(methyl)formamide
F	O-deethyl-175-J	(2 <i>R</i> ,3 <i>aR</i> ,5 <i>aR</i> ,5 <i>bS</i> ,9 <i>S</i> ,13 <i>S</i> ,14 <i>R</i> ,16 <i>aS</i> ,16 <i>bS</i>)-13-{{(2 <i>S</i> ,5 <i>S</i> ,6 <i>R</i>)-5- (dimethylamino)-6-methyltetrahydro-2 <i>H</i> -pyran-2-yl}oxy}-9-ethyl-1 4-methyl-7,15-dioxo-2,3,3 <i>a</i> ,4,5,5 <i>a</i> ,5 <i>b</i> ,6,7,9,10,11,12,13,14,15,16 <i>a</i> , 16 <i>b</i> -octadecahydro-1 <i>H</i> -as-indaceno[3,2- <i>d</i>]oxacyclododecin-2-yl 6-deoxy-2,4-di- <i>O</i> -methyl-β-L-mannopyranoside
G	O-deethyl-175-L	(2 <i>S</i> ,3 <i>aR</i> ,5 <i>aS</i> ,5 <i>bS</i> ,9 <i>S</i> ,13 <i>S</i> ,14 <i>R</i> ,16 <i>aS</i> ,16 <i>bS</i>)-13-{{(2 <i>S</i> ,5 <i>S</i> ,6 <i>R</i>)-5- (dimethylamino)-6-methyltetrahydro-2 <i>H</i> -pyran-2-yl}oxy}-9-ethyl-4 ,14-dimethyl-7,15-dioxo-2,3,3 <i>a</i> ,5 <i>a</i> ,5 <i>b</i> ,6,7,9,10,11,12,13,14,15,16 <i>a</i> , 16 <i>b</i> -hexadecahydro-1 <i>H</i> -as-indaceno[3,2- <i>d</i>]oxacyclododecin-2-yl 6-deoxy-2,4-di- <i>O</i> -methyl-β-L-mannopyranoside
H	C9-pseudo aglycone-175-J	(2 <i>R</i> ,3 <i>aR</i> ,5 <i>aR</i> ,5 <i>bS</i> ,9 <i>S</i> ,13 <i>S</i> ,14 <i>R</i> ,16 <i>aS</i> ,16 <i>bR</i>)-13-{{(2 <i>S</i> ,5 <i>S</i> ,6 <i>R</i>)-5- (dimethylamino)-6-methyltetrahydro-2 <i>H</i> -pyran-2-yl}oxy}-9-ethyl-2 -hydroxy-14-methyl-2,3,3 <i>a</i> ,4,5,5 <i>a</i> ,5 <i>b</i> ,6,9,10,11,12,14,13,16 <i>a</i> ,16 <i>b</i> - hexadecahydro-1 <i>H</i> -as-indaceno[3,2- <i>d</i>]oxacyclododecine-7,15-dione
I	C9-pseudo aglycone-175-L	(2 <i>S</i> ,3 <i>aR</i> ,5 <i>aS</i> ,5 <i>bS</i> ,9 <i>S</i> ,13 <i>S</i> ,14 <i>R</i> ,16 <i>aS</i> ,16 <i>bS</i>)-13-{{(2 <i>S</i> ,5 <i>S</i> ,6 <i>R</i>)-5- (dimethylamino)-6-methyltetrahydro-2 <i>H</i> -pyran-2-yl}oxy}-9-ethyl-2 -hydroxy-4,14-dimethyl-2,3,3 <i>a</i> ,5 <i>a</i> ,5 <i>b</i> ,6,9,10,11,12,13,14,16 <i>a</i> ,16 <i>b</i> - tetradecahydro-1 <i>H</i> -as-indaceno[3,2- <i>d</i>]oxacyclododecine-7,15-dione
J	C9-ketopseudo aglycone-175-J	(3 <i>aR</i> ,5 <i>aR</i> ,5 <i>bS</i> ,9 <i>S</i> ,13 <i>S</i> ,14 <i>R</i> ,16 <i>aS</i> ,16 <i>bR</i>)-13-{{(2 <i>S</i> ,5 <i>S</i> ,6 <i>R</i>)-5- (dimethylamino)-6-methyltetrahydro-2 <i>H</i> -pyran-2-yl}oxy}-9-ethyl- 14-methyl-3 <i>a</i> ,4,5,5 <i>a</i> ,5 <i>b</i> ,6,9,10,11,12,13,14,16 <i>a</i> ,16 <i>b</i> -tetradecahydro -1 <i>H</i> -as-indaceno[3,2- <i>d</i>]oxacyclododecine-2,7,15(3 <i>H</i>)-trione

記号	略称	化学名
K	Aglycone-175-L	(2 <i>S</i> ,3 <i>aR</i> ,5 <i>aS</i> ,5 <i>bS</i> ,9 <i>S</i> ,13 <i>S</i> ,14 <i>R</i> ,16 <i>aS</i> ,16 <i>bS</i>)-9-ethyl-2,13-dihydroxy-4,14-dimethyl-2,3,3 <i>a</i> ,5 <i>a</i> ,5 <i>b</i> ,6,9,10,11,12,13,14,16 <i>a</i> ,16 <i>b</i> -tetradecahydro-1 <i>H</i> -as-indaceno[3,2- <i>d</i>]oxacyclododecine-7,15-dione
L	13,14-β-di hydro-C17-pseudo aglycone-175-L	(2 <i>S</i> ,3 <i>aR</i> ,5 <i>aR</i> ,5 <i>bS</i> ,9 <i>S</i> ,13 <i>S</i> ,14 <i>R</i> ,15 <i>aR</i> ,16 <i>aS</i> ,16 <i>bS</i>)-9-ethyl-13-hydroxy-4,14-dimethyl-7,15-dioxo-2,3,3 <i>a</i> ,5 <i>a</i> ,5 <i>b</i> ,6,7,9,10,11,12,13,14,15,15 <i>a</i> ,16,16 <i>a</i> ,16 <i>b</i> -octadecahydro-1 <i>H</i> -as-indaceno[3,2- <i>d</i>]oxacyclododecin-2-yl 6-deoxy-3- <i>O</i> -ethyl-2,4-di- <i>O</i> -methyl-α-L-mannopyranoside
M	Hydroxy-175-J	monohydroxy spinetoram-J
N	Hydroxy-C9-pseudo aglycone-175-J	monohydroxy C9-pseudoaglycone-175-J
O	2'-O-demethyl-175-J	(2 <i>R</i> ,3 <i>aR</i> ,5 <i>aR</i> ,5 <i>bS</i> ,9 <i>S</i> ,13 <i>S</i> ,14 <i>R</i> ,16 <i>aS</i> ,16 <i>bR</i>)-13-{[(2 <i>R</i> ,5 <i>S</i> ,6 <i>R</i>)-5-(dimethylamino)-6-methyltetrahydro-2 <i>H</i> -pyran-2-yl]oxy}-9-ethyl-14-methyl-7,15-dioxo-2,3,3 <i>a</i> ,4,5,5 <i>a</i> ,5 <i>b</i> ,6,7,9,10,11,12,13,14,15,16 <i>a</i> ,16 <i>b</i> -octadecahydro-1 <i>H</i> -as-indaceno[3,2- <i>d</i>]oxacyclododecin-2-yl 6-deoxy-3- <i>O</i> -ethyl-4- <i>O</i> -methyl-α-L-mannopyranoside
P	2'-O-demethyl-175-L	(2 <i>S</i> ,3 <i>aR</i> ,5 <i>aS</i> ,5 <i>bS</i> ,9 <i>S</i> ,13 <i>S</i> ,14 <i>R</i> ,16 <i>aS</i> ,16 <i>bS</i>)-13-{[(2 <i>R</i> ,5 <i>S</i> ,6 <i>R</i>)-5-(dimethylamino)-6-methyltetrahydro-2 <i>H</i> -pyran-2-yl]oxy}-9-ethyl-4,14-dimethyl-7,15-dioxo-2,3,3 <i>a</i> ,5 <i>a</i> ,5 <i>b</i> ,6,7,9,10,11,12,13,14,15,16 <i>a</i> ,16 <i>b</i> -hexadecahydro-1 <i>H</i> -as-indaceno[3,2- <i>d</i>]oxacyclododecin-2-yl 6-deoxy-3- <i>O</i> -ethyl-4- <i>O</i> -methyl-α-L-mannopyranoside
Q	4'-O-demethyl-175-J	(2 <i>R</i> ,3 <i>aR</i> ,5 <i>aR</i> ,5 <i>bS</i> ,9 <i>S</i> ,13 <i>S</i> ,14 <i>R</i> ,16 <i>aS</i> ,16 <i>bR</i>)-13-{[(2 <i>R</i> ,5 <i>S</i> ,6 <i>R</i>)-5-(dimethylamino)-6-methyltetrahydro-2 <i>H</i> -pyran-2-yl]oxy}-9-ethyl-14-methyl-7,15-dioxo-2,3,3 <i>a</i> ,4,5,5 <i>a</i> ,5 <i>b</i> ,6,7,9,10,11,12,13,14,15,16 <i>a</i> ,16 <i>b</i> -octadecahydro-1 <i>H</i> -as-indaceno[3,2- <i>d</i>]oxacyclododecin-2-yl 6-deoxy-3- <i>O</i> -ethyl-2- <i>O</i> -methyl-α-L-mannopyranoside
R	4'-O-demethyl-175-L	(2 <i>S</i> ,3 <i>aR</i> ,5 <i>aS</i> ,5 <i>bS</i> ,9 <i>S</i> ,13 <i>S</i> ,14 <i>R</i> ,16 <i>aS</i> ,16 <i>bS</i>)-13-{[(2 <i>R</i> ,5 <i>S</i> ,6 <i>R</i>)-5-(dimethylamino)-6-methyltetrahydro-2 <i>H</i> -pyran-2-yl]oxy}-9-ethyl-4,14-dimethyl-7,15-dioxo-2,3,3 <i>a</i> ,5 <i>a</i> ,5 <i>b</i> ,6,7,9,10,11,12,13,14,15,16 <i>a</i> ,16 <i>b</i> -hexadecahydro-1 <i>H</i> -as-indaceno[3,2- <i>d</i>]oxacyclododecin-2-yl 6-deoxy-3- <i>O</i> -ethyl-2- <i>O</i> -methyl-α-L-mannopyranoside
MW 813	—	未同定分解物

＜別紙２：検査値等略称＞

略称	名称
ai	有効成分量 (active ingredient)
Alb	アルブミン
ALP	アルカリホスファターゼ
ALT	アラニンアミノトランスフェラーゼ [＝グルタミン酸ピルビン酸トランスアミナーゼ (GPT)]
AST	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ [＝グルタミン酸オキサロ酢酸トランスアミナーゼ (GOT)]
AUC	薬物濃度曲線下面積
Baso	好塩基球数
Bil	ビリルビン
CAD	陽イオン性両親媒性薬物 (Cationic Amphiphilic Drugs)
C _{max}	最高濃度
Eos	好酸球数
EFSA	欧州食品安全機関
EPA	米国環境保護庁
GABA	γ-アミノ酪酸
Glob	グロブリン
Hb	ヘモグロビン (血色素量)
Ht	ヘマトクリット値
JMPR	FAO/WHO 合同残留農薬専門家会議
LC ₅₀	半数致死濃度
LD ₅₀	半数致死量
LLNA	局所リンパ節法 (Local Lymph Node Assay)
LUC	大型非染色球数
MC	メチルセルロース
MCH	平均赤血球ヘモグロビン量
MCHC	平均赤血球血色素濃度
MCV	平均赤血球容積
Mon	単球数
Neu	好中球数
PHI	最終使用から収穫までの日数
PLT	血小板数
RBC	赤血球数
Ret	網状赤血球数
T _{1/2}	消失半減期
T ₃	トリヨードサイロニン
T ₄	サイロキシン
TAR	総投与 (処理) 放射能
TG	トリグリセライド
T _{max}	最高濃度到達時間
TRR	総残留放射能
TSH	甲状腺刺激ホルモン
WBC	白血球数

＜別紙３：作物残留試験成績（国内）＞

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年	試験 ほ 場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)									
					公的分析機関					社内分析機関				
					スピネトラム-J		スピネトラム-L		合計	スピネトラム-J		スピネトラム-L		合計
					最高値	平均値	最高値	平均値		最高値	平均値	最高値	平均値	
水稲 [露地] (玄米) 2006年	1	G:50 (育苗箱 処理)	1	130	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			1	137	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			1	144	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
水稲 [露地] (玄米) 2006年	1	G:50 (育苗箱 処理)	1	112	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			1	119	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			1	123	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
水稲 [露地] (稲わら) 2006年	1	G:50 (育苗箱 処理)	1	130	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			1	137	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			1	144	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
水稲 [露地] (稲わら) 2006年	1	G:50 (育苗箱 処理)	1	112	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			1	119	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			1	123	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
水稲 [露地] (玄米) 2011年	1	G:50 (育苗箱 処理) + WP1: 45×2 (散布)	3	7	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			3	14	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			3	21	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			3	28	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
水稲 [露地] (玄米) 2011年	1	G:50 (育苗箱 処理) + WP1: 40×2 (散布)	3	7	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			3	14	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			3	21	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			3	28	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
水稲 [露地] (稲わら) 2011年	1	G:50 (育苗箱 処理) + WP1: 45×2 (散布)	3	7	—	—	—	—	—	0.20	0.20	0.02	0.02	0.22
			3	14	—	—	—	—	—	0.05	0.05	<0.01	<0.01	0.06
			3	21	—	—	—	—	—	0.04	0.04	<0.01	<0.01	0.05
			3	28	—	—	—	—	—	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04
水稲 [露地] (稲わら) 2011年	1	G:50 (育苗箱 処理) + WP1: 40×2 (散布)	3	7	—	—	—	—	—	0.10	0.10	0.01	0.01	0.11
			3	14	—	—	—	—	—	0.06	0.06	<0.01	<0.01	0.07
			3	21	—	—	—	—	—	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04
			3	28	—	—	—	—	—	0.04	0.04	<0.01	<0.01	0.05
未成熟とう もろこし [露地] (種子) 2012年	1	WP1: 92～96	2	1	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	3	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	7	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年	試験 ほ場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)									
					公的分析機関					社内分析機関				
					スピネトラム-J		スピネトラム-L		合計	スピネトラム-J		スピネトラム-L		合計
					最高値	平均値	最高値	平均値		最高値	平均値	最高値	平均値	
未成熟とう もろこし [露地] (種子) 2012年	1	WP1 93~94	2 2 2	1 3 7	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.02 <0.02 <0.02
未成熟とう もろこし [露地] (種子) 2015年	1	WP1: 92	2 2 2	1 3 7	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.02 <0.02 <0.02
だいず [露地] (乾燥子実) 2011年	1	WP1: 84	2 2 2	1 3 7	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.02 <0.02 <0.02
だいず [露地] (乾燥子実) 2011年	1	WP1: 89	2 2 2	1 3 7	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.02 <0.02 <0.02
いんげん まめ [露地] (乾燥子実) 2011年	1	WP1: 86	2 2 2	1 3 7	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.02 <0.02 <0.02	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —
いんげん まめ [露地] (乾燥子実) 2011年	1	WP1: 96	2 2 2	1 3 7	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.02 <0.02 <0.02	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —
ばれいしょ [露地] (塊茎) 2012年	1	WP1 94~95	2 2 2	1 3 7	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.02 <0.02 <0.02
ばれいしょ [露地] (塊茎) 2012年	1	WP1 94~100	2 2 2	1 3 7	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.02 <0.02 <0.02
ばれいしょ [露地] (塊茎) 2016年	1	WP1 84~87	2 2 2	1 3 7	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.02 <0.02 <0.02
ばれいしょ [露地] (塊茎) 2016年	1	WP1 94	2 2 2	1 3 7	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.02 <0.02 <0.02
ばれいしょ [露地] (塊茎) 2016年	1	WP1 89~95	2 2 2	1 3 7	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.02 <0.02 <0.02

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年	試験 ほ場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)									
					公的分析機関					社内分析機関				
					スピネトラム-J		スピネトラム-L		合計	スピネトラム-J		スピネトラム-L		合計
					最高値	平均値	最高値	平均値		最高値	平均値	最高値	平均値	
ばれいしょ [露地] (塊茎) 2016 年	1	WP1: 95~103	2	1	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	3	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	7	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
さといも [露地] (塊茎) 2013 年	1	WP1: 115	2	1	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	3	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	7	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
さといも [露地] (塊茎) 2013 年	1	WP1: 95~97	2	1	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	3	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	7	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
さといも [露地] (塊茎) 2014 年	1	WP1: 96~99	2	1	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	3	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	7	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
かんしょ [露地] (塊茎) 2011 年	1	WP1: 87	2	1	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	3	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	7	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
かんしょ [露地] (塊茎) 2011 年	1	WP1: 86	2	1	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	3	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	7	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
てんさい [露地] (根部) 2011 年	1	WP1: 49	2	1	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	3	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	7	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	14	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
てんさい [露地] (根部) 2012 年	1	WP1: 49	2	1	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	3	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	7	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	14	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
てんさい [露地] (根部) 2015 年	1	WP1: 44~46	2	1	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	3	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	7	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
だいこん [露地] (根部) 2008 年	1	WP1: 96	2	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
だいこん [露地] (根部) 2009 年	1	WP1: 96	2	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
だいこん [露地] (葉部) 2008 年	1	WP1: 96	2	1	2.86	2.84	0.57	0.56	3.40	2.80	2.74	0.53	0.52	3.26
			2	7	0.42	0.41	0.04	0.04	0.45	0.40	0.40	0.04	0.04	0.44
			2	14	0.23	0.23	0.02	0.02	0.25	0.29	0.28	0.02	0.02	0.30
			2	21	0.05	0.05	<0.01	<0.01	0.06	0.06	0.06	<0.01	<0.01	0.07

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年	試験 ほ場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)									
					公的分析機関					社内分析機関				
					スピネトラム-J		スピネトラム-L		合計	スピネトラム-J		スピネトラム-L		合計
					最高値	平均値	最高値	平均値		最高値	平均値	最高値	平均値	
だいこん [露地] (葉部) 2009 年	1	WP1: 96	2	1	2.17	2.14	0.49	0.49	2.63	2.34	2.34	0.62	0.61	2.95
			2	7	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
かぶ [施設] (根部) 2011 年	1	WP1: 95~99	2	1	—	—	—	—	—	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03
			2	3	—	—	—	—	—	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03
			2	7	—	—	—	—	—	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03
			2	14	—	—	—	—	—	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.02
かぶ [施設] (根部) 2011 年	1	WP1: 97~115	2	1	—	—	—	—	—	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.02
			2	3	—	—	—	—	—	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03
			2	7	—	—	—	—	—	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.02
			2	14	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
かぶ [施設] (葉部) 2011 年	1	WP1: 95~99	2	1	—	—	—	—	—	1.05	1.02	0.32	0.32	1.34
			2	3	—	—	—	—	—	0.83	0.82	0.25	0.24	1.06
			2	7	—	—	—	—	—	0.51	0.50	0.14	0.14	0.64
			2	14	—	—	—	—	—	0.14	0.14	0.03	0.03	0.17
かぶ [施設] (葉部) 2011 年	1	WP1: 97~115	2	1	—	—	—	—	—	1.06	1.06	0.33	0.32	1.38
			2	3	—	—	—	—	—	0.88	0.85	0.26	0.26	1.11
			2	7	—	—	—	—	—	0.50	0.50	0.14	0.14	0.64
			2	14	—	—	—	—	—	0.19	0.19	0.05	0.05	0.24
はくさい [露地] (葉部) 2008 年	1	WP1: 144	2	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
はくさい [露地] (葉部) 2008 年	1	WP1: 120	2	1	0.10	0.10	0.03	0.03	0.13	0.29	0.28	0.08	0.08	0.36
			2	7	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.02	0.03	0.02	<0.01	<0.01	0.03
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03
キャベツ [露地] (葉球) 2006 年	1	WP1: 96	2	1	0.14	0.14	0.04	0.04	0.18	0.07	0.07	0.02	0.02	0.09
			2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
キャベツ [露地] (葉球) 2006 年	1	WP1: 96	2	1	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03	0.04	0.04	<0.01	<0.01	0.05
			2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
キャベツ [露地] (葉球) 2012 年	1	WP1: 1.2 /セル トレイ (灌注) + 93~96× 2(散布)	3	1	—	—	—	—	—	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04
			3	3	—	—	—	—	—	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.02
			3	7	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			3	14	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
キャベツ [露地] (葉球) 2012 年	1	WP1: 1.2 /セル トレイ (灌注) + 95~100 ×2(散布)	3	1	—	—	—	—	—	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04
			3	3	—	—	—	—	—	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04
			3	7	—	—	—	—	—	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.02
			3	14	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年	試験 ほ場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)									
					公的分析機関					社内分析機関				
					スピネトラム-J		スピネトラム-L		合計	スピネトラム-J		スピネトラム-L		合計
					最高値	平均値	最高値	平均値		最高値	平均値	最高値	平均値	
こまつな [施設] (茎葉) 2010 年	1	WP1: 72~81	2	1	1.93	1.88	0.58	0.58	2.46	1.74	1.72	0.50	0.49	2.21
			2	3	1.17	1.16	0.32	0.32	1.48	1.17	1.16	0.31	0.30	1.46
			2	7	0.27	0.26	0.06	0.06	0.32	0.33	0.33	0.07	0.07	0.40
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
こまつな [施設] (茎葉) 2010 年	1	WP1: 72~96	2	1	0.75	0.75	0.23	0.22	0.97	1.02	1.00	0.31	0.30	1.30
			2	3	0.94	0.94	0.28	0.28	1.22	1.10	1.09	0.30	0.30	1.39
			2	7	0.60	0.60	0.15	0.15	0.75	0.49	0.48	0.12	0.12	0.60
			2	20	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
みずな [施設] (茎葉) 2010 年	1	WP1: 75~87	2	1	1.97	1.96	0.62	0.62	2.58	—	—	—	—	—
			2	3	1.36	1.32	0.37	0.37	1.69	—	—	—	—	—
			2	7	0.61	0.60	0.15	0.14	0.74	—	—	—	—	—
			2	21	0.03	0.02	<0.01	<0.01	0.03	—	—	—	—	—
みずな [施設] (茎葉) 2010 年	1	WP1: 96	2	1	0.73	0.73	0.21	0.20	0.93	—	—	—	—	—
			2	3	0.38	0.38	0.12	0.12	0.50	—	—	—	—	—
			2	7	0.13	0.13	0.04	0.04	0.17	—	—	—	—	—
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
チンゲンサ イ [施設] (茎葉) 2010 年	1	WP1: 96	2	1	0.99	0.98	0.23	0.23	1.21	1.08	1.06	0.25	0.24	1.30
			2	3	0.13	0.13	0.03	0.03	0.16	0.15	0.15	0.03	0.03	0.18
			2	7	0.04	0.04	<0.01	<0.01	0.05	0.04	0.04	<0.01	<0.01	0.05
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
チンゲンサ イ [施設] (茎葉) 2010 年	1	WP1: 85	2	1	0.75	0.74	0.20	0.20	0.94	1.32	1.28	0.33	0.32	1.60
			2	3	0.60	0.60	0.15	0.15	0.75	0.85	0.82	0.20	0.19	1.01
			2	7	0.34	0.34	0.07	0.06	0.40	0.30	0.30	0.05	0.05	0.35
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
カリフラワ ー [露地] (花蕾) 2009 年	1	WP1: 126	2	1	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03
			2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
カリフラワ ー [露地] (花蕾) 2010 年	1	WP1: 96	2	1	0.08	0.08	0.03	0.03	0.11	0.08	0.08	0.03	0.02	0.10
			2	3	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.02	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03
			2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	14	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
ブロッコリ ー [露地] (花蕾) 2008 年	1	WP1: 144	2	1	0.54	0.54	0.13	0.13	0.67	0.81	0.77	0.19	0.18	0.95
			2	7	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04	0.04	0.04	<0.01	<0.01	0.05
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	28	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
ブロッコリ ー [露地] (花蕾) 2008 年	1	WP1: 96	2	1	0.22	0.22	0.06	0.06	0.28	0.38	0.38	0.09	0.09	0.47
			2	7	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	28	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
なばな [施設] (茎葉) 2012 年	1	WP1: 113	2	1	0.40	0.40	0.17	0.17	0.57	—	—	—	—	—
			2	3	0.25	0.25	0.05	0.05	0.30	—	—	—	—	—
			2	7	0.10	0.10	0.02	0.02	0.12	—	—	—	—	—
			2	14	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03	—	—	—	—	—

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年	試験 ほ場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)									
					公的分析機関					社内分析機関				
					スピネトラム-J		スピネトラム-L		合計	スピネトラム-J		スピネトラム-L		合計
					最高値	平均値	最高値	平均値		最高値	平均値	最高値	平均値	
なばな [施設] (茎葉) 2012 年	1	WP1: 80	2	1	1.54	1.54	0.45	0.45	1.99	—	—	—	—	—
			2	3	1.04	1.04	0.28	0.28	1.32	—	—	—	—	—
			2	7	0.25	0.25	0.06	0.06	0.31	—	—	—	—	—
			2	14	0.05	0.05	<0.01	<0.01	0.06	—	—	—	—	—
オータムボ エム [施設] (茎葉) 2012 年	1	WP1: 120	2	1	3.63	3.61	0.88	0.88	4.49	—	—	—	—	—
			2	3	3.85	3.84	0.96	0.96	4.80	—	—	—	—	—
			2	7	3.35	3.33	0.78	0.77	4.10	—	—	—	—	—
			2	14	2.83	2.75	0.56	0.56	3.31	—	—	—	—	—
オータムボ エム [施設] (茎葉) 2012 年	1	WP1: 105～ 120	2	1	2.24	2.24	0.58	0.58	2.82	—	—	—	—	—
			2	3	1.46	1.46	0.33	0.33	1.79	—	—	—	—	—
			2	7	0.46	0.46	0.08	0.08	0.54	—	—	—	—	—
			2	14	0.09	0.09	0.02	0.02	0.11	—	—	—	—	—
しゅんぎく [施設] (茎葉) 2012 年	1	WP1: 96	2	1	—	—	—	—	—	5.15	5.14	1.31	1.29	6.43
			2	3	—	—	—	—	—	4.18	4.12	1.07	1.02	5.14
			2	7	—	—	—	—	—	1.99	1.92	0.45	0.43	2.35
			2	21	—	—	—	—	—	0.10	0.10	0.02	0.02	0.12
しゅんぎく [施設] (茎葉) 2012 年	1	WP1: 92～96	2	1	—	—	—	—	—	1.96	1.88	0.46	0.44	2.32
			2	3	—	—	—	—	—	1.02	1.01	0.19	0.19	1.20
			2	7	—	—	—	—	—	0.39	0.37	0.09	0.08	0.45
			2	21	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
しゅんぎく [施設] (茎葉) 2014 年	1	WP1: 86	2	1	—	—	—	—	—	3.41	3.38	0.81	0.80	4.18
			2	3	—	—	—	—	—	3.03	3.02	0.68	0.68	3.70
			2	7	—	—	—	—	—	2.34	2.33	0.44	0.44	2.77
			2	21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
レタス [施設] (茎葉) 2006 年	1	WP1: 96	2	1	2.24	2.24	0.60	0.60	2.84	2.66	2.65	0.76	0.74	3.39
			2	7	0.92	0.92	0.20	0.20	1.12	1.52	1.50	0.32	0.32	1.82
			2	14	0.37	0.36	0.07	0.07	0.43	0.20	0.20	0.03	0.03	0.23
			2	21	0.18	0.18	0.02	0.02	0.20	0.13	0.13	0.02	0.02	0.15
レタス [施設] (茎葉) 2006 年	1	WP1: 96	2	1	0.09	0.08	0.02	0.02	0.10	0.25	0.25	0.07	0.07	0.32
			2	7	0.05	0.05	0.01	0.01	0.06	0.29	0.29	0.07	0.07	0.36
			2	14	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.02	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03
			2	21	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.02	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03
リーフレタス [露地] (茎葉) 2006 年	1	WP1: 96	2	1	2.60	2.57	0.67	0.66	3.23	—	—	—	—	—
			2	7	0.13	0.13	0.01	0.01	0.14	—	—	—	—	—
			2	14	0.11	0.10	<0.01	<0.01	0.11	—	—	—	—	—
			2	21	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03	—	—	—	—	—
リーフレタス [露地] (茎葉) 2007 年	1	WP1: 72～96	2	1	2.10	2.06	0.39	0.39	2.45	—	—	—	—	—
			2	7	0.52	0.50	0.03	0.03	0.53	—	—	—	—	—
			2	14	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04	—	—	—	—	—
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
サラダ菜 [施設] (茎葉) 2006 年	1	WP1: 96	2	1	1.99	1.96	0.51	0.51	2.47	—	—	—	—	—
			2	7	0.62	0.62	0.13	0.13	0.75	—	—	—	—	—
			2	14	0.08	0.08	0.02	0.02	0.10	—	—	—	—	—
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
サラダ菜 [施設] (茎葉) 2006 年	1	WP1: 96	2	1	3.35	3.34	0.96	0.96	4.30	—	—	—	—	—
			2	7	0.81	0.81	0.22	0.22	1.03	—	—	—	—	—
			2	14	0.15	0.15	0.03	0.03	0.18	—	—	—	—	—
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年	試験 ほ場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)									
					公的分析機関					社内分析機関				
					スピネトラム-J		スピネトラム-L		合計	スピネトラム-J		スピネトラム-L		合計
					最高値	平均値	最高値	平均値		最高値	平均値	最高値	平均値	
食用ぎく [施設] (花) 2013 年	1	WP1: 96	2	1	2.45	2.44	0.56	0.56	3.00	—	—	—	—	—
			2	3	0.89	0.86	0.18	0.18	1.04	—	—	—	—	—
			2	7	0.30	0.30	0.03	0.03	0.33	—	—	—	—	—
食用ぎく [施設] (花) 2013 年	1	WP1: 96	2	1	5.32	5.18	1.36	1.36	6.54	—	—	—	—	—
			2	3	3.52	3.50	0.83	0.82	4.32	—	—	—	—	—
			2	7	1.02	1.02	0.16	0.16	1.18	—	—	—	—	—
きく(葉) [施設] (葉) 2016 年	1	WP1: 94	2	1	2.69	2.68	0.55	0.55	3.23	—	—	—	—	—
			2	3	2.93	2.88	0.49	0.48	3.36	—	—	—	—	—
			2	7	1.50	1.50	0.10	0.10	1.60	—	—	—	—	—
きく(葉) [施設] (葉) 2016 年	1	WP1: 94	2	1	9.15	8.99	2.02	2.02	11.0	—	—	—	—	—
			2	3	3.41	3.40	0.64	0.64	4.04	—	—	—	—	—
			2	7	0.64	0.63	0.08	0.08	0.71	—	—	—	—	—
たまねぎ [露地] (鱗茎) 2008 年	2	WP1: 96	2	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
ねぎ [露地] (茎葉) 2006 年	1	WP1: 96	2	1	0.09	0.08	0.02	0.02	0.10	0.08	0.08	0.02	0.02	0.10
			2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
ねぎ [露地] (茎葉) 2006 年	1	WP1: 96	2	1	0.07	0.07	0.02	0.02	0.09	0.10	0.10	0.03	0.03	0.13
			2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
にんにく [露地] (鱗茎) 2013 年	1	WP1: 87	2	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
			2	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
			2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
にんにく [露地] (鱗茎) 2014 年	1	WP1: 85	2	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
			2	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
			2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
にら [施設] (茎葉) 2011 年	1	WP1: 91	2	1	—	—	—	—	—	0.34	0.30	0.07	0.06	0.36
			2	3	—	—	—	—	—	0.12	0.12	0.02	0.02	0.14
			2	7	—	—	—	—	—	0.03	0.02	<0.01	<0.01	0.03
			2	14	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
にら [施設] (茎葉) 2011 年	1	WP1: 85	2	1	—	—	—	—	—	0.63	0.62	0.08	0.08	0.70
			2	3	—	—	—	—	—	0.45	0.44	0.09	0.08	0.52
			2	7	—	—	—	—	—	0.18	0.18	0.02	0.02	0.20
			2	14	—	—	—	—	—	0.05	0.04	<0.01	<0.01	0.05
アスパラガ ス [施設] (若茎) 2009 年	1	WP1: 144	2	1	0.05	0.05	<0.01	<0.01	0.06	—	—	—	—	—
			2	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
			2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年	試験 ほ場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)									
					公的分析機関					社内分析機関				
					スピネトラム-J		スピネトラム-L		合計	スピネトラム-J		スピネトラム-L		合計
					最高値	平均値	最高値	平均値		最高値	平均値	最高値	平均値	
アスパラガス [施設] (若茎) 2009年	1	WP1: 133	2	1	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03	—	—	—	—	—
			2	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
			2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
らっきょう [露地] (鱗茎) 2012年	2	WP1: 96	2	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
			2	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
			2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
らっきょう [露地] (鱗茎) 2014年	1	WP1: 種球浸漬 (2,500倍 30分間)	1	259	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
らっきょう [露地] (鱗茎) 2014年	1	WP1: 種球浸漬 (2,500倍 30分間)	1	252	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
にら(花茎) [施設] (可食部) 2012年	1	WP1: 117	2	1	0.35	0.35	0.09	0.09	0.44	—	—	—	—	—
			2	3	0.26	0.26	0.06	0.06	0.32	—	—	—	—	—
			2	7	0.07	0.07	0.01	0.01	0.08	—	—	—	—	—
			2	14	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03	—	—	—	—	—
にら(花茎) [施設] (可食部) 2012年	1	WP1: 117	2	1	0.22	0.22	0.05	0.05	0.27	—	—	—	—	—
			2	3	0.14	0.14	0.02	0.02	0.16	—	—	—	—	—
			2	7	0.04	0.04	<0.01	<0.01	0.05	—	—	—	—	—
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
葉たまねぎ [施設] (葉及び鱗 茎) 2015年	1	WP1: 94	2	1	0.43	0.43	0.11	0.11	0.54	—	—	—	—	—
			2	3	0.32	0.32	0.07	0.07	0.39	—	—	—	—	—
			2	7	0.19	0.19	0.04	0.04	0.23	—	—	—	—	—
葉たまねぎ [施設] (葉及び鱗 茎) 2016年	1	WP1: 94	2	1	—	—	—	—	—	0.29	0.29	0.07	0.06	0.35
			2	3	—	—	—	—	—	0.16	0.16	0.03	0.03	0.19
			2	7	—	—	—	—	—	0.09	0.09	0.02	0.02	0.11
にんじん [露地] (根部) 2013年	2	WP1: 96	2	1	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	3	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	7	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
にんじん [露地] (根部) 2013年	1	WP1: 93~96	2	1	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	3	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	7	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
にんじん [露地] (根部) 2014年	2	WP1: 120	2	1	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	3	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	7	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年	試験 ほ場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)									
					公的分析機関					社内分析機関				
					スピネトラム-J		スピネトラム-L		合計	スピネトラム-J		スピネトラム-L		合計
					最高値	平均値	最高値	平均値		最高値	平均値	最高値	平均値	
にんじん [露地] (根部) 2014 年	1	WP1: 87	2	1	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	3	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	7	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
セルリー [施設] (茎葉) 2012 年	1	WP1: 88~104	2	1	—	—	—	—	—	0.86	0.85	0.17	0.17	1.02
			2	3	—	—	—	—	—	0.38	0.37	0.07	0.07	0.44
			2	7	—	—	—	—	—	0.24	0.24	0.04	0.04	0.28
			2	14	—	—	—	—	—	0.18	0.18	0.03	0.03	0.21
セルリー [施設] (茎葉) 2013 年	1	WP1: 91~92	2	1	—	—	—	—	—	0.38	0.37	0.11	0.11	0.48
			2	3	—	—	—	—	—	0.24	0.24	0.06	0.06	0.30
			2	7	—	—	—	—	—	0.16	0.16	0.03	0.03	0.19
			2	14	—	—	—	—	—	0.08	0.08	0.02	0.02	0.10
セルリー [施設] (茎葉) 2015 年	1	WP1: 121~ 127	2	1	1.28	1.27	0.35	0.34	1.61	—	—	—	—	—
			2	3	1.13	1.12	0.28	0.28	1.40	—	—	—	—	—
			2	7	0.85	0.85	0.19	0.19	1.04	—	—	—	—	—
トマト [施設] (果実) 2006 年	1	WP1: 96	2	1	0.07	0.06	0.02	0.02	0.08	0.10	0.10	0.03	0.03	0.13
			2	7	0.06	0.06	0.01	0.01	0.07	0.09	0.09	0.02	0.02	0.11
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03
トマト [施設] (果実) 2006 年	1	WP: 120	2	1	0.05	0.05	0.01	0.01	0.06	0.05	0.05	0.02	0.02	0.07
			2	7	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04	0.04	0.04	0.01	0.01	0.05
			2	21	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.02	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03
ミニトマト [施設] (果実) 2006 年	1	WP1: 96	2	1	0.05	0.05	<0.01	<0.01	0.06	0.07	0.07	0.01	0.01	0.08
			2	7	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04	0.04	0.04	<0.01	<0.01	0.05
			2	21	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.02	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.02
ミニトマト [施設] (果実) 2006 年	1	WP1: 96	2	1	0.13	0.13	0.03	0.03	0.16	0.22	0.22	0.05	0.05	0.27
			2	7	0.09	0.09	0.02	0.02	0.11	0.08	0.08	0.01	0.01	0.09
			2	21	0.04	0.04	<0.01	<0.01	0.05	0.04	0.04	<0.01	<0.01	0.05
ピーマン [施設] (果実) 2008 年	1	WP1: 96	2	1	0.09	0.09	0.02	0.02	0.11	0.10	0.10	0.02	0.02	0.12
			2	7	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
ピーマン [施設] (果実) 2008 年	1	WP1: 96	2	1	0.18	0.18	0.05	0.05	0.23	0.24	0.24	0.06	0.06	0.30
			2	7	0.12	0.12	0.03	0.03	0.15	0.14	0.14	0.03	0.03	0.17
			2	14	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.02	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03
なす [施設] (果実) 2006 年	1	WP1: 144	2	1	0.04	0.04	<0.01	<0.01	0.05	0.05	0.04	<0.01	<0.01	0.05
			2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
なす [施設] (果実) 2006 年	1	WP1: 96	2	1	0.04	0.04	0.01	0.01	0.05	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04
			2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年	試験 ほ場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)									
					公的分析機関					社内分析機関				
					スピネトラム-J		スピネトラム-L		合計	スピネトラム-J		スピネトラム-L		合計
					最高値	平均値	最高値	平均値		最高値	平均値	最高値	平均値	
食用ほおずき [施設] (果実) 2014 年	2	WP1: 96	2	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
			2	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
			2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
甘長とうがらし [施設] (果実全体) 2012 年	1	WP1: 117	2	1	0.23	0.22	0.06	0.06	0.28	—	—	—	—	—
			2	3	0.21	0.21	0.05	0.05	0.26	—	—	—	—	—
			2	7	0.09	0.08	0.01	0.01	0.09	—	—	—	—	—
			2	14	0.02	0.02	0.01	0.01	0.03	—	—	—	—	—
甘長とうがらし [施設] (果実全体) 2012 年	1	WP1: 94	2	1	0.31	0.31	0.08	0.08	0.39	—	—	—	—	—
			2	3	0.23	0.22	0.05	0.05	0.27	—	—	—	—	—
			2	7	0.12	0.12	0.03	0.03	0.15	—	—	—	—	—
			2	14	0.04	0.04	0.01	0.01	0.05	—	—	—	—	—
ししとう [施設] (果実全体) 2012 年	1	WP1: 102	2	1	0.32	0.32	0.08	0.08	0.40	—	—	—	—	—
			2	3	0.31	0.31	0.08	0.08	0.39	—	—	—	—	—
			2	7	0.15	0.14	0.03	0.03	0.17	—	—	—	—	—
			2	14	0.03	0.03	0.01	0.01	0.04	—	—	—	—	—
ししとう [施設] (果実全体) 2012 年	1	WP1: 117	2	1	0.63	0.63	0.13	0.13	0.76	—	—	—	—	—
			2	3	0.38	0.38	0.08	0.08	0.46	—	—	—	—	—
			2	7	0.10	0.10	0.02	0.02	0.12	—	—	—	—	—
			2	14	0.03	0.03	0.01	0.01	0.04	—	—	—	—	—
きゅうり [施設] (果実) 2008 年	1	WP1: 115	2	1	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04	0.04	0.04	0.01	0.01	0.05
			2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
きゅうり [施設] (果実) 2008 年	1	WP1: 96	2	1	0.05	0.05	0.02	0.02	0.07	0.04	0.04	0.01	0.01	0.05
			2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
かぼちゃ [施設] (果実) 2012 年	1	WP1: 95~98	2	1	—	—	—	—	—	0.04	0.04	<0.01	<0.01	0.05
			2	3	—	—	—	—	—	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03
			2	7	—	—	—	—	—	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.02
			2	14	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
かぼちゃ [施設] (果実) 2012 年	1	WP1: 96~99	2	1	—	—	—	—	—	0.04	0.04	0.01	0.01	0.05
			2	3	—	—	—	—	—	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04
			2	7	—	—	—	—	—	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04
			2	14	—	—	—	—	—	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03
かぼちゃ [施設] (果実) 2015 年	1	WP1: 120	2	1	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03	—	—	—	—	—
			2	3	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.02	—	—	—	—	—
			2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
すいか [施設] (果肉) 2008 年	1	WP1: 120~ 144	2	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
すいか [施設] (果肉) 2008 年	1	WP1: 144	2	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年	試験 ほ場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)									
					公的分析機関					社内分析機関				
					スピネトラム-J		スピネトラム-L		合計	スピネトラム-J		スピネトラム-L		合計
					最高値	平均値	最高値	平均値		最高値	平均値	最高値	平均値	
すいか [施設] (果肉) 2014 年	1	WP1: 95~99	2	1	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	3	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	7	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
すいか [施設] (果実) 2014 年	1	WP1: 95~99	2	1	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	3	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	7	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
すいか [施設] (果肉) 2014 年	1	WP1: 116	2	1	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	3	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	7	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
すいか [施設] (果肉) 2014 年	1	WP1: 133	2	1	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	3	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	7	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
すいか [施設] (果肉) 2014 年	1	WP1: 96	2	1	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	3	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	7	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
すいか [施設] (果実) 2014 年	1	WP1: 116	2	1	—	—	—	—	—	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03
			2	3	—	—	—	—	—	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.02
			2	7	—	—	—	—	—	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.02
すいか [施設] (果実) 2014 年	1	WP1: 133	2	1	—	—	—	—	—	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04
			2	3	—	—	—	—	—	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04
			2	7	—	—	—	—	—	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03
すいか [施設] (果実) 2014 年	1	WP1: 96	2	1	—	—	—	—	—	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03
			2	3	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	7	—	—	—	—	—	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.02
メロン [施設] (果実) 2008 年	2	WP1: 144	2	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
ほうれんそ う [施設] (茎葉) 2010 年	1	WP1: 72~76	2	1	3.60	3.58	0.99	0.99	4.57	3.82	3.76	1.07	1.06	4.82
			2	3	3.32	3.32	0.90	0.89	4.21	3.58	3.52	0.98	0.94	4.46
			2	6	2.41	2.40	0.63	0.62	3.02	2.99	2.94	0.77	0.74	3.68
			2	20	0.76	0.76	0.16	0.16	0.92	1.07	1.07	0.25	0.24	1.31
ほうれんそ う [施設] (茎葉) 2010 年	1	WP1: 86	2	1	2.77	2.76	0.72	0.71	3.47	3.10	3.08	0.85	0.84	3.92
			2	3	2.53	2.50	0.59	0.58	3.08	3.06	3.02	0.73	0.72	3.74
			2	7	0.99	0.97	0.22	0.22	1.19	1.36	1.33	0.32	0.32	1.65
			2	21	0.11	0.11	0.01	0.01	0.12	0.10	0.10	0.01	0.01	0.11
さやえん ど う [施設] (さや) 2011 年	1	WP1: 144	2	1	0.51	0.51	0.13	0.13	0.64	—	—	—	—	—
			2	3	0.34	0.34	0.07	0.07	0.41	—	—	—	—	—
			2	7	0.12	0.12	0.03	0.03	0.15	—	—	—	—	—
			2	14	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03	—	—	—	—	—
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年	試験 ほ場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)									
					公的分析機関					社内分析機関				
					スピネトラム-J		スピネトラム-L		合計	スピネトラム-J		スピネトラム-L		合計
					最高値	平均値	最高値	平均値		最高値	平均値	最高値	平均値	
さやえんどう 【施設】 (さや) 2011 年	1	WP1: 116	2	1	0.14	0.14	0.04	0.04	0.18	—	—	—	—	—
			2	3	0.08	0.08	0.02	0.02	0.10	—	—	—	—	—
			2	7	0.05	0.05	0.01	0.01	0.06	—	—	—	—	—
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
さやいんげん 【施設】 (さや) 2011 年	1	WP1: 96~101	2	1	—	—	—	—	—	0.24	0.24	0.08	0.08	0.32
			2	3	—	—	—	—	—	0.22	0.22	0.07	0.07	0.29
			2	7	—	—	—	—	—	0.13	0.13	0.04	0.04	0.17
			2	14	—	—	—	—	—	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04
			2	21	—	—	—	—	—	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.02
さやいんげん 【施設】 (さや) 2011 年	1	WP1: 97~100	2	1	—	—	—	—	—	0.13	0.12	0.03	0.03	0.15
			2	3	—	—	—	—	—	0.08	0.08	0.02	0.02	0.10
			2	7	—	—	—	—	—	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03
			2	14	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	21	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
えだまめ 【露地】 (さや) 2011 年	1	WP1: 75~91	2	1	—	—	—	—	—	0.11	0.10	0.03	0.03	0.13
			2	3	—	—	—	—	—	0.07	0.07	0.02	0.02	0.09
			2	7	—	—	—	—	—	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04
			2	14	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	21	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
えだまめ 【露地】 (さや) 2011 年	1	WP1: 96~97	2	1	—	—	—	—	—	0.09	0.08	0.02	0.02	0.10
			2	3	—	—	—	—	—	0.04	0.04	0.01	0.01	0.05
			2	7	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	14	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	21	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
温州みかん 【施設】 (果肉) 2008 年	1	WP2: 250	2	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
温州みかん 【施設】 (果肉) 2008 年	1	WP2: 350	2	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
温州みかん 【施設】 (果皮) 2008 年	1	WP2: 250	2	1	0.29	0.29	0.07	0.07	0.36	0.48	0.47	0.11	0.11	0.58
			2	7	0.39	0.38	0.10	0.10	0.48	0.38	0.38	0.09	0.09	0.47
			2	14	0.33	0.33	0.04	0.04	0.37	0.27	0.27	0.03	0.03	0.30
			2	21	0.14	0.14	<0.01	<0.01	0.15	0.19	0.19	0.01	0.01	0.20
温州みかん 【施設】 (果皮) 2008 年	1	WP2: 350	2	1	0.66	0.66	0.14	0.14	0.80	0.85	0.84	0.18	0.18	1.02
			2	7	0.54	0.52	0.09	0.09	0.61	0.55	0.54	0.09	0.09	0.63
			2	14	0.34	0.34	0.05	0.05	0.39	0.29	0.28	0.04	0.04	0.32
			2	21	0.18	0.18	0.03	0.03	0.21	0.21	0.21	0.04	0.04	0.25
なつみかん 【露地】 (果実全体) 2008 年	1	WP2: 250	2	1	0.03	0.02	<0.01	<0.01	0.03	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04
			2	7	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.02	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.02
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
なつみかん 【露地】 (果実全体) 2008 年	1	WP2: 350	2	1	0.08	0.08	0.02	0.02	0.10	0.08	0.08	0.01	0.01	0.09
			2	7	0.06	0.06	<0.01	<0.01	0.07	0.06	0.06	<0.01	<0.01	0.07
			2	14	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04	0.04	0.04	<0.01	<0.01	0.05
			2	21	0.04	0.04	<0.01	<0.01	0.05	0.04	0.04	<0.01	<0.01	0.05

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年	試験 ほ場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)									
					公的分析機関					社内分析機関				
					スピネトラム-J		スピネトラム-L		合計	スピネトラム-J		スピネトラム-L		合計
					最高値	平均値	最高値	平均値		最高値	平均値	最高値	平均値	
かぼす [施設] (果実全体) 2008年	1	WP2: 250	2	1	0.18	0.18	0.05	0.05	0.23	—	—	—	—	—
			2	7	0.13	0.13	0.03	0.03	0.16	—	—	—	—	—
			2	14	0.10	0.10	0.02	0.02	0.12	—	—	—	—	—
			2	21	0.08	0.08	0.01	0.01	0.09	—	—	—	—	—
すだち [施設] (果実全体) 2008年	1	WP2: 350	2	1	0.18	0.18	0.04	0.04	0.22	—	—	—	—	—
			2	7	0.10	0.10	0.02	0.02	0.12	—	—	—	—	—
			2	14	0.04	0.04	<0.01	<0.01	0.05	—	—	—	—	—
			2	21	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04	—	—	—	—	—
りんご [露地] (果実) 2006年	1	WP2: 250	2	1	0.13	0.12	0.02	0.02	0.14	0.09	0.09	0.01	0.01	0.10
			2	7	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04
			2	14	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03
りんご [露地] (果実) 2006年	1	WP2: 250	2	1	0.08	0.08	0.01	0.01	0.09	0.08	0.08	<0.01	<0.01	0.09
			2	7	0.04	0.04	<0.01	<0.01	0.05	0.04	0.04	<0.01	<0.01	0.05
			2	14	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
なし [露地] (果実) 2006年	1	WP2: 150	2	1	0.11	0.11	<0.01	<0.01	0.12	0.07	0.06	<0.01	<0.01	0.07
			2	7	0.08	0.08	<0.01	<0.01	0.09	0.07	0.07	<0.01	<0.01	0.08
			2	14	0.06	0.06	<0.01	<0.01	0.07	0.04	0.04	<0.01	<0.01	0.05
			2	21	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04	0.05	0.05	<0.01	<0.01	0.06
なし [露地] (果実) 2006年	1	WP2: 250	2	1	0.08	0.08	<0.01	<0.01	0.09	0.07	0.07	<0.01	<0.01	0.08
			2	7	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.02	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03
			2	14	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.02	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
もも [露地] (果肉) 2006年	1	WP2: 200	2	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	13	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	19	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
もも [露地] (果肉) 2006年	1	WP2: 250	2	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
もも [露地] (果皮) 2006年	1	WP2: 200	2	1	1.42	1.39	0.18	0.18	1.57	1.86	1.84	0.23	0.22	2.06
			2	7	0.55	0.54	0.06	0.06	0.60	0.91	0.90	0.10	0.10	1.00
			2	13	0.36	0.36	0.04	0.04	0.40	0.46	0.44	0.04	0.04	0.48
			2	19	0.25	0.25	0.02	0.02	0.27	0.34	0.34	0.03	0.02	0.36
もも [露地] (果皮) 2006年	1	WP2: 250	2	1	1.39	1.38	0.31	0.30	1.68	1.97	1.90	0.40	0.40	2.30
			2	7	0.98	0.97	0.19	0.18	1.15	1.12	1.12	0.21	0.20	1.32
			2	14	0.37	0.36	0.05	0.05	0.41	0.56	0.55	0.06	0.06	0.61
			2	21	0.33	0.33	0.05	0.05	0.38	0.51	0.51	0.08	0.08	0.59
ネクタリン [露地] (果実) 2009年	1	WP2: 184	2	1	0.11	0.10	0.03	0.02	0.12	—	—	—	—	—
			2	7	0.09	0.09	0.02	0.02	0.11	—	—	—	—	—
			2	14	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04	—	—	—	—	—
			2	21	0.04	0.04	<0.01	<0.01	0.05	—	—	—	—	—
ネクタリン [露地] (果実) 2009年	1	WP2: 175	2	1	0.10	0.10	0.02	0.02	0.12	—	—	—	—	—
			2	7	0.07	0.06	0.01	0.01	0.07	—	—	—	—	—
			2	14	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04	—	—	—	—	—
			2	21	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.02	—	—	—	—	—

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年	試験 ほ場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)									
					公的分析機関					社内分析機関				
					スピネトラム-J		スピネトラム-L		合計	スピネトラム-J		スピネトラム-L		合計
					最高値	平均値	最高値	平均値		最高値	平均値	最高値	平均値	
すもも [露地] (果実) 2010 年	1	WP2: 175	2	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
			2	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
			2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
すもも [露地] (果実) 2010 年	1	WP2: 180	2	1	0.04	0.04	0.01	0.01	0.05	—	—	—	—	—
			2	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
			2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
うめ [露地] (果実) 2010 年	1	WP2: 188	2	1	0.12	0.12	0.03	0.03	0.15	0.19	0.19	0.04	0.04	0.23
			2	3	0.04	0.04	<0.01	<0.01	0.05	0.04	0.04	<0.01	<0.01	0.05
			2	7	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04	0.04	0.04	<0.01	<0.01	0.05
			2	20	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03
うめ [露地] (果実) 2010 年	1	WP2: 194～ 196	2	1	0.12	0.12	0.03	0.03	0.15	0.18	0.18	0.04	0.04	0.22
			2	3	0.14	0.14	0.01	0.01	0.15	0.11	0.10	<0.01	<0.01	0.11
			2	7	0.05	0.05	<0.01	<0.01	0.06	0.04	0.04	<0.01	<0.01	0.05
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	0.01	0.01	<0.01	<0.01	<0.02
うめ [露地] (果実) 2015 年	1	WP2: 175	2	1	—	—	—	—	—	0.26	0.26	0.06	0.06	0.32
			2	3	—	—	—	—	—	0.07	0.07	0.01	0.01	0.08
			2	7	—	—	—	—	—	0.03	0.03	0.01	0.01	0.04
			2	14	—	—	—	—	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
おうとう [施設] (果実) 2009 年	1	WP2: 225	2	1	0.06	0.06	<0.01	<0.01	0.07	—	—	—	—	—
			2	7	0.05	0.04	<0.01	<0.01	0.05	—	—	—	—	—
			2	14	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.02	—	—	—	—	—
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
おうとう [施設] (果実) 2009 年	1	WP2: 208～ 219	2	1	0.12	0.12	0.03	0.03	0.15	—	—	—	—	—
			2	7	0.06	0.06	<0.01	<0.01	0.07	—	—	—	—	—
			2	14	0.04	0.04	<0.01	<0.01	0.05	—	—	—	—	—
			2	21	0.05	0.05	<0.01	<0.01	0.06	—	—	—	—	—
いちご [施設] (果実) 2007 年	1	WP1: 96	2	1	0.11	0.11	0.03	0.03	0.14	0.11	0.11	0.03	0.03	0.14
			2	7	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04	0.04	0.04	<0.01	<0.01	0.05
			2	14	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03
いちご [施設] (果実) 2006 年	1	WP1: 96	2	1	0.47	0.46	0.12	0.12	0.58	0.32	0.32	0.09	0.09	0.41
			2	7	0.18	0.18	0.04	0.04	0.22	0.20	0.20	0.04	0.04	0.24
			2	14	0.10	0.10	0.02	0.02	0.12	0.09	0.09	0.01	0.01	0.10
ブルーベリ ー [露地] (果実) 2009 年	1	WP2: 150	2	1	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03	—	—	—	—	—
			2	7	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03	—	—	—	—	—
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
ブルーベリ ー [露地] (果実) 2009 年	1	WP2: 125	2	1	0.14	0.14	0.03	0.03	0.17	—	—	—	—	—
			2	7	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03	—	—	—	—	—
			2	14	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03	—	—	—	—	—
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
アロニア [露地] (果実) 2015 年	1	WP2: 50	2	1	0.10	0.10	<0.01	<0.01	0.11	—	—	—	—	—
			2	3	0.07	0.07	<0.01	<0.01	0.08	—	—	—	—	—
			2	7	0.04	0.04	<0.01	<0.01	0.05	—	—	—	—	—

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年	試験 ほ場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)									
					公的分析機関					社内分析機関				
					スピネトラム-J		スピネトラム-L		合計	スピネトラム-J		スピネトラム-L		合計
					最高値	平均値	最高値	平均値		最高値	平均値	最高値	平均値	
アロニア [露地] (果実) 2015 年	1	WP2: 50	2	1	0.10	0.10	0.01	0.01	0.11	—	—	—	—	—
			2	3	0.07	0.06	<0.01	<0.01	0.07	—	—	—	—	—
			2	7	0.04	0.04	<0.01	<0.01	0.05	—	—	—	—	—
ぶどう [施設] (果実) 2008 年	1	WP2: 150	2	1	0.11	0.11	0.03	0.02	0.13	0.17	0.16	0.04	0.04	0.20
			2	7	0.09	0.09	0.02	0.02	0.11	0.11	0.11	0.02	0.02	0.13
			2	14	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03
			2	21	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.02	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03
ぶどう [施設] (果実) 2008 年	1	WP2: 150	2	1	0.11	0.11	0.03	0.03	0.14	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03
			2	7	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03	0.08	0.08	0.01	0.01	0.09
			2	14	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.02	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04
			2	21	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03
ぶどう [施設] (果実) 2013 年	1	1 回目 : WP1 果房 浸漬(500 倍、満開 20 日後) 2 回目以 降 : WP2 157	3	1	—	—	—	—	—	0.61	0.60	0.14	0.14	0.74
			3	3	—	—	—	—	—	0.65	0.64	0.15	0.15	0.79
			3	7	—	—	—	—	—	0.46	0.45	0.10	0.10	0.55
			3	14	—	—	—	—	—	0.51	0.50	0.11	0.11	0.61
ぶどう [施設] (果実) 2013 年	1	1 回目 : WP1 果房 浸漬(500 倍、満開 20 日後) 2 回目以 降 : WP2 175	3	1	—	—	—	—	—	0.24	0.24	0.06	0.06	0.30
			3	3	—	—	—	—	—	0.25	0.25	0.06	0.06	0.31
			3	7	—	—	—	—	—	0.20	0.20	0.04	0.04	0.24
			3	14	—	—	—	—	—	0.19	0.19	0.04	0.04	0.23
ぶどう [施設] (果実) 2013 年	1	1 回目 : WP1 果房 浸漬(500 倍、満開 20 日後) 2 回目以 降 : WP2 167	3	1	—	—	—	—	—	0.59	0.58	0.11	0.11	0.69
			3	3	—	—	—	—	—	0.40	0.40	0.07	0.06	0.46
			3	7	—	—	—	—	—	0.39	0.39	0.06	0.06	0.45
			3	14	—	—	—	—	—	0.51	0.51	0.06	0.06	0.57
かき [露地] (果実) 2009 年	1	WP2: 250	2	1	0.05	0.04	0.01	0.01	0.05	0.06	0.06	<0.01	<0.01	0.07
			2	7	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.02	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.02
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
かき [露地] (果実) 2009 年	1	WP2: 225	2	1	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04	0.04	0.04	<0.01	<0.01	0.05
			2	7	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.02	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.02
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
マンゴー [施設] (果実) 2012 年	1	WP2: 180	2	1	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03	—	—	—	—	—
			2	3	0.02	0.01	<0.01	<0.01	0.03	—	—	—	—	—
			2	7	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.02	—	—	—	—	—
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年	試験 ほ場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)									
					公的分析機関					社内分析機関				
					スピネトラム-J		スピネトラム-L		合計	スピネトラム-J		スピネトラム-L		合計
					最高値	平均値	最高値	平均値		最高値	平均値	最高値	平均値	
マンゴー [施設] (果実) 2012 年	1	WP2: 250	2	1	0.07	0.07	0.02	0.02	0.09	—	—	—	—	—
			2	3	0.07	0.06	0.01	0.01	0.07	—	—	—	—	—
			2	7	0.04	0.04	<0.01	<0.01	0.05	—	—	—	—	—
			2	14	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04	—	—	—	—	—
いちじく [露地] (果実) 2011 年	1	WP2: 157～ 159	2	1	0.11	0.11	0.03	0.03	0.14	—	—	—	—	—
			2	3	0.06	0.06	0.01	0.01	0.07	—	—	—	—	—
			2	7	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03	—	—	—	—	—
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
いちじく [露地] (果実) 2011 年	1	WP2: 200	2	1	0.08	0.08	0.02	0.02	0.10	—	—	—	—	—
			2	3	0.06	0.06	0.02	0.02	0.08	—	—	—	—	—
			2	7	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04	—	—	—	—	—
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
くり [露地] (果実) 2013 年	1	WP2: 94	2	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
			2	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
			2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
くり [露地] (果実) 2013 年	1	WP2: 94	2	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
			2	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
			2	5	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
茶 [露地] (荒茶) 2006 年	1	WP1: 144	1	7	0.89	0.88	0.16	0.16	1.04	1.08	1.08	0.19	0.18	1.26
			1	14	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04
			1	20	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04
			1	29	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
茶 [露地] (荒茶) 2006 年	1	WP1: 144	1	7	0.24	0.24	0.04	0.04	0.28	0.30	0.29	0.04	0.04	0.33
			1	14	0.07	0.06	<0.01	<0.01	0.07	0.08	0.08	<0.01	<0.01	0.09
			1	21	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03
			1	30	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04
茶 [露地] (荒茶) 2011 年	1	WP1: 182	1	1	23.5	23.4	7.73	7.68	31.1	—	—	—	—	—
			1	3	1.43	1.38	0.36	0.34	1.72	—	—	—	—	—
			1	7	0.76	0.75	0.18	0.18	0.93	—	—	—	—	—
			1	14	0.05	0.05	<0.01	<0.01	0.06	—	—	—	—	—
茶 [露地] (荒茶) 2011 年	1	WP1: 185	1	1	9.92	9.66	2.89	2.86	12.5	—	—	—	—	—
			1	3	3.42	3.36	0.93	0.91	4.27	—	—	—	—	—
			1	7	0.29	0.29	0.07	0.07	0.36	—	—	—	—	—
			1	14	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03	—	—	—	—	—
茶 [露地] (浸出液) 2011 年	1	WP1: 182	1	1	0.33	0.32	0.09	0.08	0.40	—	—	—	—	—
			1	3	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03	—	—	—	—	—
			1	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
			1	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
茶 [露地] (浸出液) 2011 年	1	WP1: 185	1	1	0.21	0.20	0.05	0.05	0.25	—	—	—	—	—
			1	3	0.08	0.08	0.02	0.02	0.10	—	—	—	—	—
			1	7	0.03	0.02	<0.01	<0.01	0.03	—	—	—	—	—
			1	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	—	—	—	—	—
茶 [露地] (荒茶) 2015 年	1	WP1: 149	1	1	—	—	—	—	—	16.3	16.0	4.17	3.96	20.0
			1	3	—	—	—	—	—	1.54	1.52	0.36	0.34	1.86
			1	7	—	—	—	—	—	0.98	0.96	0.18	0.18	1.14

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年	試験 ほ場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)									
					公的分析機関					社内分析機関				
					スピネトラム-J		スピネトラム-L		合計	スピネトラム-J		スピネトラム-L		合計
					最高値	平均値	最高値	平均値		最高値	平均値	最高値	平均値	
茶 [露地] (荒茶) 2015 年	1	WP1: 160	1	1	—	—	—	—	—	12.7	12.6	3.15	3.12	15.7
			1	3	—	—	—	—	—	2.26	2.22	0.50	0.48	2.70
			1	7	—	—	—	—	—	0.47	0.46	0.12	0.12	0.58
茶 [露地] (荒茶) 2015 年	1	WP1: 188	1	1	—	—	—	—	—	16.5	16.4	3.78	3.58	20.0
			1	3	—	—	—	—	—	9.42	9.20	1.86	1.84	11.0
			1	7	—	—	—	—	—	0.26	0.25	0.05	0.05	0.30
茶 [露地] (荒茶) 2015 年	1	WP1: 181	1	1	—	—	—	—	—	26.6	26.0	6.44	6.43	32.4
			1	3	—	—	—	—	—	3.00	2.99	0.65	0.64	3.63
			1	7	—	—	—	—	—	1.71	1.66	0.33	0.32	1.98
茶 [露地] (荒茶) 2015 年	1	WP1: 160	1	1	—	—	—	—	—	32.8	32.3	8.51	8.13	40.4
			1	3	—	—	—	—	—	3.08	2.97	0.68	0.66	3.63
			1	7	—	—	—	—	—	0.52	0.50	0.11	0.10	0.60
茶 [露地] (荒茶) 2015 年	1	WP1: 185	1	1	—	—	—	—	—	5.17	4.94	1.15	1.14	6.08
			1	3	—	—	—	—	—	0.29	0.28	0.06	0.06	0.34
			1	7	—	—	—	—	—	0.45	0.42	0.06	0.06	0.48
さんしょう [露地] (果実) 2013 年	1	WP2: 125	2	1	0.47	0.46	0.09	0.09	0.55	—	—	—	—	—
			2	3	0.17	0.16	0.01	0.01	0.17	—	—	—	—	—
			2	7	0.04	0.04	<0.01	<0.01	0.05	—	—	—	—	—
			2	14	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03	—	—	—	—	—
さんしょう [露地] (果実) 2013 年	1	WP2: 100～ 109	2	1	0.49	0.48	0.10	0.10	0.58	—	—	—	—	—
			2	3	0.35	0.34	0.06	0.06	0.40	—	—	—	—	—
			2	7	0.05	0.04	<0.01	<0.01	0.05	—	—	—	—	—
			2	14	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03	—	—	—	—	—

G：粒剤(0.50%)、WP1：水和剤(11.7%)、WP2：水和剤(25.0%)

合計：スピネトラム-J（平均値）＋スピネトラム-L（平均値）

—：実施せず

・全てのデータが定量限界未満の場合は、定量限界値の平均に<を付して記載した。

・一部に定量限界未満を含むデータの合計値を計算する場合は、定量限界値を検出したものとして計算した。

<別紙4：作物残留試験成績（海外）>

a. 比較試験

○スピネトラム

作物	使用量 (g ai/ha)	PHI(日)	サンプル数	残留値(mg/kg)	
				最高値	平均値
りんご ^a	500	7	10	0.035	0.016
りんご ^b	500	7	10	0.025	0.019
牧草	100	3	6	2.674	2.160
リーフレタス	300	1	10	0.011	0.766
オレンジ ^a	210	1	10	0.081	0.034
オレンジ ^b	210	1	10	0.015	0.046
トマト	300	1	10	0.042	0.020
てんさい上部	280	3	10	0.616	0.393
てんさい下部	280	3	10	0.014	(0.009)

○スピノサド

作物	使用量 (g ai/ha)	PHI(日)	サンプル数	残留値(mg/kg)	
				最高値	平均値
りんご ^a	522	7	10	0.042	0.019
りんご ^b	522	7	10	0.087	0.030
牧草	207	3	6	1.872	1.411
リーフレタス	522	1	10	4.154	1.962
オレンジ ^a	348	1	10	0.080	0.053
オレンジ ^b	348	1	10	0.129	0.076
トマト	522	1	10	0.050	0.034
てんさい上部	370	3	10	1.197	0.604
てんさい下部	370	3	10	0.019	(0.008)

^a：低散布液量処理（～75 gal/A）^b：高散布液量処理（～350 gal/A）

（ ）：検出限界（0.003 mg/kg）以上、定量限界（0.01 mg/kg）未満の残留量を示す。

b. 作物殘留試驗成績

[illegible]

[illegible]

[illegible]

作物名 (分析部位) 実施年	試験 ほ場 数	使用量 (gai/ha)	回 数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)											合計
					スピノシン A		スピノシン B		スピノシン D		スピノシン K		Ndemethyl spinosyn D			
					最高 値	平均 値	最高 値	平均 値	最高 値	平均 値	最高 値	平均 値	最高 値	平均 値		
グレープ フルーツ (果実) 1997 年	1	500	4	1 4	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	0.021* 0.018*	
レモン (果実) 1996 年	2 1	500	4	1 4	0.037 0.023	0.029 —	<0.01 <0.01	<0.01 —	<0.01 <0.01	<0.01 —	<0.01 <0.01	<0.01 —	<0.01 <0.01	<0.01 —	0.069 0.063	
レモン (果実) 1996 年	1	500	4	7 14	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	<0.016* ND*	
レモン (果実) 1996 年	3	500	4	1 4	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	0.049* 0.035*	
レモン (果実) 1997 年		500	4	1 4	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	0.138* 0.119*	
レモン (果実) 1996 年	1	1000	4	1 4	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	0.048* 0.009*	

* : イムノアッセイ分析結果
・合計 : スピネトラム-J (平均値) +スピネトラム-L (平均値)
— : 実施せず

<別紙 5 : 畜産物残留試験成績 (泌乳牛) >

乳汁中残留値

投与群	試料採取日 (日)	残留値(μg/g)			
		スピネトラム-J+ スピネトラム-L		スピネトラム-J+スピネトラム -L+代謝物 B+D	
		最大値	平均値	最大値	平均値
1.18 mg/kg 飼料 ¹⁾	3	0.011 ^a	(0.006)	0.017 ^a	(0.008)
	7	(0.005)	(0.005)	(0.005)	(0.005)
	10	(0.006)	(0.005)	(0.006)	(0.005)
	14	(0.006)	(0.005)	(0.006)	(0.005)
	16	(0.006)	(0.005)	(0.006)	(0.005)
	18	(0.006)	(0.005)	(0.006)	(0.005)
	20	(0.006)	(0.004)	(0.006)	(0.004)
	22	(0.005)	(0.003)	(0.005)	(0.003)
	24	(0.006)	(0.003)	(0.006)	(0.003)
	26	(0.005)	(0.005)	(0.005)	(0.005)
	28	(0.006)	(0.005)	(0.006)	(0.005)
3.69 mg/kg 飼料 ¹⁾	3	0.032	0.018	0.032	0.018
	7	0.068 ^a	0.027	0.076 ^a	0.028
	10	0.042 ^a	0.027	0.045 ^a	0.027
	14	0.042	0.025	0.042	0.025
	16	0.039	0.022	0.039	0.022
	18	0.042	0.024	0.042	0.024
	20	0.039	0.024	0.039	0.024
	22	0.045	0.023	0.045	0.023
	24	0.039	0.024	0.039	0.024
	26	0.042	0.025	0.042	0.025
	28	0.035	0.023	0.035	0.023
	31 (休薬 2 日)	0.012	(0.006)	0.012	(0.006)
	33 (休薬 4 日)	(0.005)	<0.01	(0.005)	<0.01
	35 (休薬 6 日)	(0.004)	<0.01	(0.004)	<0.01
	42 (休薬 13 日)	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003
11.5 mg/kg 飼料 ¹⁾	3	0.053	0.049	0.057	0.051
	7	0.071	0.065	0.075	0.069
	10	0.094	0.076	0.102	0.082

投与群	試料採取日 (日)	残留値(μg/g)			
		スピネトラム-J+ スピネトラム-L		スピネトラム-J+スピネトラム -L+代謝物 B+D	
		最大値	平均値	最大値	平均値
	14	0.091	0.077	0.100	0.081
	16	0.084	0.071	0.092	0.077
	18	0.079	0.070	0.084	0.074
	20	0.075	0.067	0.080	0.071
	22	0.079	0.076	0.084	0.080
	24	0.105	0.087	0.113	0.091
	26	0.091	0.076	0.096	0.079
	28	0.091	0.080	0.099	0.084
38.6 mg/kg 飼料 ¹⁾	3	0.287	0.204	0.312	0.223
	7	0.290	0.245	0.317	0.267
	10	0.411	0.279	0.447	0.303
	14	0.180	0.121	0.191	0.127
	16	0.345	0.243	0.374	0.263
	18	0.346	0.262	0.375	0.283
	20	0.379	0.257	0.408	0.274
	22	0.597 ^a	0.363	0.638 ^a	0.389
	24	0.348	0.277	0.373	0.298
	26	0.400	0.300	0.422	0.320
	28	0.403	0.294	0.433	0.317
37.6 mg/kg 飼料 ²⁾	3	0.751	0.589	0.754	0.592
	7	0.820	0.685	0.823	0.686
	10	0.795	0.700	0.805	0.707
	14	0.765	0.705	0.768	0.708
	16	0.729	0.689	0.732	0.693
	18	0.753	0.717	0.753	0.718
	20	0.722	0.715	0.722	0.716
	22	0.773 ^a	0.733	0.776 ^a	0.736
	24	1.30 ^a	1.01	1.30 ^a	1.02
	26	1.19 ^a	0.936	1.19 ^a	0.939
	28	0.935 ^a	0.866	0.941 ^a	0.869

¹⁾ : スピネトラム-J (26%)、スピネトラム-L (6%)、代謝物 B (28%)及び代謝物 D (30%)

²⁾ : スピネトラム-J 及びスピネトラム-L の合計 (86%)

^a : 2 連分析の平均値

() : 検出限界 (0.003 μg/g) 以上、定量限界 (0.01 μg/g) 未満の残留量を示す。

乳製品中残留値

投与群	試料採取日 (日)	残留値(μg/g)					
		全乳		乳脂		脱脂乳	
分析対象		スピネトラム-J+スピネトラム-L					
		最大値	平均値	最大値	平均値	最大値	平均値
3.69 mg/kg 飼料 ¹⁾	14	0.042	0.032	<0.206	0.177	<0.003	<0.003
	28	0.035	0.028	<0.260	0.221	<0.003	<0.003
38.6 mg/kg 飼料 ¹⁾	14	0.180	0.121	0.968	0.616	0.011	(0.007)
	28	0.403	0.294	2.18	1.84	0.044	0.033
37.6 mg/kg 飼料 ²⁾	14	0.765	0.705	3.67	3.09	0.072	0.060
	28	0.935	0.866	6.54	5.81	0.093	0.065
分析対象		スピネトラム-J+スピネトラム-L+代謝物 B+D					
		最大値	平均値	最大値	平均値	最大値	平均値
3.69 mg/kg 飼料 ¹⁾	14	0.042	0.032	0.218	0.188	<0.003	<0.003
	28	0.035	0.028	0.274	0.234	<0.003	<0.003
38.6 mg/kg 飼料 ¹⁾	14	0.191	0.127	1.00	0.640	0.011	(0.009)
	28	0.433	0.317	2.32	1.95	0.052	0.040
37.6 mg/kg 飼料 ²⁾	14	0.768	0.708	3.68	3.10	0.072	0.060
	28	0.941	0.869	6.56	5.84	0.093	0.065

¹⁾ : スピネトラム-J (26%)、スピネトラム-L (6%)、代謝物 B (28%)及び代謝物 D (30%)

²⁾ : スピネトラム-J 及びスピネトラム-L の合計 (86%)

() : 検出限界 (0.003 μg/g) 以上、定量限界 (0.01 μg/g) 未満の残留量を示す。

組織中残留値

投与群	残留値(μg/g)						
	腎臓	肝臓	筋肉	皮下脂肪	腸間膜脂肪	腎周囲脂肪	混合脂肪 ³⁾
分析対象	スピネトラム-J+スピネトラム-L						
1.18 mg/kg 飼料 ¹⁾	(0.006) [(0.004)]	0.011 [(0.007)]	(0.007) [(0.006)]	0.077 [0.056]	0.105 [0.100]	0.114 [0.103]	0.114 [0.090]
3.69 mg/kg 飼料 ¹⁾	0.040 [0.027]	0.057 [0.050]	0.043 [0.019]	0.522 [0.250]	0.586 [0.436]	0.691 [0.509]	0.546 [0.395]
休薬 14 日	(0.004) [<0.003]	<0.003 [<0.003]	(0.009) [(0.005)]	0.255 [0.130]	0.220 [0.092]	0.130 [0.054]	0.217 [0.093]
休薬 28 日	<0.003 [<0.003]	<0.003 [<0.003]	<0.003 [<0.003]	0.034 [0.015]	0.020 [0.012]	0.013 [(0.004)]	0.027 [0.014]
休薬 56 日	<0.003 [<0.003]	<0.003 [<0.003]	<0.003 [<0.003]	<0.003 [<0.003]	<0.003 [<0.003]	<0.003 [<0.003]	<0.003 [<0.003]
11.5 mg/kg 飼料 ¹⁾	0.074 [0.063]	0.114 [0.112]	0.086 [0.043]	0.745 [0.451]	1.22 [0.765]	1.41 [0.748]	1.25 [0.588]
38.6 mg/kg 飼料 ¹⁾	0.298 [0.279]	0.471 [0.364]	0.243 [0.151]	3.00 [1.42]	3.70 [2.51]	3.65 [2.52]	3.26 [2.10]
37.6 mg/kg 飼料 ²⁾	1.75 [1.19]	2.39 [1.43]	0.535 [0.480]	8.70 [5.24]	11.2 [9.61]	16.5 [14.1]	15.3 [11.3]
分析対象	スピネトラム-J+スピネトラム-L+代謝物 B+D						
1.18 mg/kg 飼料 ¹⁾	(0.0099) [(0.007)]	0.017 [0.013]	(0.007) [(0.006)]	0.085 [0.059]	0.112 [0.104]	0.122 [0.110]	0.121 [0.098]
3.69 mg/kg 飼料 ¹⁾	0.065 [0.046]	0.093 [0.087]	0.050 [0.024]	0.545 [0.263]	0.613 [0.460]	0.721 [0.535]	0.571 [0.416]
休薬 14 日	(0.004) [<0.003]	<0.003 [<0.003]	(0.009) [(0.005)]	0.259 [0.131]	0.220 [0.092]	0.130 [0.055]	0.217 [0.093]
休薬 28 日	<0.003 [<0.003]	<0.003 [<0.003]	<0.003 [<0.003]	0.034 [0.015]	0.020 [0.012]	0.013 [(0.004)]	0.027 [0.014]
休薬 56 日	<0.003 [<0.003]	<0.003 [<0.003]	<0.003 [<0.003]	<0.003 [<0.003]	<0.003 [<0.003]	<0.003 [<0.003]	<0.003 [<0.003]
11.5 mg/kg 飼料 ¹⁾	0.124 [0.106]	0.215 [0.200]	0.100 [0.054]	0.812 [0.483]	1.29 [0.806]	1.49 [0.792]	1.33 [0.624]
38.6 mg/kg 飼料 ¹⁾	0.565 [0.466]	0.933 [0.677]	0.287 [0.208]	3.12 [1.51]	3.89 [2.65]	3.84 [2.67]	3.44 [2.22]

投与群	残留値(μg/g)						
	腎臓	肝臓	筋肉	皮下脂肪	腸間膜脂肪	腎周囲脂肪	混合脂肪 ³⁾
37.6 mg/kg 飼料 ²⁾	1.79 [1.23]	2.57 [1.53]	0.543 [0.491]	8.75 [5.27]	11.3 [9.66]	16.6 [14.2]	15.4 [11.3]

1) : スピネトラム-J (26%)、スピネトラム-L (6%)、代謝物 B (28%)及び代謝物 D (30%)

2) : スピネトラム-J 及びスピネトラム-L の合計 (86%)

3) : 皮下脂肪、腸間膜脂肪及び腎周囲脂肪を等量含む。

上段 : 最大値、下段[] : 平均値

() : 検出限界 (0.003 μg/g) 以上、定量限界 (0.01 μg/g) 未満の残留量を示す。

＜別紙 6：推定摂取量＞

作物名	残留値 (mg/kg)	国民平均 (体重：55.1 kg)		小児(1～6 歳) (体重：16.5 kg)		妊婦 (体重：58.5 kg)		高齢者(65 歳以上) (体重：56.1 kg)	
		ff (g/人/日)	摂取量 (μg/人/日)	ff (g/人/日)	摂取量 (μg/人/日)	ff (g/人/日)	摂取量 (μg/人/日)	ff (g/人/日)	摂取量 (μg/人/日)
だいこん類 (葉)	3.40	1.7	5.78	0.6	2.04	3.1	10.5	2.8	9.52
かぶ類 (根)	0.03	2.8	0.08	0.8	0.02	0.1	0.00	5.0	0.15
かぶ類 (葉)	1.38	0.3	0.41	0.1	0.14	0.1	0.14	0.6	0.83
はくさい	0.36	17.7	6.37	5.1	1.84	16.6	5.98	21.6	7.78
キャベツ	0.18	24.1	4.34	11.6	2.09	19.0	3.42	23.8	4.28
こまつな	2.46	5.0	12.3	1.8	4.43	6.4	15.7	6.4	15.7
きょうな	2.58	2.2	5.68	0.4	1.03	1.4	3.61	2.7	6.97
チンゲンサイ	1.60	1.8	2.88	0.7	1.12	1.8	2.88	1.9	3.04
はなやさい (カリフラワー)	0.11	0.5	0.06	0.2	0.02	0.1	0.01	0.5	0.06
はなやさい (ブロッコリー)	0.95	5.2	4.94	3.3	3.14	5.5	5.23	5.7	5.42
その他のあぶら な科野菜	4.80	3.4	16.3	0.6	2.88	0.8	3.84	4.8	23.0
しゅんぎく	6.43	1.5	9.65	0.3	1.93	2.6	16.7	2.5	16.1
レタス	4.30	9.6	41.3	4.4	18.9	11.4	49.0	9.2	39.6
その他のきく 科野菜	11.0	1.5	16.5	0.1	1.10	0.6	6.60	2.6	28.6
ねぎ	0.13	9.4	1.22	3.7	0.48	6.8	0.88	10.7	1.39
にら	0.70	2.0	1.40	0.9	0.63	1.8	1.26	2.1	1.47
アスパラガス	0.06	1.7	0.10	0.7	0.04	1.0	0.06	2.5	0.15
その他のゆり科 野菜	0.54	0.6	0.32	0.1	0.05	0.2	0.11	1.2	0.65
セロリ	1.61	1.2	1.93	0.6	0.97	0.3	0.48	1.2	1.93
トマト	0.27	32.1	8.67	19.0	5.13	32.0	8.64	36.6	9.88
ピーマン	0.30	4.8	1.44	2.2	0.66	7.6	2.28	4.9	1.47
なす	0.05	12.0	0.60	2.1	0.11	10.0	0.50	17.1	0.86
その他のなす 科野菜	0.76	1.1	0.84	0.1	0.08	1.2	0.91	1.2	0.91
きゅうり	0.07	20.7	1.45	9.6	0.67	14.2	0.99	25.6	1.79
かぼちゃ	0.05	9.3	0.47	3.7	0.19	7.9	0.40	13.0	0.65
すいか	0.04	7.6	0.30	5.5	0.22	14.4	0.58	11.3	0.45

作物名	残留値 (mg/kg)	国民平均 (体重：55.1 kg)		小児(1～6 歳) (体重：16.5 kg)		妊婦 (体重：58.5 kg)		高齢者(65 歳以上) (体重：56.1 kg)	
		ff (g/人/日)	摂取量 (μg/人/日)	ff (g/人/日)	摂取量 (μg/人/日)	ff (g/人/日)	摂取量 (μg/人/日)	ff (g/人/日)	摂取量 (μg/人/日)
ほうれんそう	4.82	12.8	61.7	5.9	28.4	14.2	68.4	17.4	83.9
未成熟 えんどう	0.64	1.6	1.02	0.5	0.32	0.2	0.13	2.4	1.54
未成熟 インゲン	0.32	2.4	0.77	1.1	0.35	0.1	0.03	3.2	1.02
えだまめ	0.13	1.7	0.22	1.0	0.13	0.6	0.08	2.7	0.35
なつみかんの 果実全体	0.10	1.3	0.13	0.7	0.07	4.8	0.48	2.1	0.21
その他のかん きつ類果実	0.23	5.9	1.36	2.7	0.62	2.5	0.58	9.5	2.19
りんご	0.14	24.2	3.39	30.9	4.33	18.8	2.63	32.4	4.54
日本なし	0.12	6.4	0.77	3.4	0.41	9.1	1.09	7.8	0.94
ネクタリン	0.12	0.1	0.01	0.1	0.01	0.1	0.01	0.1	0.01
スモモ (含プ ルーン)	0.05	1.1	0.06	0.7	0.04	0.6	0.03	1.1	0.06
うめ	0.32	1.4	0.45	0.3	0.10	0.6	0.19	1.8	0.58
おうとう (チェリー)	0.15	0.4	0.06	0.7	0.11	0.1	0.02	0.3	0.05
イチゴ	0.58	5.4	3.13	7.8	4.52	5.2	3.02	5.9	3.42
ブルーベリー	0.17	1.1	0.19	0.7	0.12	0.5	0.09	1.4	0.24
その他のベリ ー類果実	0.11	0.1	0.01	0.1	0.01	0.2	0.02	0.1	0.01
ぶどう	0.79	8.7	6.87	8.2	6.48	20.2	16.0	9.0	7.11
かき	0.07	9.9	0.69	1.7	0.12	3.9	0.27	18.2	1.27
マンゴー	0.09	0.3	0.03	0.3	0.03	0.1	0.01	0.3	0.03
その他の果実	0.14	1.2	0.17	0.4	0.06	0.9	0.13	1.7	0.24
茶	0.40	6.6	2.64	1.0	0.40	3.7	1.48	9.4	3.76
その他の スパイス	1.02	0.1	0.10	0.1	0.10	0.1	0.10	0.2	0.20
牛・筋肉と脂肪	0.114	15.3	1.74	9.7	1.11	20.9	2.38	9.9	1.13
牛・肝臓	0.011	0.1	0.00	0.0	0.00	1.4	0.02	0.0	0.00
牛・腎臓	0.006	0.0	0.00	0.0	0.00	0.0	0.00	0.0	0.00
牛・その他 食用部分	0.114	0.5	0.06	0.0	0.00	3.4	0.39	0.4	0.05

作物名	残留値 (mg/kg)	国民平均 (体重：55.1 kg)		小児(1～6 歳) (体重：16.5 kg)		妊婦 (体重：58.5 kg)		高齢者(65 歳以上) (体重：56.1 kg)	
		ff (g/人/日)	摂取量 (μg/人/日)	ff (g/人/日)	摂取量 (μg/人/日)	ff (g/人/日)	摂取量 (μg/人/日)	ff (g/人/日)	摂取量 (μg/人/日)
豚・筋肉と脂肪	0.114	42.0	4.79	33.4	3.81	43.2	4.92	30.6	3.49
豚・肝臓	0.011	0.1	0.00	0.5	0.01	0.0	0.00	0.1	0.00
豚・腎臓	0.006	0.0	0.00	0.0	0.00	0.0	0.00	0.0	0.00
豚・その他 食用部分	0.114	0.6	0.07	0.3	0.03	0.1	0.01	0.4	0.05
その他陸棲哺乳類・筋肉と脂肪と肝臓と腎臓と食用部分	0.114	0.4	0.05	0.1	0.01	0.4	0.05	0.4	0.05
乳	0.011	264	2.91	332	3.65	365	4.01	216	2.38
合計			239		105		247		301

- ・ 作物残留値は、登録又は申請されている使用時期・回数による各試験区の平均残留値のうち、スピネトラム（スピネトラム・J＋スピネトラム・L の合計）の最大値を用いた。
- ・ 牛に関する畜産物残留値は、飼料として利用される作物におけるスピネトラムの残留値を考慮して、畜産物残留試験の最小量投与群におけるスピネトラムの最大残留値を用いた。
- ・ 「ff」：平成 17～19 年の食品摂取頻度・摂取量調査(参照 57)の結果に基づく農産物摂取量（g/人/日）。
- ・ 「摂取量」：残留値及び食品摂取量から求めたスピネトラムの推定摂取量（μg/人/日）。
- ・ 『レタス』については、レタス、リーフレタス、サラダ菜のうち残留値の高いサラダ菜の値を用いた。
- ・ 『きょうな』については、みずなの値を用いた。
- ・ 『その他のあぶらな科野菜』については、なばな、オータムボエムのうち残留値の高いオータムボエムの値を用いた。
- ・ 『その他のきく科野菜』については、食用ぎく（花）、きく（葉）のうち残留値の高いきく（葉）の値を用いた。
- ・ 『その他のゆり科野菜』については、にら（花茎）、葉たまねぎのうち残留値の高い葉たまねぎの値を用いた。
- ・ 『その他のなす科野菜』については、甘長とうがらし、ししとうのうち残留値の高いししとうの値を用いた。
- ・ 『その他のかんきつ類果実』については、かぼす、すだちのうち残留値の高いかぼすの値を用いた。
- ・ 『その他のベリー類果実』については、アロニアの値を用いた。
- ・ 『その他の果実』については、いちじくの値を用いた。
- ・ 『茶』については、浸出液の値を用いた。
- ・ 『その他のスパイス』については、みかんの皮、さんしょうのうち残留値の高いみかんの皮の値を用いた。
- ・ 『牛・その他食用部位』については、泌乳牛の各組織のうち残留値の高い脂肪の値を用いた。
- ・ 豚の残留値は、泌乳牛に係る推定摂取量の算出に用いた残留値を用いた。
- ・ 『その他陸棲哺乳類の食用部位』については、泌乳牛に係る推定摂取量の算出に用いた残留値のうち最大値を用いた。
- ・ 水稲（玄米）、未成熟とうもろこし、だいこん（根部）、だいず、いんげんまめ、ばれいしょ、かんしょ、さといも、てんさい、たまねぎ、にんにく、らっきょう、にんじん、食用ほおずき、メロン、みかん（果肉）及びもも（果肉）並びにくりにについては、全データが定量限界未満であったため摂取量の計算に用いなかった。

<参照>

- 1 農薬抄録スピネトラム（殺虫剤）（平成 20 年 1 月 25 日改訂）：住友化学株式会社（インポートトレランス申請に係る資料）、一部公表
- 2 スピネトラム-J のラットにおける代謝試験 (GLP 対応) :Dow AgroScience LLC、2005 年、未公表
- 3 スピネトラム-J のラットにおける代謝試験 (GLP 対応) : The Dow Chemical Company、2007 年、未公表
- 4 スピネトラム-L のラットにおける代謝試験 (GLP 対応) :Dow AgroScience LLC、2005 年、未公表
- 5 スピネトラム-L のラットにおける代謝試験 (GLP 対応) : The Dow Chemical Company、2007 年、未公表
- 6 スピネトラムのレタスにおける代謝試験 (GLP 対応) : Dow AgroScience LLC、2005 年、未公表
- 7 スピネトラムのカブにおける代謝試験 (GLP 対応) :Dow AgroScience LLC、2005 年、未公表
- 8 スピネトラムのりんごにおける代謝試験 (GLP 対応) : Dow AgroScience LLC、2005 年、未公表
- 9 スピネトラムのイネにおける代謝試験 (GLP 対応) :Dow AgroScience LLC、2007 年、未公表
- 10 スピネトラムの好氣的湛水土壤中運命試験 (GLP 対応) :Dow AgroScience LLC、2007 年、未公表
- 11 スピネトラムの好氣的土壤中運命試験 (GLP 対応) :Dow AgroScience LLC、2005 年、未公表
- 12 スピネトラムの土壌表面光分解試験 (GLP 対応) : Dow AgroScience LLC、2005 年、未公表
- 13 スピネトラム及び *N*-脱メチル化代謝物の土壌吸脱着性試験 (GLP 対応) : Dow AgroScience LLC、2007 年、未公表
- 14 スピネトラムの加水分解運命試験 (GLP 対応) : Dow AgroScience LLC、2005 年、未公表
- 15 スピネトラムの緩衝液中における水中光分解試験 (GLP 対応) : Dow AgroScience LLC、2005 年、未公表
- 16 スピネトラムの自然水中における水中光分解試験 (GLP 対応) : Dow AgroScience LLC、2007 年、未公表
- 17 土壌残留性試験：住友化学株式会社、2006 年、未公表
- 18 作物残留試験成績（水稻、トマト等）：住友化学株式会社、2006～2007 年、未公表
- 19 XDE-175 およびスピノサドのりんご、リーフレタス、オレンジ、てんさいおよびトマトにおける作物残留性試験：Dow AgroScience LLC、2005 年、未公表

- 20 スピノサド米国 Oranges 作物残留試験 (RES96023) まとめ : 住友化学株式会社、2008 年、未公表
- 21 後作物残留性試験成績 : 住友化学株式会社、2006～2007 年、未公表
- 22 スピネトラム原体の生体機能に及ぼす影響 (GLP 対応) : 株式会社三菱化学安全科学研究所、2007 年、未公表
- 23 スピネトラム原体のラットにおける急性経口毒性試験 (GLP 対応) : The Dow Chemical Company、2005 年、未公表
- 24 スピネトラム原体のラットにおける急性経皮毒性試験 (GLP 対応) : The Dow Chemical Company、2005 年、未公表
- 25 スピネトラム原体のラットにおける急性吸入毒性試験 (GLP 対応) : The Dow Chemical Company、2005 年、未公表
- 26 代謝物 *N*-formyl-175-J 及び *N*-formyl-175-L のラットにおける急性経口毒性試験 (GLP 対応) : Eurofins Product Safety Laboratories、2007 年、未公表
- 27 代謝物 *N*-demethyl-175-J のラットにおける急性経口毒性試験 (GLP 対応) : Eurofins Product Safety Laboratories、2007 年、未公表
- 28 スピネトラム原体のラットを用いた急性神経毒性試験 (GLP 対応) : The Dow Chemical Company、2005 年、未公表
- 29 スピネトラム原体のウサギを用いた眼刺激性試験 (GLP 対応) : The Dow Chemical Company、2005 年、未公表
- 30 スピネトラム原体のウサギを用いた皮膚刺激性試験 (GLP 対応) : The Dow Chemical Company、2005 年、未公表
- 31 スピネトラム原体のマウスを用いた LLNA 試験 (Local Lymph Node Assay) (GLP 対応) : The Dow Chemical Company、2005 年、未公表
- 32 ラットを用いた飼料混入投与による 90 日間反復経口投与毒性試験 (GLP 対応) : The Dow Chemical Company、2005 年、未公表
- 33 スピネトラム原体のイヌを用いた飼料混入投与による 90 日間反復経口投与毒性試験 (GLP 対応) : The Dow Chemical Company、2005 年、未公表
- 34 スピネトラム原体のイヌを用いた飼料混入投与による 1 年間反復経口投与毒性試験 (GLP 対応) : The Dow Chemical Company、2006 年、未公表
- 35 スピネトラム原体のラットを用いた飼料混入投与による 1 年間反復投与毒性／発がん性併合試験 (GLP 対応) : The Dow Chemical Company、2007 年、未公表
- 36 スピネトラム原体のマウスを用いた飼料混入投与による発がん性試験 : The Dow Chemical Company、2007 年、未公表
- 37 スピネトラム原体のラットを用いた飼料混入投与による 12 カ月間反復経口投与神経毒性試験 (GLP 対応) : The Dow Chemical Company、2007 年、未公表
- 38 スピネトラム原体のラットを用いた繁殖毒性試験 (GLP 対応) : The Dow Chemical Company、2006 年、未公表
- 39 ラットにおける催奇形性試験 (GLP 対応) : The Dow Chemical Company、2005

年、未公表

- 40 スピネトラム原体のウサギにおける催奇形性試験 (GLP 対応) : The Dow Chemical Company、2005 年、未公表
- 41 スピネトラム原体の細菌を用いる復帰突然変異試験 (GLP 対応) : Covance Laboratories Inc.、2005 年、未公表
- 42 スピネトラム原体のラットリンパ球を用いた *in vitro* 染色体異常試験 (GLP 対応) : The Dow Chemical Company、2005 年、未公表
- 43 スピネトラム原体のマウスを用いた小核試験 (GLP 対応) : The Dow Chemical Company、2005 年、未公表
- 44 代謝物 N-formyl-175-J 及び N-formyl-175-L の細菌を用いる復帰突然変異試験 (GLP 対応) : Covance Laboratories Inc.、2007 年、未公表
- 45 代謝物 N-demethyl-175-J の細菌を用いる復帰突然変異試験 (GLP 対応) : Covance Laboratories Inc.、2007 年、未公表
- 46 食品健康影響評価について (平成 20 年 3 月 3 日付け厚生労働省発食安第 0303013 号)
- 47 食品健康影響評価の結果の通知について (平成 21 年 1 月 15 日付け府食第 44 号)
- 48 農薬抄録スピネトラム (殺虫剤) (平成 21 年 1 月 30 日作成) : 住友化学株式会社、2009 年、一部公表
- 49 チャイニーズハムスター卵巣由来細胞 (CHO) を用いた遺伝子突然変異試験 (GLP 対応) : The Dow Chemical Company、2005 年、未公表
- 50 食品健康影響評価について (平成 21 年 8 月 4 日付け厚生労働省発食安 0804 第 6 号)
- 51 食品健康影響評価の結果の通知について (平成 22 年 2 月 25 日付け府食第 140 号)
- 52 食品、添加物等の規格基準 (昭和 34 年厚生省告示第 370 号) の一部を改正する件 (平成 23 年 2 月 16 日付け厚生労働省告示第 31 号)
- 53 食品健康影響評価について (平成 24 年 1 月 19 日付け厚生労働省発食安 0119 第 3 号)
- 54 農薬抄録スピネトラム (殺虫剤) (平成 21 年 1 月 30 日作成) : 住友化学株式会社、2009 年、一部公表
- 55 作物残留試験成績 (だいこん、はくさい等) : 住友化学株式会社、2008~2010 年、未公表
- 56 スピネトラムのインポートトレランス申請について : 住友化学株式会社、未公表
- 57 平成 17~19 年の食品摂取頻度・摂取量調査 (薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会資料、2014 年 2 月 20 日)
- 58 食品健康影響評価の結果の通知について (平成 24 年 6 月 22 日付け府食第 611 号)
- 59 食品、添加物等の規格基準 (昭和 34 年厚生省告示第 370 号) の一部を改正する件 (平成 25 年 10 月 22 日付け厚生労働省告示第 337 号)
- 60 食品健康影響評価について (平成 25 年 8 月 19 日付け厚生労働省発食安 0819 第 4

号)

- 61 農薬抄録スピネトラム（殺虫剤）（平成 21 年 1 月 30 日作成）：住友化学株式会社、2009 年、一部公表
- 62 作物残留試験成績（大豆、かんしょ等）：住友化学株式会社、2009～2011 年、未公表
- 63 食品健康影響評価の結果の通知について（平成 25 年 11 月 11 日付け府食第 913 号）
- 64 食品、添加物等の規格基準（昭和 34 年厚生省告示第 370 号）の一部を改正する件（平成 26 年 10 月 3 日付け厚生労働省告示第 390 号）
- 65 食品、添加物等の規格基準（昭和 34 年厚生省告示第 370 号）の一部を改正する件（平成 27 年 2 月 20 日付け厚生労働省告示第 30 号）
- 66 食品健康影響評価について（平成 28 年 5 月 10 日付け厚生労働省発生食 0510 第 5 号）
- 67 農薬抄録スピネトラム（殺虫剤）（平成 27 年 2 月 24 日改訂）：住友化学株式会社、2015 年、一部公表
- 68 JMPR: “Spinetoram”, Pesticide residues in Food-2008, Evaluations 2008, Part II-Toxicological: 327～368 (2008)
- 69 JMPR: “Spinetoram”, Pesticide residues in Food 2008, Report 2008: 293～311 (2008)
- 70 JMPR: “Spinetoram”, Pesticide residues in Food 2008, Evaluations 2008, Part I-Residues: 1639～1778 (2008)
- 71 JMPR: “Spinetoram”, Pesticide residues in Food 2012, Report 2012: 337～346 (2012)
- 72 JMPR: “Spinetoram”, Pesticide residues in Food 2012, Evaluations 2012, Part I-Residues: 1919～2032 (2012)
- 73 EPA: Memorandum Spinetoram Risk Assessment for Cat/Kitten Spot-On Use: 1～37 (2010)
- 74 EPA: Federal Register: “Spinetoram” Vol.80, No.247: 80275～80283 (2015)
- 75 EFSA: Conclusion on the peer review of the pesticide risk assessment of the active substance spinetoram (2013)
- 76 食品健康影響評価の結果の通知について（平成 28 年 11 月 22 日付け府食第 691 号）
- 77 食品、添加物等の規格基準（昭和 34 年厚生省告示 370 号）の一部を改正する件（平成 30 年 2 月 28 日付け厚生労働省告示第 38 号）
- 78 食品健康影響評価について（平成 30 年 4 月 18 日付け厚生労働省発生食 0418 第 25 号）
- 79 農薬抄録スピネトラム（殺虫剤）（平成 29 年 3 月 31 日改訂）：住友化学株式会社、2017 年、一部公表

- 80 スピネトラムの泌乳ヤギにおける代謝試験 (GLP 対応) : Dow AgroSciences LLC、2005 年、未公表
- 81 スピネトラムの産卵鶏における代謝試験 (GLP 対応) : Dow AgroSciences LLC、2005 年、未公表
- 82 作物残留試験成績 (さといも、しゅんぎく等) : 住友化学株式会社、2008～2014 年、未公表
- 83 スピネトラムの泌乳牛における残留試験 (GLP 対応) : Dow AgroSciences LLC、2007 年、未公表
- 84 食品健康影響評価の結果の通知について (平成 30 年 6 月 26 日付け府食第 427 号)
- 85 食品、添加物等の規格基準 (昭和 34 年厚生省告示 370 号) の一部を改正する件 (令和元年 9 月 20 日付け厚生労働省告示第 123 号)
- 86 食品健康影響評価について (令和 2 年 7 月 28 日付け厚生労働省発生食 0728 第 4 号)
- 87 農薬抄録スピネトラム (殺虫剤) (平成 30 年 6 月 26 日改訂) : 住友化学株式会社、2018 年、一部公表
- 88 作物残留試験成績 (未成熟とうもろこし、ぶどう等) : 住友化学株式会社、2013～2017 年、未公表

消 食 基 第 1 6 5 号
令 和 7 年 3 月 6 日

食品衛生基準審議会
会長 曾根 智史 殿

内閣総理大臣 石破 茂
(公 印 省 略)

諮問書

食品衛生法（昭和 22 年法律第 233 号）第 13 条第 1 項の規定に基づき、下記の事項について、貴会の意見を求めます。

記

次に掲げる農薬等の食品中の残留基準の設定について

動物用医薬品プラレトリン
農薬トリフロキシストロビン
農薬ブタクロール

以上

令和7年3月7日

農薬・動物用医薬品部会

部会長 堤 智昭 殿

食品衛生基準審議会

会長 曾根 智史

農薬等の食品中の残留基準の設定について（付議）

標記について、下記のとおり内閣総理大臣から諮問があったので、食品衛生基準審議会規程第6条の規定に基づき、貴部会において審議方願いたい。

記

令和7年3月6日付け消食基第165号

次に掲げる農薬等の食品中の残留基準の設定について

動物用医薬品プラレトリン

農薬トリフロキシストロビン

農薬ブタクロール

以上

ブタクロール

今般の残留基準の検討については、農林水産大臣から食品安全委員会に対し、農薬取締法（昭和23年法律第82号）に基づく農薬の再評価に係る食品健康影響評価の要請がなされたことに伴い、食品安全委員会から農林水産大臣及び厚生労働大臣に食品健康影響評価の結果の通知がなされたこと、並びに農林水産省から消費者庁に農薬の再評価に係る連絡がなされたことから、農薬・動物用医薬品部会（以下「本部会」という。）において審議を行い、以下の報告を取りまとめるものである。

なお、今般の残留基準の設定に当たって、現行の残留基準の見直しが行われることから、本部会での審議後に内閣総理大臣から食品安全委員会に対して食品健康影響評価の要請を行うこととしている。

1. 概要

（１）品目名：ブタクロール[Butachlor (ISO)]

（２）分 類：農薬

（３）用 途：除草剤

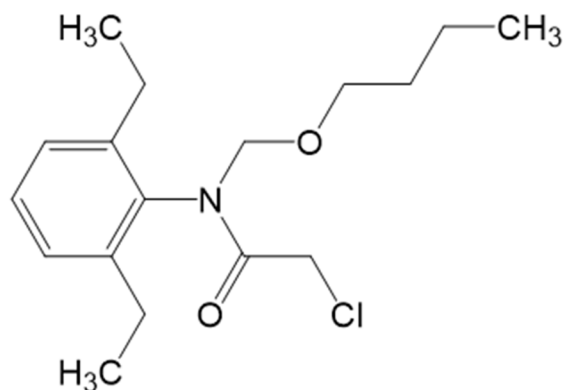
酸アミド系除草剤である。超長鎖脂肪酸の合成阻害作用により、成長部位での正常な細胞分裂を阻害することによって植物を枯死させると考えられている。

（４）化学名及びCAS 番号

N-(Butoxymethyl)-2-chloro-2',6'-diethylacetanilide (IUPAC)

Acetamide, *N*-(butoxymethyl)-2-chloro-*N*-(2,6-diethylphenyl)-
(CAS : No. 23184-66-9)

（５）構造式及び物性



分子式	$C_{17}H_{26}ClNO_2$
分子量	311.8
水溶解度	1.6×10^{-2} g/L (20°C)
分配係数	$\log_{10}P_{ow} = 4.42$ (25°C)

2. 適用の範囲及び使用方法

本剤の国内の適用の範囲及び使用法は、別紙1のとおり。

3. 代謝試験

(1) 植物代謝試験

植物代謝試験が、水稻で実施されており、可食部で親化合物の残留が認められず、10%TRR^{注)}以上認められた代謝物は、代謝物[20]であった。

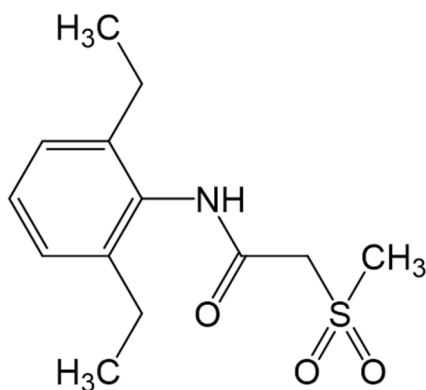
注) %TRR：総放射性残留物 (TRR：Total Radioactive Residues) 濃度に対する比率 (%)

【代謝物等略称一覧】

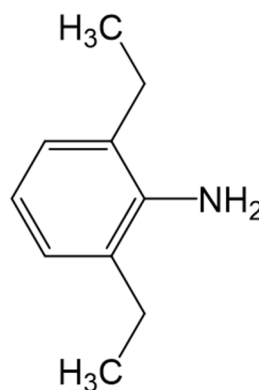
略称	JMPR評価書の略称	化学名
[20]	—	N-(2,6-ジエチルフェニル)-2-(メチルスルホニル)アセトアミド
[21] ^{注)}	—	2,6-ジエチルアニリン

—：JMPRで評価されていない。

注) 分析対象化合物



代謝物[20]



化合物[21]

注) 残留試験の分析対象となっている代謝物及び化合物について構造式を明記した。

4. 作物残留試験

(1) 分析の概要

【国内】

① 分析対象物質

- ・ブタクロール
- ・加水分解により化合物[21]に変換される代謝物

② 分析法の概要

i) ブタクロール

試料からアセトンで抽出し、ヘキサン転溶及びアセトニトリル/ヘキサン分配のどちらか一方又は両方を行い、フロリジルカラム、アルミナカラム又はシリカゲルカラムを用いて精製した後、高感度窒素・リン検出器付きガスクロマトグラフ (GC-NPD) 又は電子捕獲型検出器付きガスクロマトグラフ (GC-ECD) で定量する。

または、試料からアセトンで抽出し、溶媒留去後、硫酸アンモニウム飽和下酢酸エチルで酢酸エチルに転溶する。次いでゲル浸透クロマトグラフィー (GPC) にて分取後、グラファイトカーボン/アミノプロピルシリル化シリカゲル (NH₂) 積層カラムを用いて精製した後、ガスクロマトグラフ・質量分析計 (GC-MS) で定量する。

定量限界 : 0.005~0.01 mg/kg

ii) ブタクロール及び加水分解により化合物[21]に変換される代謝物*

*代謝物[20]を含む

試料からアセトニトリル・水 (4 : 1) 混液で抽出る過後、アセトニトリルを留去する。残液を還流蒸留装置にセットし、受器にはあらかじめ1.25 mol/L硫酸を入れておく。50%水酸化ナトリウム溶液を加え、約1時間加熱還流後、留液が30 mLになるまで加熱蒸留する。さらに純水50 mLを加え約60 mL蒸留する。留液をアルカリ性とし、酢酸エチルに転溶し、減圧濃縮後、残留物に*n*-ヘキサンを加えて溶かし、シリカゲルカラムクロマトグラフィーを用いて精製した後、化合物[21]をGC-NPDで定量する。なお、化合物[21]の分析値は換算係数2.09を用いて、ブタクロール濃度に換算した値として示した。

定量限界 : 0.01 mg/kg (ブタクロール換算濃度)

(2) 作物残留試験結果

国内作物残留試験成績については、移植水稻の試験成績を追加した。試験成績の概要を別紙2に示す。

5. 魚介類における推定残留濃度

本剤については水系を通じた魚介類への残留が想定されることから、本剤の水域環境中予測濃度^{注1)}及び生物濃縮係数 (BCF : Bioconcentration Factor) から、以下のとおり魚介類中の推定残留濃度を算出した。

(1) 水域環境中予測濃度

本剤は水田においてのみ使用される。水田PECtier2^{注2)}は、0.23 µg/Lと示されている。

(2) 生物濃縮係数

^{14}C 標識ブタクロール (0.13 mg/L) を用いた35日間の取込期間及び14日間の排泄期間を設定したブルーギルの魚類濃縮性試験が実施された。本試験の結果から、 BCF_{ss} ^{注3)} は 162 L/kgと示されている。

(3) 推定残留濃度

(1) 及び (2) の結果から、ブタクロールの水域環境中予測濃度 : 0.23 $\mu\text{g/L}$ 、 BCF : 162 L/kgとし、下記のとおり推定残留濃度を算出した。

$$\text{推定残留濃度} = 0.23 \mu\text{g/L} \times (162 \text{ L/kg} \times 5) = 186 \mu\text{g/kg} = 0.19 \text{ mg/kg}$$

注1) 農薬取締法第4条第1項第8号に基づく水域の生活環境動植物の被害防止に係る農薬登録基準設定における規定に準拠

注2) 水田中や河川中での農薬の分解や土壌・底質への吸着、止水期間等を考慮して算出

注3) 定常状態における被験物質の魚体中濃度と水中濃度の比で求められた BCF

(参考) 平成19年度厚生労働科学研究費補助金食品の安心・安全確保推進研究事業「食品中に残留する農薬等におけるリスク管理手法の精密化に関する研究」分担研究「魚介類への残留基準設定法」報告書

6. 許容一日摂取量 (ADI) 及び急性参照用量 (ARfD) の評価

食品安全基本法 (平成15年法律第48号) 第24条第3項の規定に基づき、食品安全委員会あて意見を求めたブタクロールに係る食品健康影響評価において、以下のとおり評価されている。

(1) ADI

無毒性量 : 1.0 mg/kg 体重/day

(動物種) ラット

(投与方法) 混餌

(試験の種類) 慢性毒性/発がん性併合試験②及び③の総合評価

(期間) 2年間

安全係数 : 100

ADI : 0.01 mg/kg 体重/day

ラットを用いた慢性毒性/発がん性併合試験②において、3,000 ppm 投与群の雌で胃における腫瘍並びに同投与群の雄及び1,000 ppm 以上投与群の雌で甲状腺及び鼻部における腫瘍の発生頻度が増加した。これらの腫瘍の発生メカニズムに関する試験を総合的に評価した結果及びブタクロールに生体にとって問題となる遺伝毒性はないことから、これらの腫瘍の発生メカニズムは遺伝毒性によるものではなく、評価に当たり閾値を設定することは可能であると考えられた。また、いずれの腫瘍においても、その発生メカニズムからヒトへの外挿性又はヒトでの感受性は低いと考えられた。

(2) ARfD

無毒性量：49 mg/kg 体重/day

(動物種) ウサギ

(投与方法) 強制経口

(試験の種類) 発生毒性試験

安全係数：100

ARfD：0.49 mg/kg 体重

7. 諸外国における状況

JMPR における毒性評価はなされておらず、国際基準も設定されていない。

米国、カナダ、EU、豪州及びニュージーランドについて調査した結果、いずれの国及び地域においても基準値は設定されていない。

8. 残留規制

(1) 残留の規制対象

ブタクロールのみとする。

植物代謝試験において、可食部（玄米）で10%TRR以上認められた代謝物は、代謝物[20]であったが、作物残留試験において、親化合物及び代謝物[20]を含む化合物[21]に変換される代謝物の濃度は、定量限界未満であったことから、代謝物[20]は残留の規制対象には含めないこととする。

(2) 基準値案

別紙3のとおりである。

9. 暴露評価

(1) 暴露評価対象

ブタクロールのみとする。

直播水稻を用いた植物代謝試験において、可食部（玄米）で10%TRR以上認められた代謝物は、代謝物[20]であったが、別の移植水稻を用いた植物代謝試験（3葉期の水稻に田面処理し、湛水条件で栽培。148～156日後に収穫）においては、玄米で同定された代謝物（代謝物[20]を含む）は、いずれも0.001～0.005 mg/kg（0.8～4.0%TRR）であった。また、作物残留試験において、親化合物及び代謝物[20]を含む化合物[21]に変換される代謝物の分析が行われており、代謝物[20]は0.01 mg/kg未満であったことから、暴露評価対象には含めないこととする。

なお、食品安全委員会は、食品健康影響評価において、農産物及び魚介類中の暴露評価対象物質をブタクロール（親化合物のみ）としている。

(2) 暴露評価結果

① 長期暴露評価

1日当たり摂取する農薬の量の ADI に対する比は、以下のとおりである。詳細な暴露評価は別紙4参照。

	EDI／ADI (%) 注)
国民全体 (1歳以上)	1.3
幼小児 (1～6歳)	1.9
妊婦	0.7
高齢者 (65歳以上)	1.5

注) 各食品の平均摂取量は、平成17～19年度の食品摂取頻度・摂取量調査の特別集計業務報告書による。

EDI試算法：作物残留試験成績の中央値 (STMR) 等×各食品の平均摂取量

② 短期 (1日経口) 暴露評価

各食品の短期推定摂取量 (ESTI) を算出したところ、国民全体 (1歳以上) 及び幼小児 (1～6歳) のそれぞれにおける摂取量は急性参照用量 (ARfD) を超えていない^{注)}。詳細な暴露評価は別紙5-1及び5-2参照。

注) 作物残留試験における中央値 (STMR) を用い、平成17～19年度の食品摂取頻度・摂取量調査及び平成22年度の厚生労働科学研究の結果に基づき ESTI を算出した。